

人権に関する市民意識調査
報 告 書

令和7年3月

瑞 浪 市

目次

I 調査の概要

1 調査の目的

瑞浪市の人権に関する施策を総合的、体系的に推進するための方針と基本的施策の方向付けを行う「第2次瑞浪市人権施策推進指針」は、令和7年度をもって計画期間が5年経過することから中間見直しを行い、これまでの取り組み状況を踏まえ、市民を対象とした人権に関する意識調査を実施します。

2 調査対象

瑞浪市在住の18歳以上90歳未満の方の中から無作為に1,000名を抽出

3 調査期間

令和6年9月

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	1,000通	459通 (白紙回答数 0通)	45.9%

6 標本誤差

市民意識調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになります。今回は無作為に抽出した 1,000 人の市民のうち 459 人から回答を得ました。

この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算定し、検証します。

標本誤差“ δ ”は次の式で算定されます。

$$\delta = \kappa \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

記号の説明

記号	項目	内容
δ	標本誤差	上記による
M	母集団	18歳以上90歳未満の人口数：29,745人 (令和6年9月1日現在)
n	有効回収数	459通
κ	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時が最も大きな値となる

標本誤差算定結果

結果の比率 p : (1-p)	50% : 50%	40% : 60%	30% : 70%	20% : 80%	10% : 90%
標本誤差 (δ)	4.54%	4.45%	4.16%	3.63%	2.72%

標本誤差の算定結果は、最もバラツキが大きくなる回答比率の 50% : 50% で 4.54% でした。この結果、今回の調査結果は、95% の確率で $50 \pm 4.54\%$ の範囲内（信頼度 95%）となります。

※統計学的には、標本誤差が 5% 以下であれば精度の高い調査結果であるとされています。標本誤差が 5% ということは、調査結果が母集団の真値に対し、ある信頼度（今回の信頼度は 95% とした）で $\pm 5\%$ の範囲にあるということです。

信頼度 95% とは、真値が $\pm 5\%$ の範囲にある確率が 95% となることを表しています。

7 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・ 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、高い割合のもの上位3位までを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・ 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

II 調査結果の要約

1 人権全般について（問6・問7・問9・問10）

現在「非常に興味がある」と「多少興味がある」を合わせた“興味がある”人権問題（問6）は、「子どもの人権問題」（86.2%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の人権問題」（85.8%）、「働く人の人権問題」（85.4%）、「インターネットを悪用した人権侵害」（84.9%）、「災害時の人権問題」（84.1%）となっています。

これまでに感じたことがある差別（問7）は、「年齢について」（27.0%）の割合が最も高く、次いで「学歴・出身校について」・「容姿について」（23.0%）、「性別について」（22.0%）となっています。

性別で見ると、男性では「学歴・出身校について」の割合が突出して高く3割を超えています。女性では「年齢について」の割合が高く、同じく3割を超えています。

また、性別で意識の差が大きく表れたのが、「年齢について」「性別について」「学歴・出身校について」「家族構成について」となっています。

18、19、20歳代で「容姿について」の割合が高く、30歳代、50歳代で「性別について」の割合が、高くなっています。

年代に応じて意識が変化していることが伺えます。

差別や人権侵害を受けた場合の対応（問9）では、「家族に相談をする」（47.3%）の割合が最も高く、次いで「友人に相談をする」（34.4%）、「相手に抗議をする」（24.4%）となっています。

他年度調査と比較すると「相談できる相手がない」の割合が高くなっており、人権問題が発生した際に、家族や友人などに相談できず、一人で問題を抱えてしまう傾向が強まっていることが伺えます。

2 女性の人権について（問6・問13）

女性に関する人権問題の関心度について（問6）は、50歳代、70歳以上で高い傾向があります。

女性の人権を守るために必要なこと（問13）は、「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」（男性：44.9%、女性：51.4%）、「学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」（男性：36.9%、女性：39.5%）の割合が高くなっており、男女ともに家庭と仕事の両立ができる環境づくりが望まれていることが分かります。

3 子どもの人権について（問6・問14～15）

子どもに関する人権問題の関心度について（問6）は、30歳代、70歳以上で高い傾向があります。子どもの人権について問題だと思ふこと（問14）は、「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」（59.9%）の割合が最も高く、次いで「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」（53.4%）、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」（45.3%）となっています。どの年代においても、いじめや虐待を問題と捉える人の割合が高くなっており、年代に関わらず、関心が高いことが分かります。

子どもの人権を守るために必要なこと（問15）は、「学校において、いじめの防止に対する取

り組みを強化する」(39.2%)の割合が最も高く、次いで「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」(35.3%)となっています。また「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が、平成26年度調査51.2%から29.6%と低い割合となり、個人や家庭だけではなく、社会全体での取り組みが求められていると考えられます。

4 高齢者の人権について（問6・問17～18）

高齢者に関する人権問題の関心度について（問6）は、60歳代が70歳以上より関心が低くなっているものの、年代が高くなるにつれ関心が高くなる傾向がみられます。高齢者の人権について問題だと思ふこと（問17）は、「悪徳商法や詐欺（さぎ）の被害が多いこと」（42.7%）の割合が最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」（38.1%）、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」（37.7%）となっており、高齢者の経済問題や就労環境、悪徳商法について関心が高くなっています。

高齢者の人権を守るために必要なこと（問18）は、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」（46.0%）の割合が最も高く、次いで「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」（37.0%）、「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」（31.8%）となっており、高齢者の就労機会をはじめ地域で活躍・交流できる場づくりなど、高齢者が安心して暮らせる環境が求められていることが伺えます。

5 障がい者の人権について（問6・問20～21）

障がい者に関する人権問題の関心度について（問6）は、50歳代、70歳以上で高くなっています。障がい者の人権について問題だと思ふこと（問20）は、「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」（51.0%）の割合が最も高く、次いで「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」（46.6%）、「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」（28.3%）となっており、地域社会で、障がいや障がい者への理解や、バリアフリー化など障がい者が生活しやすい環境づくりが必要だと思ふ人が多くなっています。

障がい者の人権を守るために必要なこと（問21）は、「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」（42.7%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の就労機会を確保する」（40.7%）、「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」（35.7%）となっており、障がい者が就労・社会参加できる地域づくり、暮らしやすい環境づくりが求められていると考えられます。

6 同和問題（部落差別）について（問6・問24）

同和問題に対する関心度について（問6）は、30歳代、60歳代で低くなっています。同和問題について（問24）は、「わからない」（43.6%）の割合が最も高く、次いで「問題の解決のために努力したい」（15.0%）、「特に関心はない」（13.3%）となっています。「問題の解決のために努力したい」の割合は令和元年度に比べると微増しているものの、平成23年度調査から減少しており、「特に関心はない」の割合は平成23年度調査から増加していることから、同和問題に対する意識が薄れてきていることが推察されます。

7 外国人の人権について（問6・問27）

外国人などの人権問題についての関心度について（問6）は、全体でみると“関心がある”の割合が63.0%で、他年度調査と比較すると、年々増加傾向にあります。「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」の割合が45.5%と最も高く、次いで「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が44.2%、「外国人についての理解や認識が十分でないこと」の割合が37.0%となっており、性別、年代別で見ても、高い割合を占めていますが、18、19、20代及び30代においては、他の年代に比べ、「差別的な発言を受けること（ハイトスピーチを含む）」の割合が高い傾向にあります。

8 感染症患者などの人権について（問6・問28～30）

感染症患者などの人権問題についての関心度について（問6）は、全体でみると、「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」（55.3%）の割合が高くなっており、性別、年代別で見ても高い割合となっています。また新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について、特に問題があると思うこと（問29）は、「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が35.9%と最も高く、次いで「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が35.1%、「感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること」の割合が24.4%となっています。性別、年代別においても同様な傾向で、コロナ禍において、多くの問題が顕在化したと思われる。

9 インターネットによる人権侵害について（問6・問31～32）

インターネットによる人権侵害についての関心度について（問6）は、70歳以上で低くなっています。インターネットによる人権侵害について問題だと思うこと（問31）は、「他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」（70.6%）の割合が最も高く、次いで「インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること」（28.5%）、「個人情報などが流出していること」（27.2%）となっており、インターネット上での差別的表現の使用や、インターネットが犯罪の温床となっていることに対して、問題と考える人が多くなっています。

インターネットによる人権侵害を解決するために必要なこと（問32）は、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」（46.6%）の割合が最も高く、次いで「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」（38.1%）、「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる」（21.4%）となっており、インターネットの利用が増加する中で、被害を受けないように、教育や取り締まりといった対応が求められています。

10 性的指向、ジェンダーアイデンティティを理由とする人権問題について（問6・問33～36）

性的指向、ジェンダーアイデンティティを理由とする人権問題についての関心度について（問6）は、「ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること」（42.0%）の割合が高くなっています。性別、年代別でみ

ても同じような傾向にあります。

また、若い世代（18、19、20 歳代・30 歳代・40 歳代）で「パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が高い傾向にあります。教育・啓発活動の推進に加え、制度の充実等が求められています。

11 刑を終えて出所した人の人権問題について（問 6・問 37）

刑を終えて出所した人の人権問題についての関心度について（問 6）は、平成 26 年調査から増加傾向にあります。刑を終えて出所した人の人権問題（問 37）では「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が 56.0%、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が 39.7%、「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」の割合が 17.4%となっています。性別で見ても大きな差異はありません。「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」については、平成 26 年調査から増加傾向にあります。

12 犯罪被害者とその家族の人権問題について（問 6・問 40～41）

犯罪被害者とその家族の人権問題についての関心度（問 6）は、他年度調査と比較すると高くなっています。犯罪被害者とその家族の人権問題（問 40）では「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」（41.8%）、と最も高く、次いで「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること」の割合が 41.6%となっています。他年度調査においても、高い割合となっています。

また、犯罪被害者とその家族の人権を尊重するために必要なことについて（問 41）は、「犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」の割合が 37.9%となっています。性別、年代別で見ても、同じような傾向にあります。充実した相談体制・支援体制が求められています。

13 災害時の人権問題について（問 6・問 42～43）

災害時の人権問題についての関心度（問 6）は、年代が低くなるにつれ、“関心がある”の割合が高くなっています。大規模災害により被災した人の人権について、問題だと思うこと（問 42）は、「被災者が居住の自由を奪われていること」（60.3%）の割合が最も高く、次いで「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」（35.5%）、「住宅を容易に借りることができないこと」（20.0%）となっています。平成 26 年度調査から「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が増加し、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が減少していることから、嫌がらせやいじめを受けることへの問題意識が高まってきていることが分かります。

大規模災害時に起きると予想される人権問題（問 43）としては、「避難生活でプライバシーが守られないこと」（59.0%）の割合が最も高く、次いで「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかかが生じること」（34.2%）、「要支援者（障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等）に対して十分な配慮が行き届かないこと」（33.1%）となっています。

14 様々な人権問題について（問6）

様々な人権問題についての関心度（問6）は、働く人の人権問題（85.4%）、アイヌの人々の人権問題（43.2%）、ホームレスの人権問題（46.9%）、北朝鮮による拉致問題（67.9%）、人身取引に関する人権問題（66.2%）となっています。

働く人の人権問題に関しては、性別ともに“関心がある”の割合が高い傾向にあります。年代別でみると、50歳代（93.6%）、18、19、20歳代（91.6%）で関心が高い傾向にあります。

アイヌの人々の人権問題に関しては、他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が年々増加しています。

ホームレスの人権問題に関しては、他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が高くなっています。年代別でみると、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が61.1%と高くなっています。

北朝鮮による拉致問題に関しては、平成26年度調査から“関心がない”の割合は年々増加しています。年代別でみると、70歳以上（83.5%）で関心が高い傾向にあります。

人身取引に関する人権問題に関しては、男女ともに“関心がある”の割合が高くなっています。年代別でみると、50歳代（71.8%）、70歳以上（71.9%）で関心が高くなっています。

15 人権教育・人権啓発の方法について（問44～48）

人権に関する取り組みについての認知度（問44）は、「広報みずなみの啓発記事」（49.0%）の割合が最も高く、次いで「「ちょっといい話」の募集」（27.2%）の割合が高くなっています。

人権教育・啓発を推進するための方法について（問45）は、「学校、職場、地域単位の学習会」（44.9%）の割合が最も高く、次いで「学校教育の充実」（40.5%）、「広報やホームページなどでの啓発」（25.1%）となっており、学校や行政による人権教育や啓発だけではなく、あらゆる場での取り組みも求められています。

学校における人権教育について重要なこと（問46）は、「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」（64.5%）の割合が最も高く、次いで「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」（62.3%）、「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」（61.4%）となっています。

人権に関する企業の取り組みとして重要なこと（問47）は、「差別のない公正な採用をすること」（60.6%）の割合が最も高く、次いで「安全で働きやすい環境を確保すること」（56.2%）、「男女間で公平な待遇をすること」（48.6%）となっています。

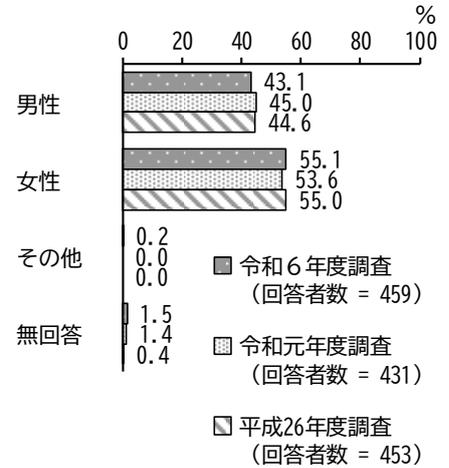
市民一人ひとりが、人権を尊重しあうために心がけ、行動すべきこと（問48）は、「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」（67.3%）の割合が最も高く、次いで「自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること」（58.2%）、「人権に関する正しい知識を身につけること」（58.0%）となっており、人権について正しい理解を深めるとともに、相手のことを思いやった行動をすべきと考える人が多いことが分かります。

Ⅲ 調査結果

1 あなた自身について

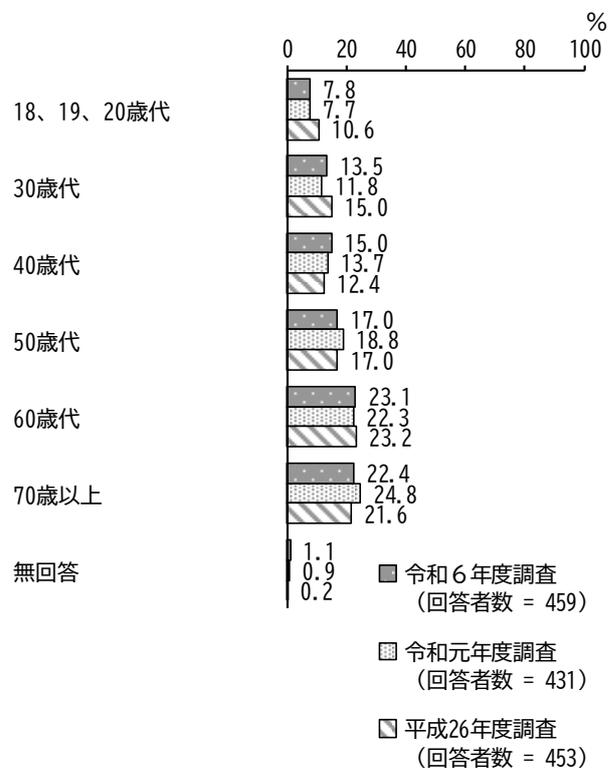
問1 あなたの性別を教えてください。《○は1つだけ》

「男性」の割合が43.1%、「女性」の割合が55.1%となっています。
 他年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、すべての年度で「女性」の割合が高く、5割を超えています。



問2 あなたの年齢を教えてください。《○は1つだけ》

「60歳代」の割合が23.1%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が22.4%、「50歳代」の割合が17.0%となっています。
 他年度調査と比較すると、40歳代の割合が年々増加しています。

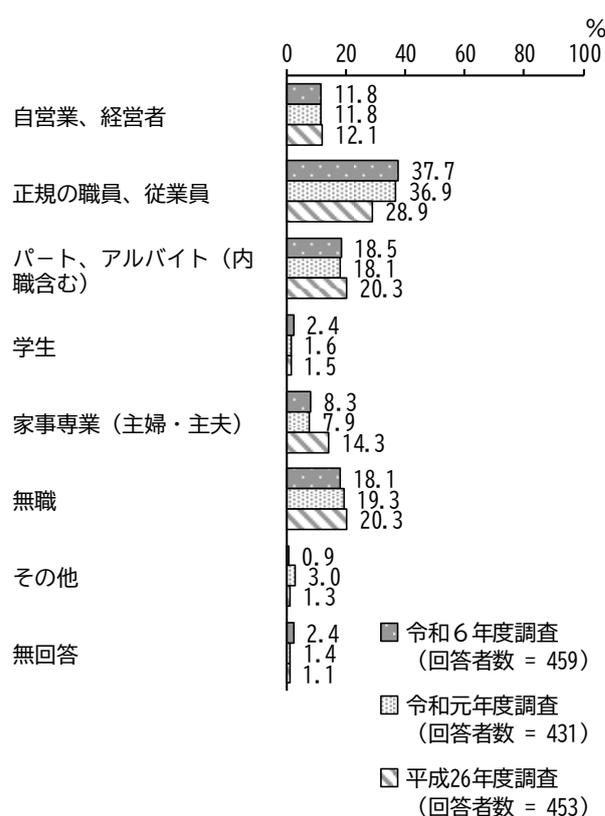


※「18、19、20歳代」は過年度調査においては、「20歳代」を対象にしています。

問3 あなたの職業を教えてください。《○は1つだけ》

「正規の職員、従業員」の割合が37.7%と最も高く、次いで「パート、アルバイト（内職含む）」の割合が18.5%、「無職」の割合が18.1%となっています。

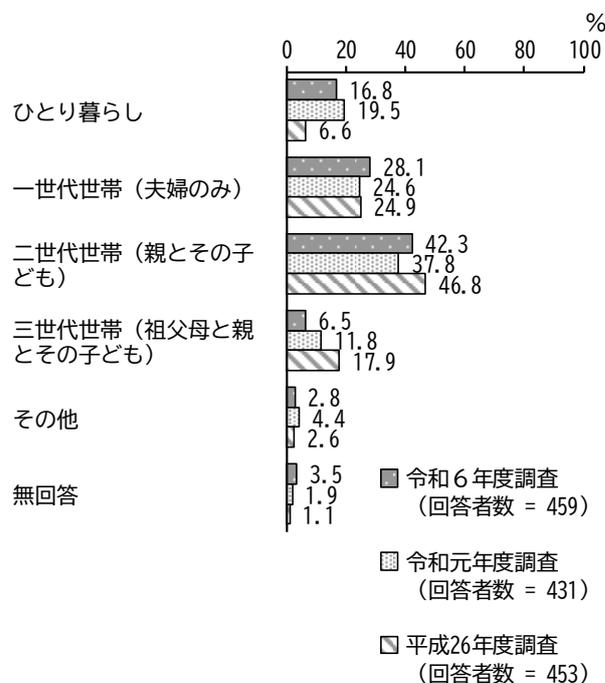
他年度調査と比較すると、「正規の職員、従業員」の割合が年々増加しています。一方、「無職」の割合が年々減少しています。



問4 あなたの家族構成を教えてください。《○は1つだけ》

「二世世代世帯（親とその子ども）」の割合が42.3%と最も高く、次いで「一世代世帯（夫婦のみ）」の割合が28.1%、「ひとり暮らし」の割合が16.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「三世世代世帯（祖父母と親とその子ども）」の割合が減少し、「二世世代世帯（親とその子ども）」及び「一世代世帯（夫婦のみ）」の割合が増加傾向にあります。

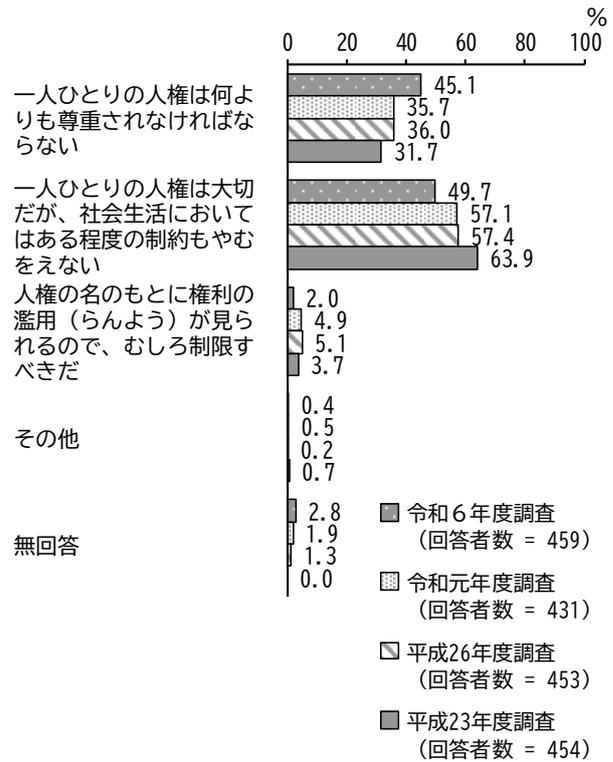


2 人権全般について

問5 あなたの人権に対する考えに最も近いものはどれですか。《○は1つだけ》

「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が49.7%と最も高く、次いで「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が45.1%となっています。

他年度調査と比較すると、「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が、令和元年度調査で0.3ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。一方、「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が57.6%と、13.3ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が51.4%と、13.0ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	その他	無回答
全体	459	45.1	49.7	2.0	0.4	2.8
男性	198	38.4	57.6	3.0	0.5	0.5
女性	253	51.4	44.3	1.2	0.4	2.8

【年代別】

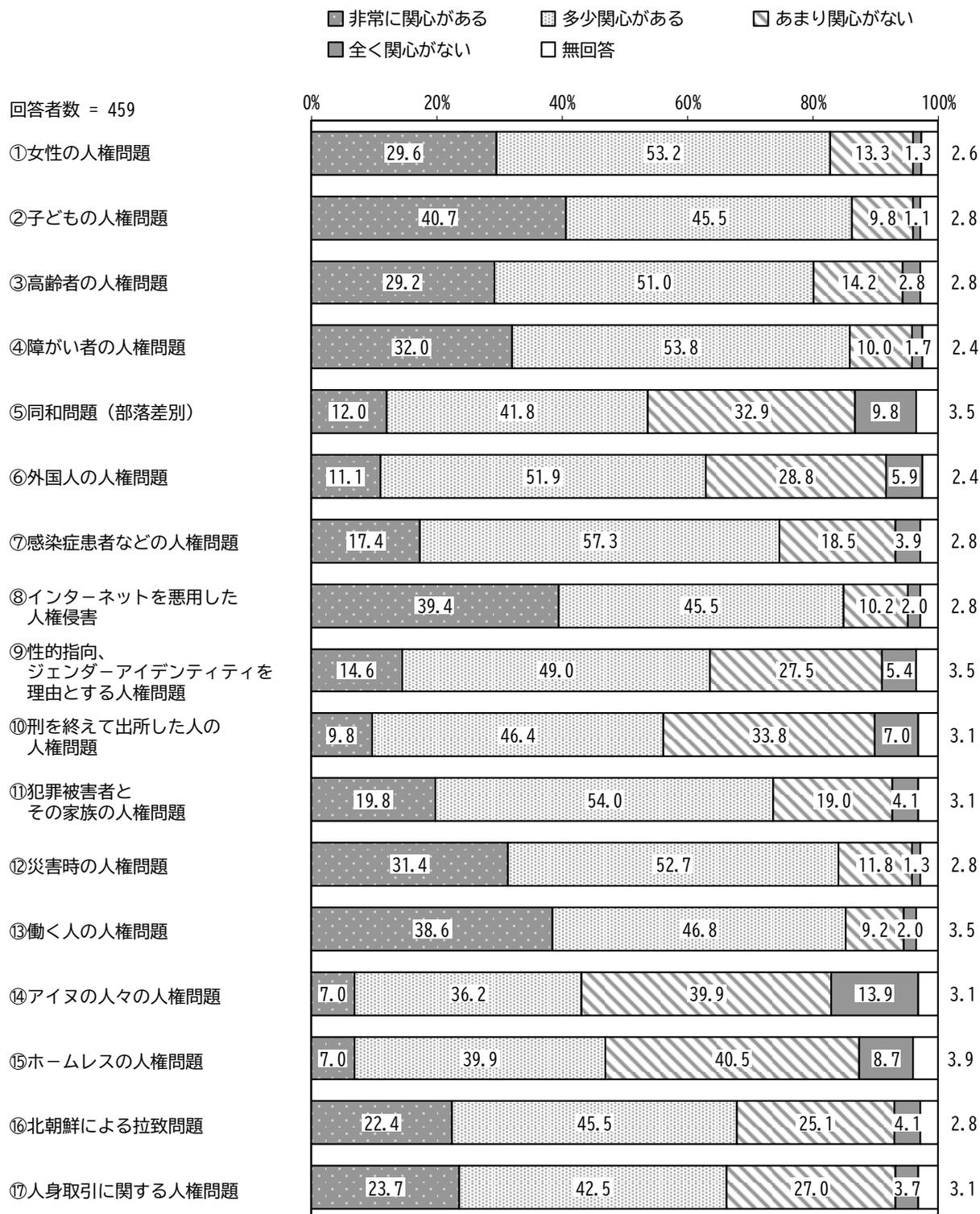
年代別でみると、すべての年代で「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が高くなっています。50歳代では「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が51.3%、30歳代では「一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない」の割合が54.8%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	一人ひとり の人権は 大切だが、 社会生活 においては ある程度 の制約も やむを えない	その他	無回答
全体	459	45.1	49.7	2.0	0.4	2.8
18、19、20歳代	36	47.2	50.0	—	—	2.8
30歳代	62	37.1	54.8	6.5	1.6	—
40歳代	69	47.8	52.2	—	—	—
50歳代	78	51.3	46.2	2.6	—	—
60歳代	106	47.2	47.2	0.9	0.9	3.8
70歳以上	103	42.7	52.4	1.9	—	2.9

問6 あなたは、次の人権問題に、どの程度関心を持っていますか。次にあげる①～⑱のすべてにお答えください。
 ≪各項目の「非常に関心がある、多少関心がある、あまり関心がない、全く関心がない」のうち1つに○≫

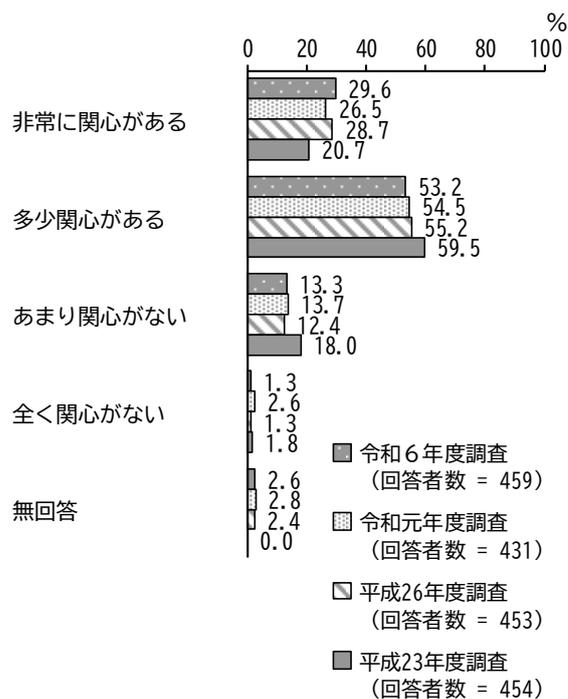
「非常に関心がある」と「多少関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が最も高いのは、『②子どもの人権問題』の86.2%、次いで高いのが『④障がい者の人権問題』の85.8%となっています。一方、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が最も高いのは、『⑭アイヌの人々の人権問題』の53.8%、次いで高いのが『⑮ホームレスの人権問題』の49.2%となっています。



①女性の人権問題

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が 1.8 ポイント増加しています。一方、“関心がない”の割合が 1.7 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が 19.7%と、8.6 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	29.6	53.2	13.3	1.3	2.6
男性	198	22.7	56.1	18.2	1.5	1.5
女性	253	35.6	51.8	9.9	1.2	1.6

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“関心がある”の割合が 93.6%と高くなっています。

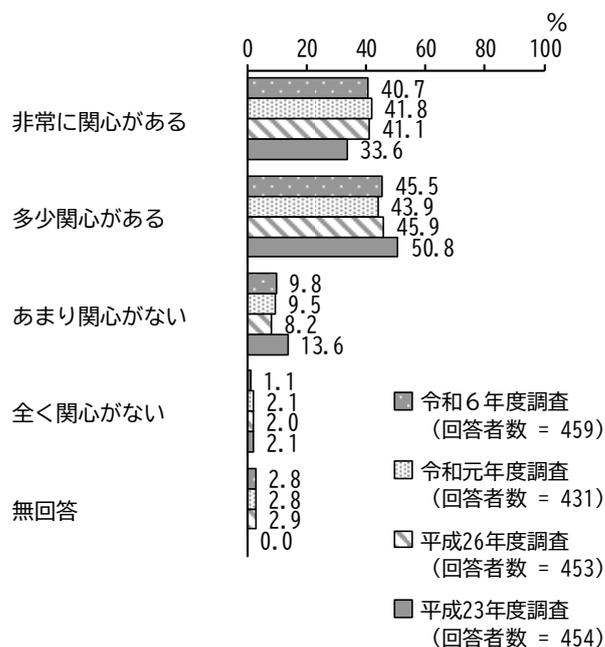
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	29.6	53.2	13.3	1.3	2.6
18、19、20歳代	36	19.4	58.3	16.7	5.6	—
30歳代	62	25.8	56.5	16.1	—	1.6
40歳代	69	24.6	55.1	17.4	1.4	1.4
50歳代	78	43.6	50.0	5.1	—	1.3
60歳代	106	25.5	54.7	17.9	—	1.9
70歳以上	103	34.0	51.5	9.7	2.9	1.9

②子どもの人権問題

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が 0.5 ポイント増加しています。一方、“関心がない”の割合が 0.7 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が 14.1%と、5.8 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	40.7	45.5	9.8	1.1	2.8
男性	198	37.9	47.0	13.1	1.0	1.0
女性	253	43.9	45.5	7.1	1.2	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“関心がある”の割合が 95.1%と高くなっています。

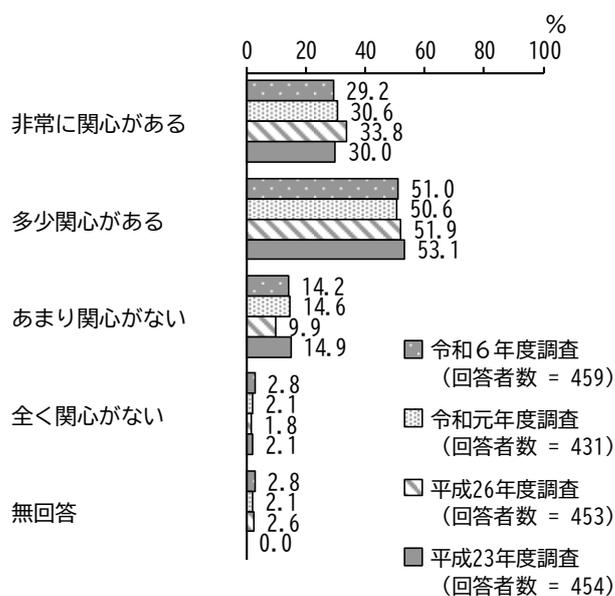
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	40.7	45.5	9.8	1.1	2.8
18、19、20歳代	36	36.1	47.2	13.9	2.8	—
30歳代	62	51.6	43.5	4.8	—	—
40歳代	69	33.3	52.2	11.6	1.4	1.4
50歳代	78	43.6	44.9	9.0	—	2.6
60歳代	106	34.0	48.1	17.0	—	0.9
70歳以上	103	47.6	41.7	3.9	2.9	3.9

③高齢者の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が、平成26年度調査から年々減少傾向にあります。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が21.7%と、8.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	29.2	51.0	14.2	2.8	2.8
男性	198	22.7	54.0	18.2	3.5	1.5
女性	253	34.8	50.2	11.1	2.0	2.0

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が36.2%と高くなっています。

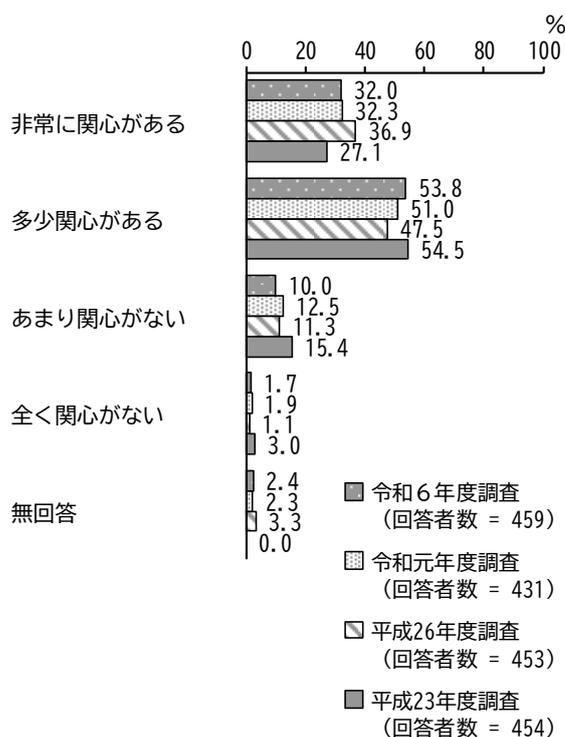
単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	29.2	51.0	14.2	2.8	2.8
18、19、20歳代	36	13.9	50.0	30.6	5.6	—
30歳代	62	19.4	50.0	24.2	4.8	1.6
40歳代	69	20.3	52.2	21.7	4.3	1.4
50歳代	78	30.8	60.3	7.7	—	1.3
60歳代	106	27.4	54.7	15.1	0.9	1.9
70歳以上	103	48.5	42.7	1.9	3.9	2.9

④障がい者の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が、令和元年度調査で1.1ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が88.6%と、3.7ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	32.0	53.8	10.0	1.7	2.4
男性	198	28.8	56.1	11.6	2.5	1.0
女性	253	35.2	53.4	8.7	1.2	1.6

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が22.2%と高くなっています。

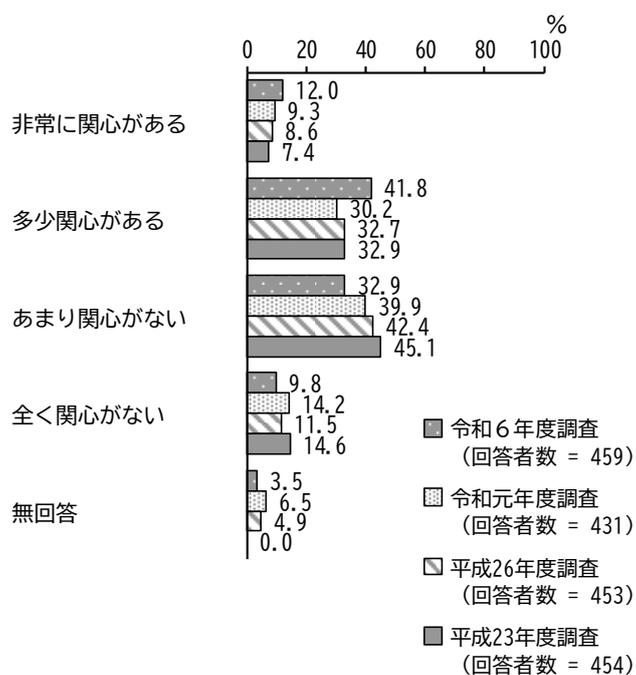
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	32.0	53.8	10.0	1.7	2.4
18、19、20歳代	36	22.2	55.6	13.9	8.3	—
30歳代	62	22.6	61.3	14.5	—	1.6
40歳代	69	27.5	53.6	14.5	2.9	1.4
50歳代	78	38.5	55.1	5.1	—	1.3
60歳代	106	31.1	53.8	14.2	—	0.9
70歳以上	103	41.7	50.5	2.9	2.9	1.9

⑤同和問題（部落差別）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が14.3ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が51.5%と、14.8ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	12.0	41.8	32.9	9.8	3.5
男性	198	11.1	34.8	38.9	12.6	2.5
女性	253	12.6	48.2	29.2	7.5	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“関心がある”の割合が65.4%と高くなっています。

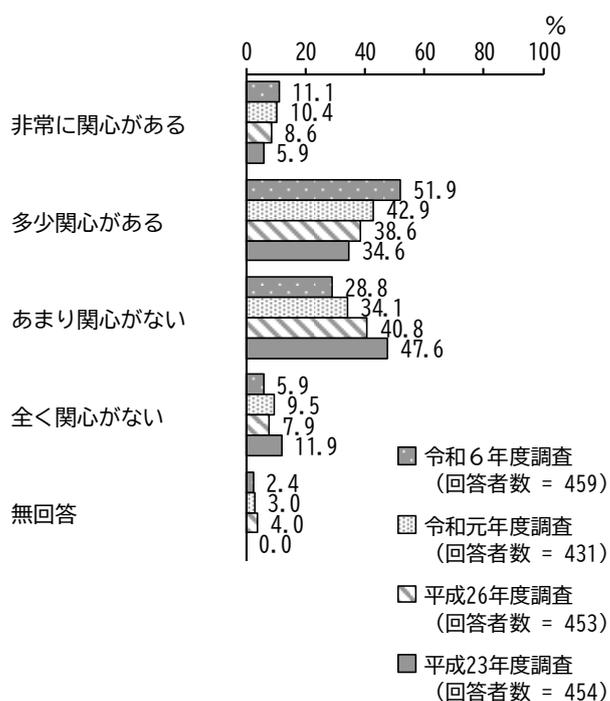
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	12.0	41.8	32.9	9.8	3.5
18、19、20歳代	36	11.1	44.4	27.8	16.7	—
30歳代	62	14.5	32.3	33.9	16.1	3.2
40歳代	69	14.5	44.9	30.4	7.2	2.9
50歳代	78	9.0	65.4	30.8	2.6	1.3
60歳代	106	11.3	35.8	42.5	9.4	0.9
70歳以上	103	12.6	41.7	29.1	11.7	4.9

⑥外国人の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が年々増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が39.4%と、7.8ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	11.1	51.9	28.8	5.9	2.4
男性	198	12.6	47.0	32.3	7.1	1.0
女性	253	9.9	56.9	26.9	4.7	1.6

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代で“関心がない”の割合が42.5%と高くなっています。

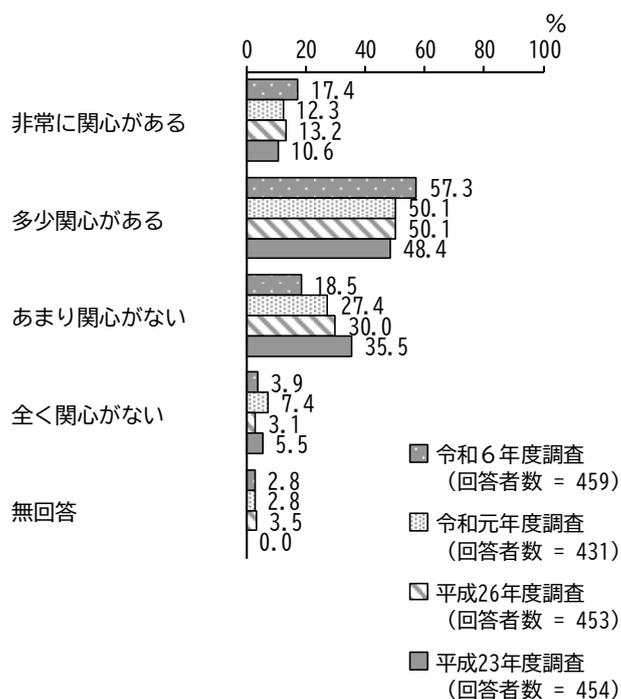
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	11.1	51.9	28.8	5.9	2.4
18、19、20歳代	36	11.1	55.6	22.2	11.1	—
30歳代	62	16.1	46.8	27.4	9.7	—
40歳代	69	7.2	60.9	26.1	4.3	1.4
50歳代	78	14.1	51.3	32.1	1.3	1.3
60歳代	106	9.4	47.2	38.7	3.8	0.9
70歳以上	103	10.7	55.3	22.3	8.7	2.9

⑦感染症患者などの人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が、令和元年度調査で0.9ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が27.7%と、9.1ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	17.4	57.3	18.5	3.9	2.8
男性	198	17.7	53.5	23.7	4.0	1.0
女性	253	17.4	61.7	15.0	3.6	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が27.8%と高くなっています。

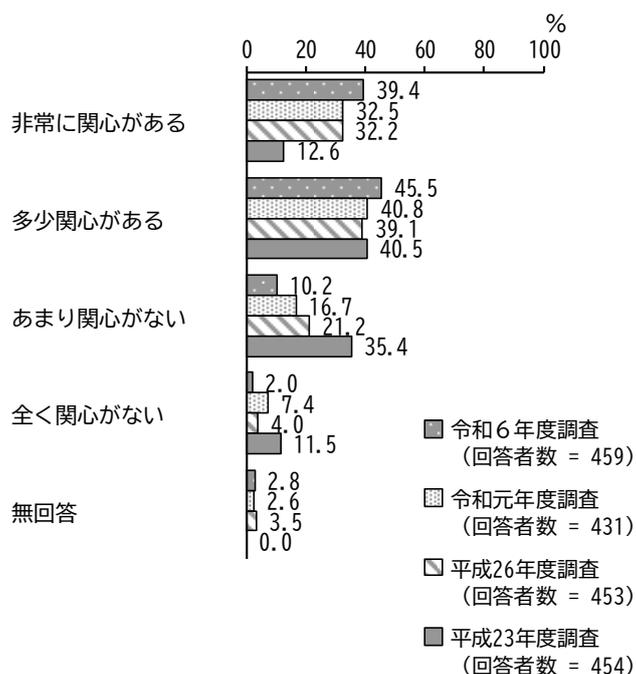
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	17.4	57.3	18.5	3.9	2.8
18、19、20歳代	36	13.9	58.3	16.7	11.1	—
30歳代	62	16.1	61.3	19.4	3.2	—
40歳代	69	11.6	60.9	18.8	7.2	1.4
50歳代	78	16.7	60.3	21.8	—	1.3
60歳代	106	18.9	54.7	21.7	2.8	1.9
70歳以上	103	23.3	55.3	13.6	3.9	3.9

⑧インターネットを悪用した人権侵害

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が年々増加しており、平成 23 年度調査から 31.8 ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が 15.6%と、6.1 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	39.4	45.5	10.2	2.0	2.8
男性	198	43.4	39.9	14.6	1.0	1.0
女性	253	36.8	51.4	7.1	2.4	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20 歳代で“関心がない”の割合が 19.5%と高くなっています。

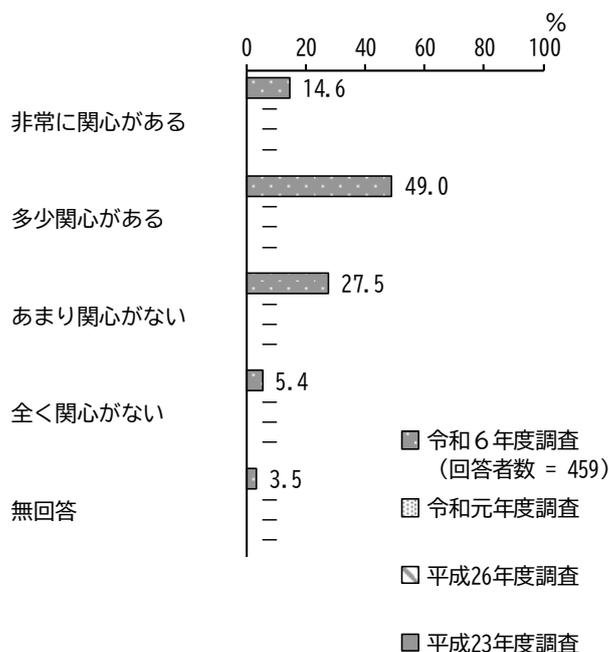
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	39.4	45.5	10.2	2.0	2.8
18、19、20歳代	36	41.7	38.9	13.9	5.6	—
30歳代	62	30.6	58.1	8.1	3.2	—
40歳代	69	34.8	53.6	10.1	—	1.4
50歳代	78	35.9	55.1	7.7	—	1.3
60歳代	106	46.2	41.5	8.5	1.9	1.9
70歳以上	103	44.7	34.0	14.6	2.9	3.9

⑨性的指向、ジェンダーアイデンティティを理由とする人権問題

【過去の調査との比較】

※今回調査より追加した設問のため、過去の調査との比較はなし。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“興味がない”の割合が44.0%と、19.1ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	14.6	49.0	27.5	5.4	3.5
男性	198	13.1	41.9	36.9	7.1	1.0
女性	253	15.8	56.1	20.9	4.0	3.2

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“興味がある”の割合が75.7%、40歳代で75.4%と高くなっています。

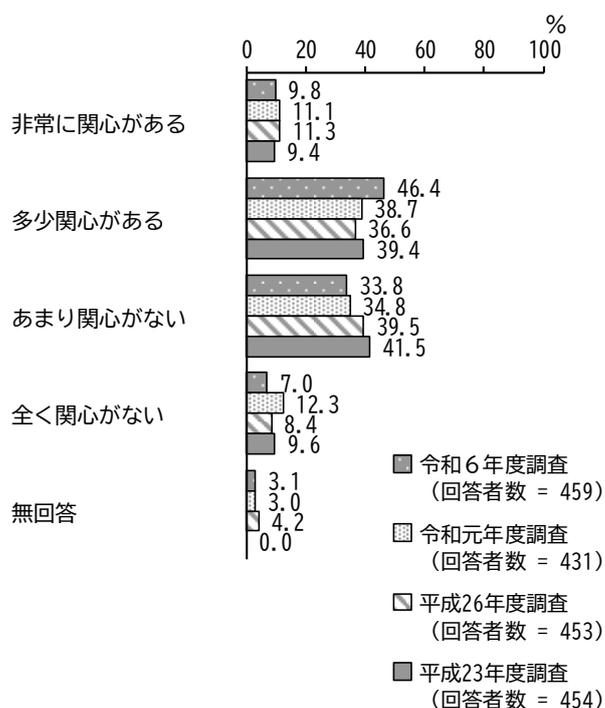
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	14.6	49.0	27.5	5.4	3.5
18、19、20歳代	36	19.4	44.4	25.0	11.1	-
30歳代	62	21.0	41.9	29.0	8.1	-
40歳代	69	14.5	60.9	20.3	1.4	2.9
50歳代	78	16.7	59.0	19.2	3.8	1.3
60歳代	106	11.3	48.1	33.0	5.7	1.9
70歳以上	103	11.7	42.7	34.0	5.8	5.8

⑩刑を終えて出所した人の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合は、平成26年度調査から増加傾向にあります。一方、“関心がない”の割合が年々減少しており、平成23年度調査と比較すると、10.3ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が45.5%と、8.4ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	9.8	46.4	33.8	7.0	3.1
男性	198	11.1	42.4	37.4	8.1	1.0
女性	253	9.1	51.0	31.6	5.5	2.8

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“関心がある”の割合が73.1%と高くなっています。

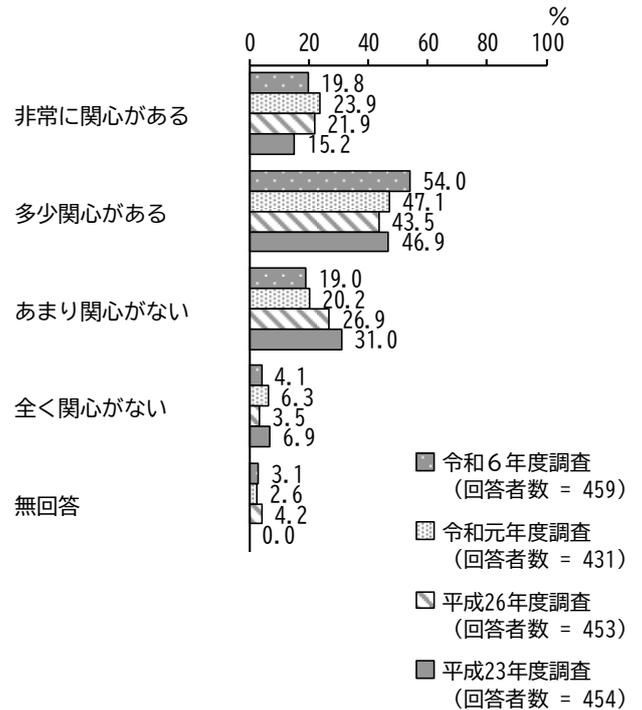
単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	9.8	46.4	33.8	7.0	3.1
18、19、20歳代	36	5.6	47.2	30.6	16.7	—
30歳代	62	17.7	29.0	40.3	12.9	—
40歳代	69	7.2	52.2	33.3	5.8	1.4
50歳代	78	10.3	62.8	25.6	—	1.3
60歳代	106	6.6	45.3	40.6	5.7	1.9
70歳以上	103	11.7	43.7	32.0	7.8	4.9

⑪犯罪被害者とその家族の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が年々増加しており、平成23年度調査から11.7ポイント増加しています。



【性別】

性別で見ると、男女ともに“関心がある”の割合7割半ばとなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	19.8	54.0	19.0	4.1	3.1
男性	198	19.7	56.6	18.2	4.5	1.0
女性	253	20.2	53.8	19.8	3.6	2.8

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、50歳代で“関心がある”の割合が83.3%と高くなっています。

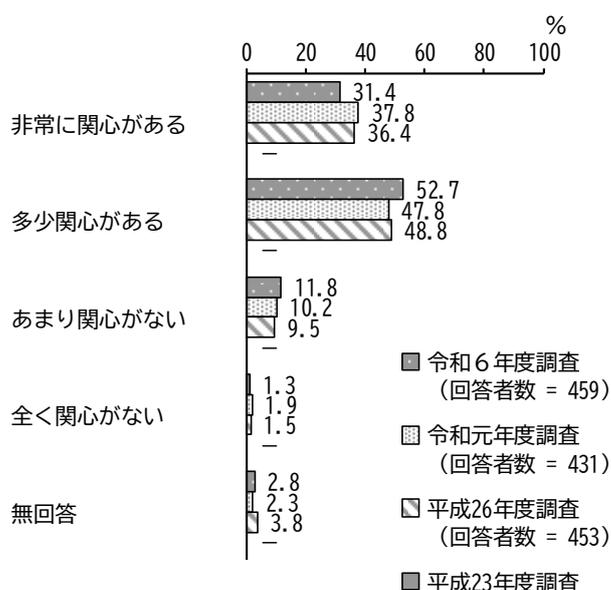
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	19.8	54.0	19.0	4.1	3.1
18、19、20歳代	36	16.7	61.1	11.1	11.1	—
30歳代	62	21.0	56.5	14.5	6.5	1.6
40歳代	69	13.0	59.4	21.7	4.3	1.4
50歳代	78	21.8	61.5	15.4	—	1.3
60歳代	106	23.6	48.1	22.6	3.8	1.9
70歳以上	103	20.4	49.5	22.3	3.9	3.9

⑫災害時の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、“関心がない”の割合が年々増加しています。また、すべての年度で“関心がある”の割合が8割半ばとなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が19.7%と、11.8ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	31.4	52.7	11.8	1.3	2.8
男性	198	31.8	47.5	18.7	1.0	1.0
女性	253	31.2	58.5	6.3	1.6	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“関心がない”の割合が19.4%と高くなっています。

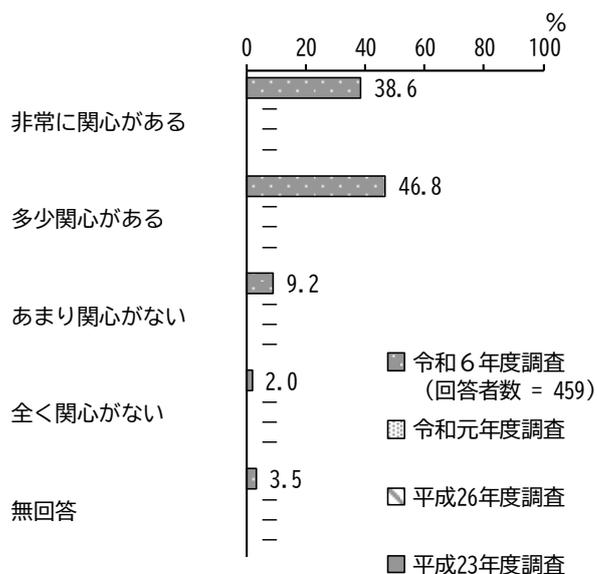
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	31.4	52.7	11.8	1.3	2.8
18、19、20歳代	36	25.0	61.1	8.3	5.6	-
30歳代	62	30.6	50.0	19.4	-	-
40歳代	69	29.0	52.2	15.9	1.4	1.4
50歳代	78	30.8	57.7	10.3	-	1.3
60歳代	106	33.0	53.8	11.3	-	1.9
70歳以上	103	35.9	49.5	7.8	2.9	3.9

⑬働く人の人権問題

【過去の調査との比較】

※今回調査より追加した設問のため、過去の調査との比較はなし。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“興味がある”の割合が88.9%と、5.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	38.6	46.8	9.2	2.0	3.5
男性	198	34.3	49.0	12.1	2.0	2.5
女性	253	42.7	46.2	6.7	2.0	2.4

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代で“興味がある”の割合が93.6%と高くなっています。

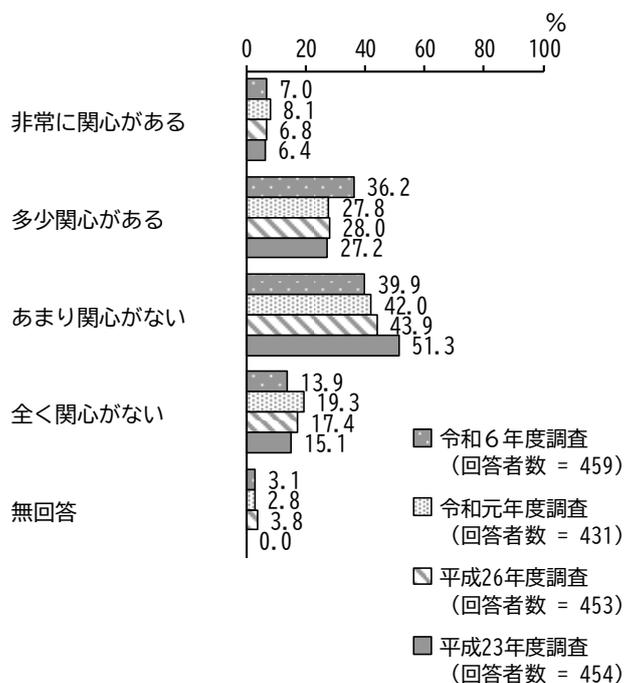
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	38.6	46.8	9.2	2.0	3.5
18、19、20歳代	36	44.4	47.2	2.8	2.8	2.8
30歳代	62	41.9	46.8	11.3	-	-
40歳代	69	34.8	44.9	13.0	5.8	1.4
50歳代	78	38.5	55.1	5.1	-	1.3
60歳代	106	40.6	43.4	13.2	-	2.8
70歳以上	103	36.9	47.6	6.8	3.9	4.9

⑭アイヌの人々の人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が年々増加しており、平成23年度調査から9.6ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が57.1%と、5.3ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	7.0	36.2	39.9	13.9	3.1
男性	198	6.1	35.9	41.4	15.7	1.0
女性	253	7.9	37.5	39.5	12.3	2.8

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で“関心がない”の割合が66.1%と高くなっています。

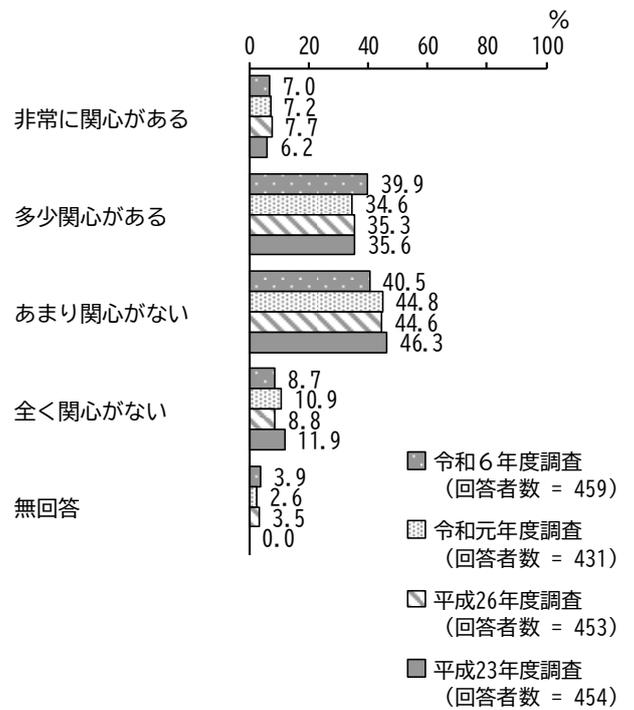
単位：%

区分	回答者数(件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	7.0	36.2	39.9	13.9	3.1
18、19、20歳代	36	2.8	38.9	38.9	19.4	—
30歳代	62	9.7	24.2	43.5	22.6	—
40歳代	69	5.8	37.7	43.5	11.6	1.4
50歳代	78	3.8	42.3	43.6	7.7	2.6
60歳代	106	8.5	33.0	42.5	14.2	1.9
70歳以上	103	8.7	41.7	32.0	13.6	3.9

⑮ホームレスの人権問題

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が5.1ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が57.1%と、12.8ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	7.0	39.9	40.5	8.7	3.9
男性	198	7.1	33.3	48.0	9.1	2.5
女性	253	6.7	45.8	36.0	8.3	3.2

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が61.1%と高くなっています。

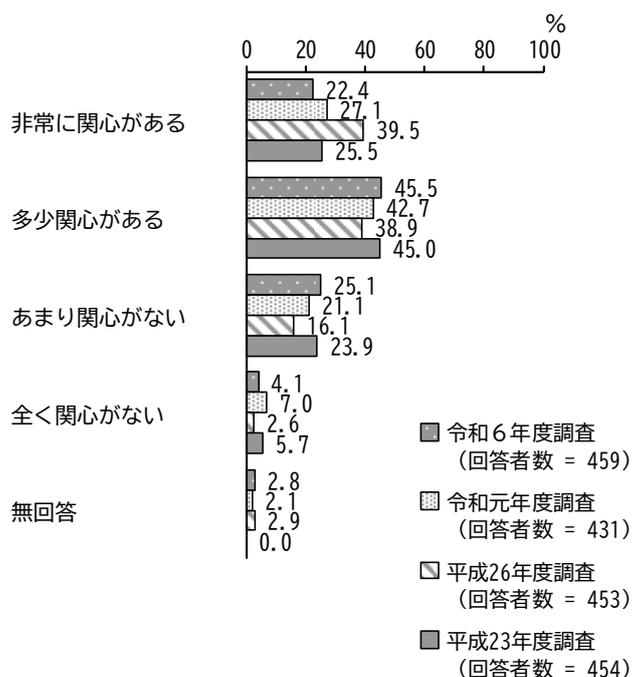
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	7.0	39.9	40.5	8.7	3.9
18、19、20歳代	36	5.6	33.3	44.4	16.7	—
30歳代	62	9.7	37.1	40.3	11.3	1.6
40歳代	69	7.2	43.5	40.6	5.8	2.9
50歳代	78	5.1	43.6	44.9	5.1	1.3
60歳代	106	4.7	35.8	45.3	12.3	1.9
70歳以上	103	9.7	44.7	33.0	5.8	6.8

⑩北朝鮮による拉致問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がない”の割合は平成26年度調査以降、増加傾向にあります。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“関心がない”の割合が33.4%と、6.9ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	22.4	45.5	25.1	4.1	2.8
男性	198	25.3	40.9	27.3	6.1	0.5
女性	253	20.6	50.2	24.1	2.4	2.8

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が52.8%と高くなっています。

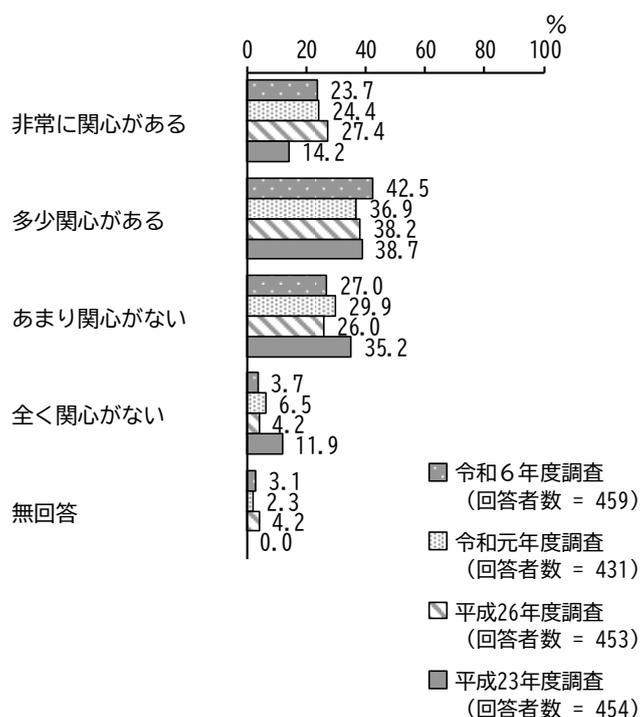
単位：%

区分	回答者数(件)	非常に興味がある	多少興味がある	あまり興味がない	全く興味がない	無回答
全体	459	22.4	45.5	25.1	4.1	2.8
18、19、20歳代	36	5.6	41.7	41.7	11.1	—
30歳代	62	12.9	43.5	33.9	8.1	1.6
40歳代	69	14.5	47.8	33.3	2.9	1.4
50歳代	78	21.8	55.1	21.8	—	1.3
60歳代	106	25.5	41.5	26.4	4.7	1.9
70歳以上	103	37.9	45.6	10.7	2.9	2.9

⑰人身取引に関する人権問題

【過去の調査との比較】

他年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が、令和元年度調査で4.3ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。



【性別】

性別で見ると、男女ともに“関心がある”の割合が6割を超えています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	23.7	42.5	27.0	3.7	3.1
男性	198	26.8	38.4	28.3	5.1	1.5
女性	253	21.3	47.0	26.5	2.8	2.4

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で“関心がない”の割合が44.5%と高くなっています。

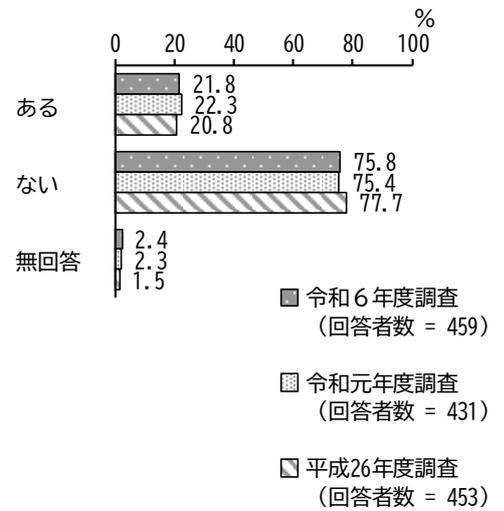
単位：%

区分	回答者数 (件)	非常に関心がある	多少関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	459	23.7	42.5	27.0	3.7	3.1
18、19、20歳代	36	11.1	44.4	30.6	13.9	—
30歳代	62	21.0	41.9	32.3	4.8	—
40歳代	69	18.8	47.8	27.5	4.3	1.4
50歳代	78	20.5	51.3	26.9	—	1.3
60歳代	106	26.4	38.7	30.2	2.8	1.9
70歳以上	103	34.0	37.9	20.4	2.9	4.9

問7 あなたは、過去5年間に、「差別をされた」と思ったことがありますか。

「ある」の割合が 21.8%、「ない」の割合が 75.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。すべての年度で「ない」の割合が高く、7割半ば程度となっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が 26.1%と、9.4 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	459	21.8	75.8	2.4
男性	198	16.7	80.3	3.0
女性	253	26.1	71.9	2.0

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、18、19、20 歳代・30 歳代・50 歳代で「ある」の割合が高く、3割を超えています。

単位：%

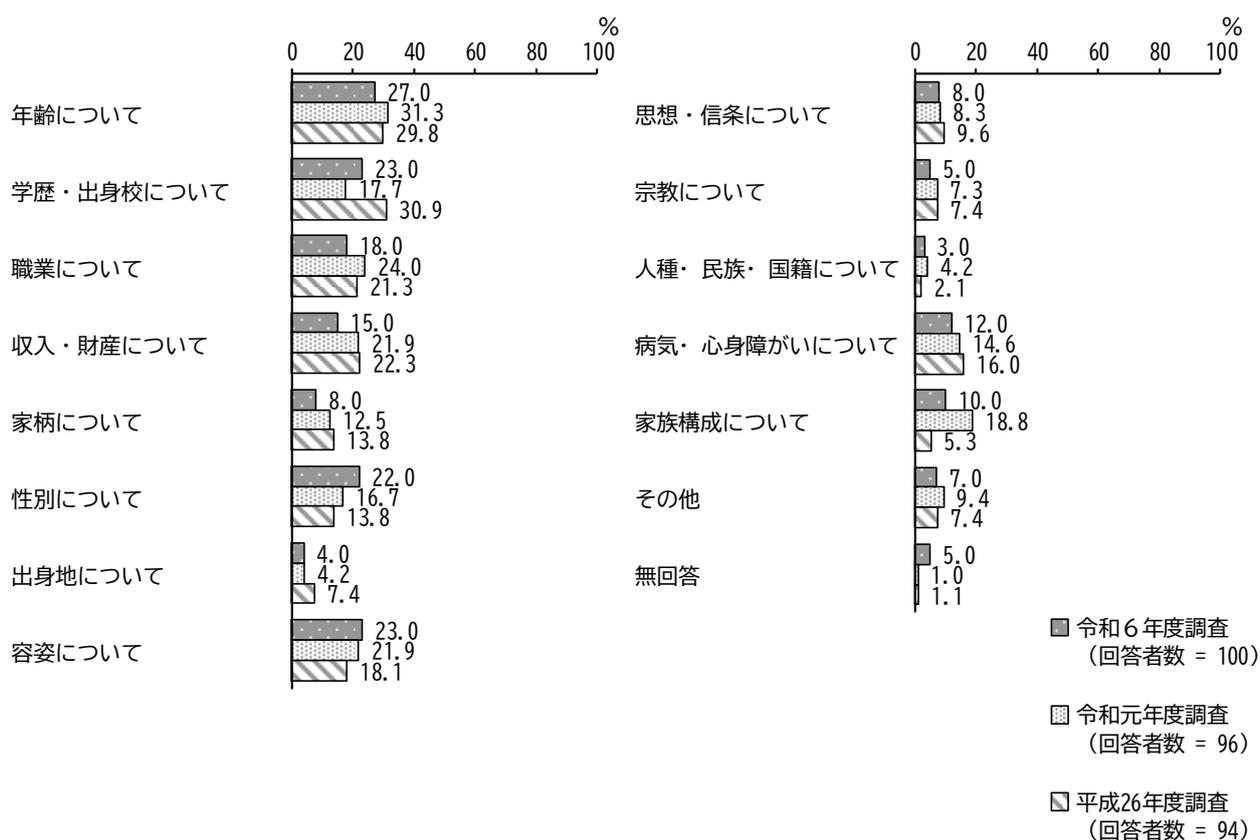
区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	459	21.8	75.8	2.4
18、19、20歳代	36	36.1	63.9	—
30歳代	62	32.3	67.7	—
40歳代	69	17.4	81.2	1.4
50歳代	78	30.8	69.2	—
60歳代	106	16.0	81.1	2.8
70歳以上	103	13.6	79.6	6.8

また、それはどのような内容でしたか。《〇はいくつでも》

「年齢について」の割合が27.0%と最も高く、次いで「学歴・出身校について」、「容姿について」の割合が23.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「学歴・出身校について」「性別について」の割合が5.3ポイント増加しています。また、「性別について」「容姿について」の割合が年々増加しています。

一方、「職業について」の割合が6.0ポイント、「収入・財産について」の割合が6.9ポイント、「家族構成について」の割合が8.8ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学歴・出身校について」の割合が36.4%と、21.2ポイント高く、男性に比べ、女性で「年齢について」の割合が33.3%と、21.2ポイント高くなっています。「年齢について」「学歴・出身校について」「性別について」「家族構成について」は、性別によって大きな差がみられます。

単位：%

区分	回答者数(件)	年齢について	学歴・出身校について	職業について	収入・財産について	家柄について	性別について	出身地について	容姿について	思想・信条について	宗教について	人種・民族・国籍について	病気・心身障がいについて	家族構成について	その他	無回答
全体	100	27.0	23.0	18.0	15.0	8.0	22.0	4.0	23.0	8.0	5.0	3.0	12.0	10.0	7.0	5.0
男性	33	12.1	36.4	18.2	15.2	6.1	6.1	3.0	18.2	6.1	6.1	3.0	15.2	3.0	6.1	3.0
女性	66	33.3	15.2	16.7	15.2	9.1	28.8	4.5	24.2	9.1	4.5	3.0	10.6	13.6	7.6	6.1

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19、20歳代・30歳代・50歳代で「性別について」の割合が、18、19、20歳代・30歳代・60歳代で「容姿について」の割合が、60歳代で「年齢について」の割合が高くなっています。

単位：%

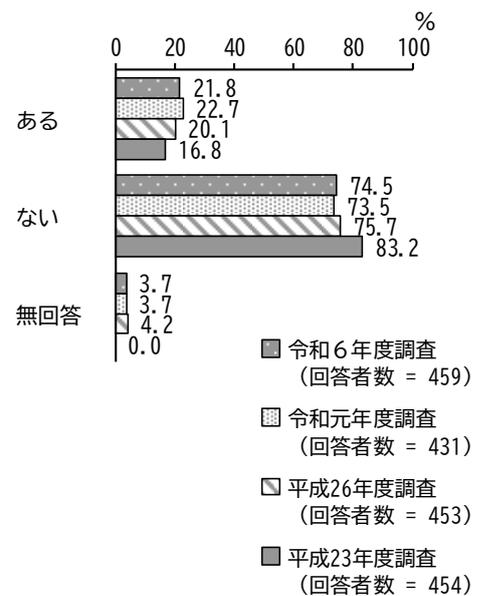
区分	回答者数(件)	年齢について	学歴・出身校について	職業について	収入・財産について	家柄について	性別について	出身地について	容姿について	思想・信条について	宗教について	人種・民族・国籍について	病気・心身障がいについて	家族構成について	その他	無回答
全体	100	27.0	23.0	18.0	15.0	8.0	22.0	4.0	23.0	8.0	5.0	3.0	12.0	10.0	7.0	5.0
18、19、20歳代	13	15.4	15.4	15.4	—	7.7	23.1	23.1	38.5	7.7	—	7.7	7.7	15.4	—	—
30歳代	20	25.0	25.0	20.0	25.0	15.0	40.0	5.0	30.0	10.0	15.0	10.0	5.0	15.0	10.0	5.0
40歳代	12	25.0	25.0	8.3	16.7	—	8.3	—	8.3	—	—	—	16.7	16.7	8.3	16.7
50歳代	24	25.0	20.8	20.8	8.3	4.2	33.3	—	20.8	—	4.2	—	12.5	12.5	12.5	8.3
60歳代	17	41.2	17.6	23.5	17.6	5.9	5.9	—	29.4	11.8	5.9	—	11.8	—	5.9	—
70歳以上	14	28.6	35.7	14.3	21.4	14.3	7.1	—	7.1	21.4	—	—	21.4	—	—	—

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問8 あなたは、過去5年間に、「人権を侵害された」と感じたことがありますか。

「ある」の割合が 21.8%、「ない」の割合が 74.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が 16.8 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	459	21.8	74.5	3.7
男性	198	12.1	83.8	4.0
女性	253	28.9	67.6	3.6

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、18、19、20 歳代・30 歳代・50 歳代で「ある」の割合が高く、3割を超えています。

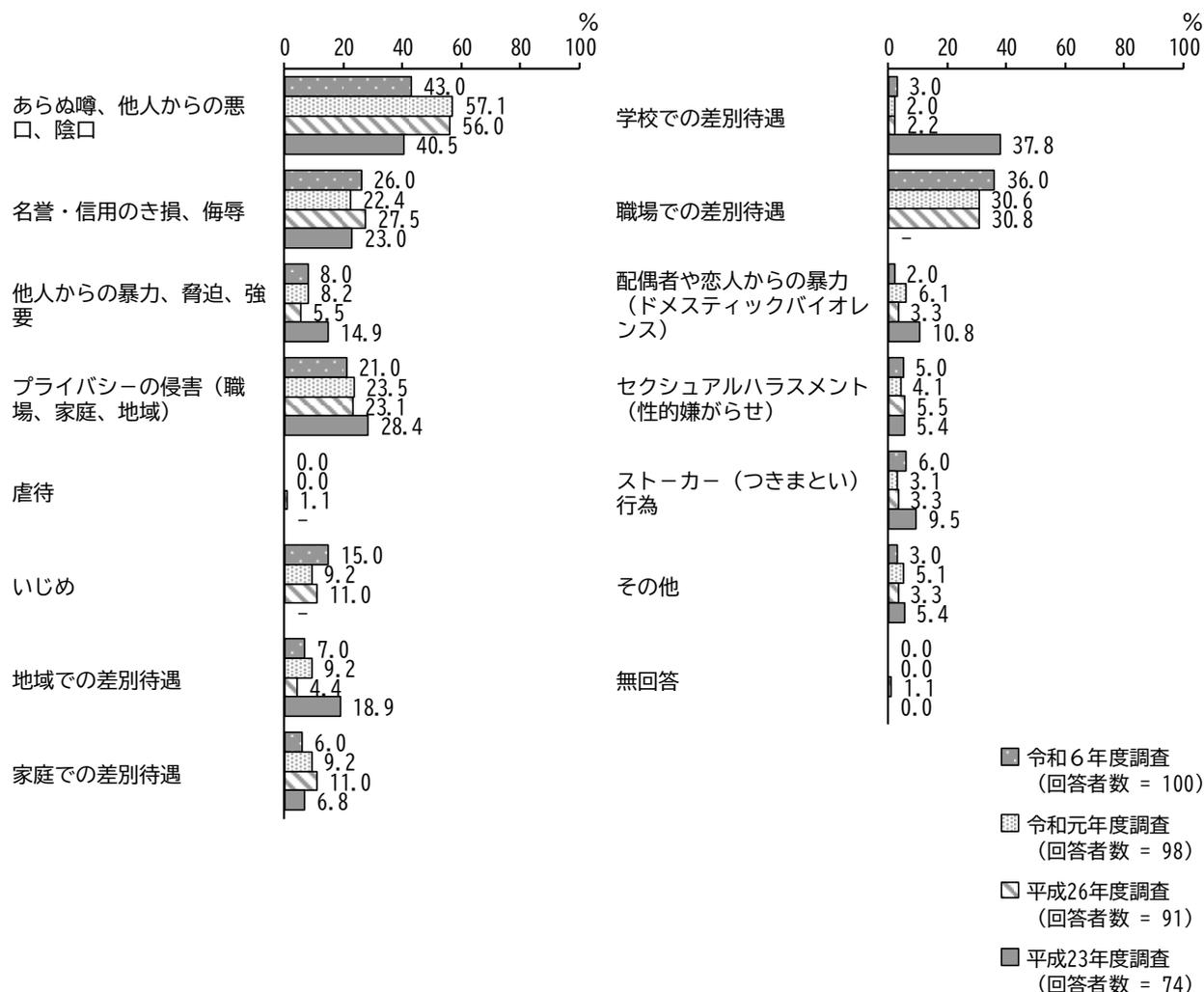
単位：%

区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	459	21.8	74.5	3.7
18、19、20歳代	36	30.6	69.4	—
30歳代	62	32.3	67.7	—
40歳代	69	15.9	81.2	2.9
50歳代	78	33.3	65.4	1.3
60歳代	106	16.0	78.3	5.7
70歳以上	103	13.6	78.6	7.8

また、それはどのような内容でしたか。《○はいくつでも》

「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」の割合が43.0%と最も高く、次いで「職場での差別待遇」の割合が36.0%、「名誉・信用のき損、侮辱」の割合が26.0%となっています。

他年度調査と比較すると、「いじめ」の割合が令和元年度調査から5.8ポイント増加しています。一方、「学校での差別待遇」が平成23年度調査から34.8ポイント減少しています。



※平成23年度調査では、「虐待」「いじめ」「職場での差別待遇」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「あらぬ噂、他人からの悪口、陰口」の割合が最も高くなっており、4割を超えています。

単位：％

区分	回答者数(件)	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	名誉・信用のき損、侮辱	他人からの暴力、脅迫、強要	庭、地域） プライバシーの侵害（職場、家	虐待	いじめ	地域での差別待遇	家庭での差別待遇	学校での差別待遇	職場での差別待遇	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	的嫌がらせ） セクシュアルハラスメント（性	ストーカー（つきまとい）行為	その他	無回答
全体	100	43.0	26.0	8.0	21.0	—	15.0	7.0	6.0	3.0	36.0	2.0	5.0	6.0	3.0	—
男性	24	41.7	33.3	4.2	25.0	—	8.3	8.3	—	—	33.3	—	—	4.2	—	—
女性	73	42.5	24.7	9.6	20.5	—	16.4	6.8	6.8	2.7	37.0	2.7	5.5	5.5	4.1	—

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「名誉・信用のき損、侮辱」の割合が55.5%、50歳代で「職場での差別待遇」の割合が57.7%と高くなっています。

単位：％

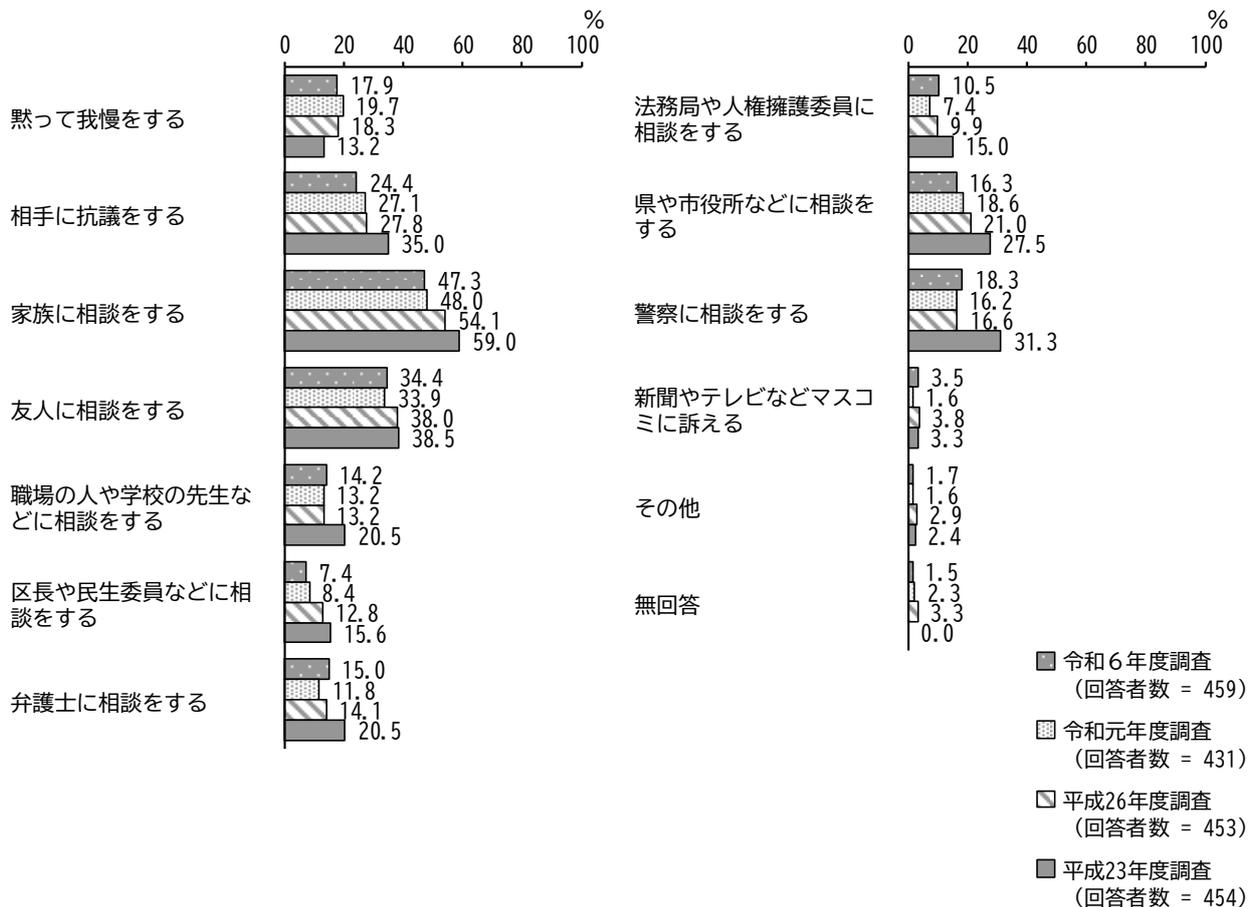
区分	回答者数(件)	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	名誉・信用のき損、侮辱	他人からの暴力、脅迫、強要	庭、地域） プライバシーの侵害（職場、家	虐待	いじめ	地域での差別待遇	家庭での差別待遇	学校での差別待遇	職場での差別待遇	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）	的嫌がらせ） セクシュアルハラスメント（性	ストーカー（つきまとい）行為	その他	無回答
全体	100	43.0	26.0	8.0	21.0	—	15.0	7.0	6.0	3.0	36.0	2.0	5.0	6.0	3.0	—
18、19、20歳代	11	54.5	9.1	18.2	18.2	—	27.3	—	—	9.1	18.2	—	9.1	27.3	—	—
30歳代	20	40.0	55.0	25.0	25.0	—	20.0	15.0	20.0	10.0	35.0	5.0	10.0	10.0	5.0	—
40歳代	11	54.5	9.1	—	18.2	—	18.2	—	—	—	27.3	—	9.1	—	—	—
50歳代	26	34.6	19.2	3.8	19.2	—	7.7	7.7	3.8	—	57.7	3.8	3.8	—	3.8	—
60歳代	17	52.9	35.3	—	29.4	—	17.6	—	—	—	23.5	—	—	—	—	—
70歳以上	14	28.6	14.3	—	14.3	—	7.1	14.3	7.1	—	35.7	—	—	7.1	7.1	—

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問9 もし差別や人権侵害を受けた場合、あなたはどのような対応をしますか。
 《○はいいくつでも》

「家族に相談をする」の割合が47.3%と最も高く、次いで「友人に相談をする」の割合が34.4%、「相手に抗議をする」の割合が24.4%となっています。

他年度調査と比較すると、「相手に抗議をする」「家族に相談をする」「区長や民生委員などに相談をする」「県や市役所などに相談をする」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相手に抗議をする」の割合が35.9%と、21.3ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族に相談をする」の割合が56.5%と、19.6ポイント、「友人に相談をする」の割合が43.9%と、20.7ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	職場の人や学校の先生などに相談をする	区長や民生委員などに相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	県や市役所などに相談をする	警察に相談をする	新聞やテレビなどマスコミに訴える	その他	無回答
全体	459	17.9	24.4	47.3	34.4	14.2	7.4	15.0	10.5	16.3	18.3	3.5	1.7	1.5
男性	198	16.7	35.9	36.9	23.2	10.6	8.1	21.2	13.6	20.2	26.3	6.1	3.0	1.5
女性	253	18.2	14.6	56.5	43.9	17.0	7.1	10.7	8.3	13.4	12.6	1.6	0.8	1.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「家族に相談をする」の割合が4割以上と高くなっています。

単位：%

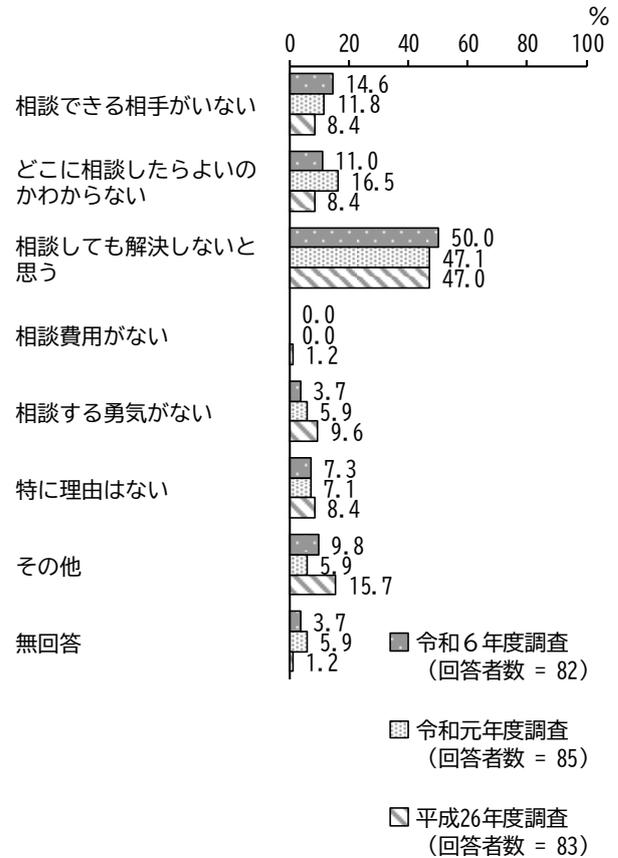
区分	回答者数(件)	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	職場の人や学校の先生などに相談をする	区長や民生委員などに相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	県や市役所などに相談をする	警察に相談をする	新聞やテレビなどマスコミに訴える	その他	無回答
全体	459	17.9	24.4	47.3	34.4	14.2	7.4	15.0	10.5	16.3	18.3	3.5	1.7	1.5
18、19、20歳代	36	22.2	30.6	55.6	38.9	19.4	—	13.9	5.6	8.3	25.0	2.8	—	2.8
30歳代	62	11.3	29.0	51.6	40.3	24.2	1.6	12.9	11.3	14.5	17.7	4.8	6.5	—
40歳代	69	20.3	34.8	42.0	39.1	15.9	4.3	15.9	7.2	11.6	15.9	5.8	1.4	1.4
50歳代	78	17.9	19.2	51.3	34.6	14.1	1.3	17.9	7.7	12.8	12.8	—	1.3	1.3
60歳代	106	15.1	18.9	47.2	32.1	14.2	10.4	17.9	15.1	16.0	20.8	3.8	1.9	1.9
70歳以上	103	20.4	21.4	43.7	29.1	4.9	17.5	11.7	11.7	26.2	20.4	3.9	—	1.9

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問10 問9で「黙って我慢をする」を選択した方にお尋ねします。それはなぜですか。
 ※〇は1つだけ

「相談しても解決しないと思う」の割合が50.0%と最も高く、次いで「相談できる相手がない」の割合が14.6%、「どこに相談したらよいかわからない」の割合が11.0%となっています。

他年度調査と比較すると、「相談できる相手がない」「相談しても解決しないと思う」の割合が年々増加しています。一方、「相談する勇気がない」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「相談しても解決しないと思う」の割合が最も高くなっており、女性の割合は56.5%と、男性に比べ17.1ポイント高くなっています。また、男性で「特に理由はない」の割合が15.2%と、女性に比べ13.0ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	相談できる相手がない	いよどこに相談したらいいのかわからない	相談しても解決しないと思う	相談費用がない	相談する勇気がない	特に理由はない	その他	無回答
全体	82	14.6	11.0	50.0	—	3.7	7.3	9.8	3.7
男性	33	18.2	15.2	39.4	—	—	15.2	9.1	3.0
女性	46	10.9	8.7	56.5	—	6.5	2.2	10.9	4.3

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「相談しても解決しないと思う」の割合が最も高くなっています。

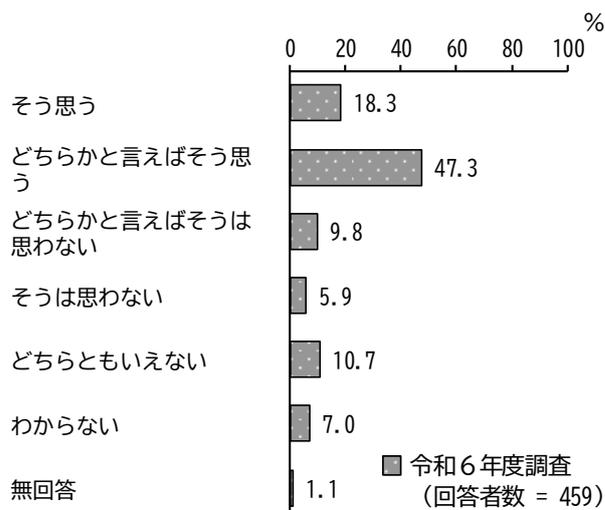
単位：%

区分	回答者数(件)	相談できる相手がない	いよどこに相談したらいいのかわからない	相談しても解決しないと思う	相談費用がない	相談する勇気がない	特に理由はない	その他	無回答
全体	82	14.6	11.0	50.0	—	3.7	7.3	9.8	3.7
18、19、20歳代	8	—	12.5	62.5	—	—	12.5	12.5	—
30歳代	7	—	28.6	42.9	—	—	14.3	14.3	—
40歳代	14	21.4	7.1	35.7	—	—	7.1	21.4	7.1
50歳代	14	21.4	7.1	57.1	—	7.1	—	—	7.1
60歳代	16	12.5	12.5	56.3	—	—	—	18.8	—
70歳以上	21	14.3	9.5	47.6	—	9.5	14.3	—	4.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問11 あなたの身近で一人ひとりの人権は守られていると思いますか。《○は1つだけ》

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が65.6%、「どちらかと言えばそうは思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が15.7%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が、男性で70.2%、女性で61.6%と、女性に比べ、男性で8.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	459	18.3	47.3	9.8	5.9	10.7	7.0	1.1
男性	198	23.2	47.0	6.6	5.6	9.1	7.6	1.0
女性	253	14.2	47.4	12.6	5.9	11.9	6.7	1.2

【年代別】

年代別でみると、18、19、20歳代・40歳代・50歳代・70歳以上で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が7割近くとなっており、30歳代では72.6%と高くなっています。

単位：%

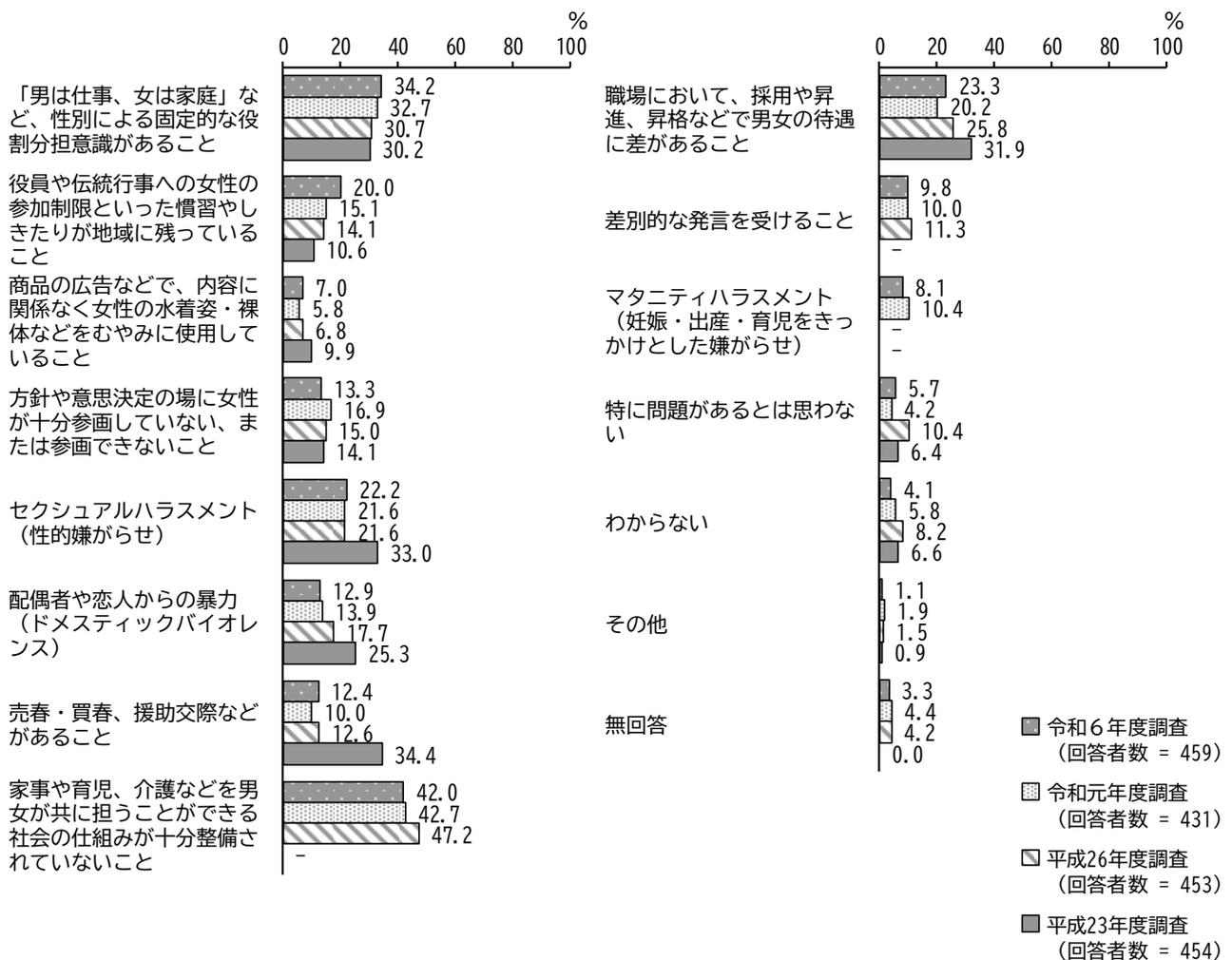
区分	回答者数 (件)	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	459	18.3	47.3	9.8	5.9	10.7	7.0	1.1
18、19、20歳代	36	22.2	47.2	8.3	5.6	11.1	5.6	—
30歳代	62	12.9	59.7	12.9	9.7	1.6	3.2	—
40歳代	69	11.6	55.1	13.0	2.9	10.1	5.8	1.4
50歳代	78	20.5	46.2	12.8	5.1	9.0	6.4	—
60歳代	106	16.0	41.5	6.6	7.5	20.8	5.7	1.9
70歳以上	103	24.3	40.8	7.8	4.9	7.8	12.6	1.9

3 女性の人権について

問 12 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 «○は3つまで»

「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が42.0%と最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」の割合が34.2%、「職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること」の割合が23.3%となっています。

他年度調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」「役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること」の割合が年々増加しています。一方、「配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）」「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が年々減少しています。



※平成26年度調査、平成23年度調査では、「マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ）」の選択肢、平成23年度調査では、「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」「差別的な発言を受けること」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること	役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること	商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをわざみに使用していること	商品の内容などで、内容に十分参画していない、または参画できないこと	方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと	セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)	配偶者や恋人からの暴力(ドメスティックバイオレンス)	売春・買春、援助交際などがあること
全体	459	34.2	20.0	7.0	13.3	22.2	12.9	12.4	
男性	198	31.8	22.7	6.1	16.7	24.7	15.2	11.1	
女性	253	36.8	18.6	7.5	11.1	20.6	11.5	13.8	

区分	家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと	職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること	差別的な発言を受けること	マタニティハラスメント(妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	42.0	23.3	9.8	8.1	5.7	4.1	1.1	3.3
男性	36.4	24.7	7.6	7.1	8.1	4.0	1.5	2.0
女性	46.6	22.5	11.5	9.1	3.6	4.0	0.8	4.0

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」の割合が高くなっており、特に30歳代・40歳代・50歳代で高くなっています。また、「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」の割合がすべての年代で高い傾向にあります。30歳代では「マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ）」の割合が22.6%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること	役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること	商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをわざわざ使用していること	方針や意思決定の場において、または参画できないこと	セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)	配偶者や恋人からの暴力(ドメスティックバイオレンス)	売春・買春、援助交際などがあること
全体	459	34.2	20.0	7.0	13.3	22.2	12.9	12.4
18、19、20歳代	36	38.9	16.7	5.6	11.1	30.6	13.9	5.6
30歳代	62	38.7	19.4	6.5	4.8	21.0	17.7	16.1
40歳代	69	30.4	18.8	5.8	7.2	30.4	17.4	13.0
50歳代	78	39.7	25.6	5.1	11.5	30.8	14.1	10.3
60歳代	106	29.2	23.6	5.7	19.8	20.8	12.3	12.3
70歳以上	103	35.0	15.5	11.7	18.4	9.7	6.8	14.6

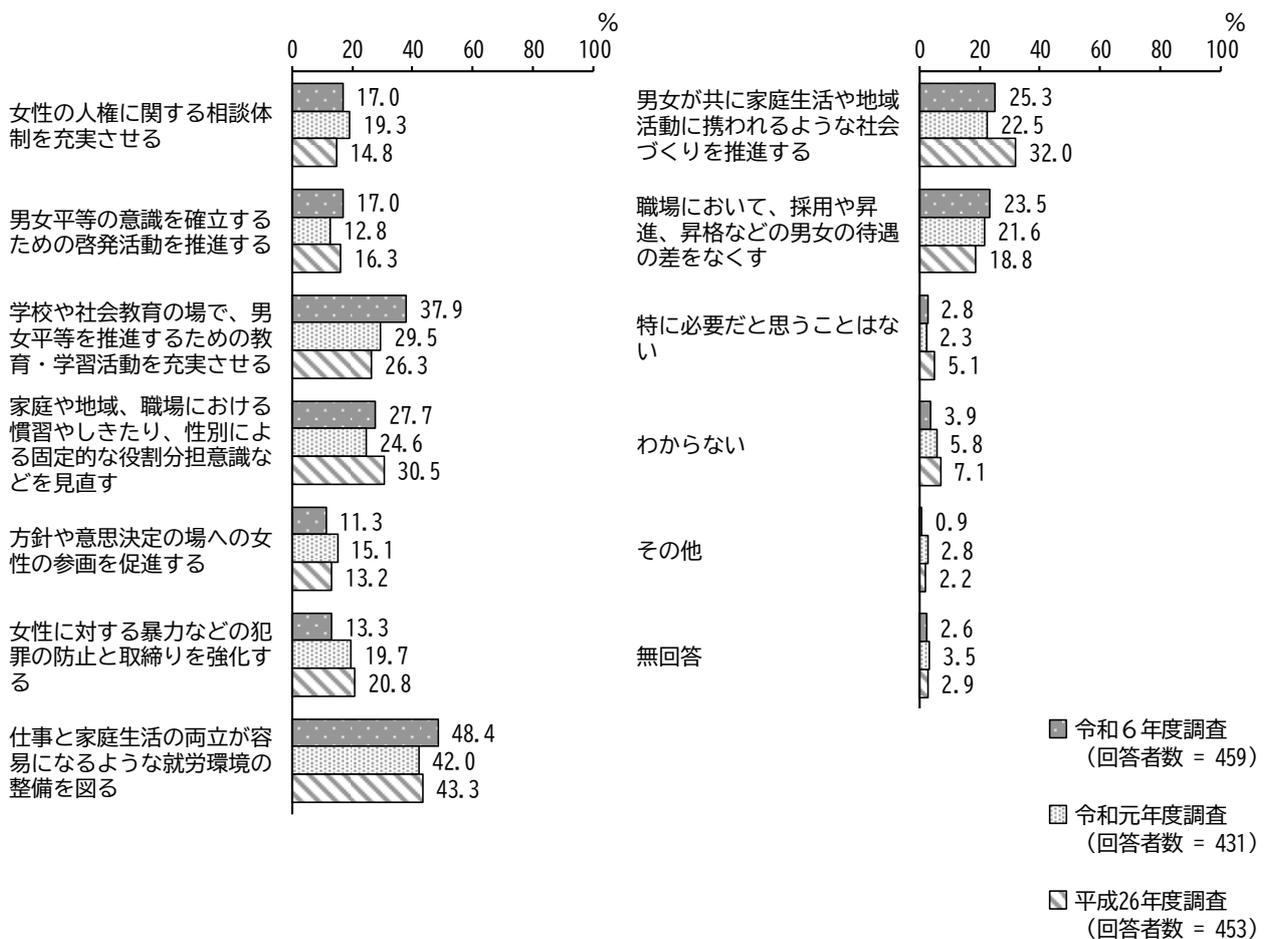
区分	家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと	職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること	差別的な発言を受けること	マタニティハラスメント(妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	42.0	23.3	9.8	8.1	5.7	4.1	1.1	3.3
18、19、20歳代	36.1	19.4	16.7	8.3	2.8	-	2.8	-
30歳代	50.0	14.5	9.7	22.6	6.5	-	1.6	4.8
40歳代	49.3	20.3	7.2	13.0	4.3	7.2	-	1.4
50歳代	47.4	26.9	9.0	3.8	2.6	3.8	1.3	1.3
60歳代	39.6	27.4	10.4	6.6	5.7	4.7	0.9	2.8
70歳以上	33.0	26.2	8.7	1.0	8.7	4.9	1.0	5.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

問 13 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。《○は3つまで》

「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」の割合が 37.9%、「家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す」の割合が 27.7%となっています。

他年度調査と比較すると、「学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」「職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす」の割合が年々増加しています。一方、「女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する」「わからない」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」の割合が最も高くなっており、女性の割合は 51.4%と男性に比べ 6.5 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	女性の人権に関する相談体制を充実させる	男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する	学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる	家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す	方針や意思決定の場への女性の参画を促進する	女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する
全体	459	17.0	17.0	37.9	27.7	11.3	13.3
男性	198	17.2	21.7	36.9	27.3	14.1	11.1
女性	253	16.2	13.0	39.5	28.5	9.5	15.4

区分	仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る	男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する	職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	48.4	25.3	23.5	2.8	3.9	0.9	2.6
男性	44.9	21.7	24.7	4.5	3.5	1.0	2.0
女性	51.4	28.1	22.5	0.8	4.3	0.8	3.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で「仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」が上位に入っており、特に40歳代では62.3%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	女性の権利に関する相談体制を充実させる	男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する	進めるための教育・学習活動を充実させる	学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる	定期的な役割分担意識などを見直す	家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す	方針や意思決定の場への女性の参画を促進する	女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する
全体	459	17.0	17.0	37.9	27.7	11.3	13.3		
18、19、20歳代	36	19.4	16.7	38.9	25.0	5.6	16.7		
30歳代	62	16.1	11.3	29.0	27.4	9.7	16.1		
40歳代	69	15.9	8.7	40.6	21.7	5.8	18.8		
50歳代	78	12.8	17.9	37.2	33.3	12.8	9.0		
60歳代	106	20.8	18.9	40.6	34.9	15.1	14.2		
70歳以上	103	15.5	23.3	39.8	22.3	13.6	9.7		

区分	仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る	男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する	男女の待遇の差をなくす	職場において、採用や昇進、昇格などの男女の差をなくす	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	48.4	25.3	23.5	2.8	3.9	0.9	2.6	
18、19、20歳代	50.0	27.8	22.2	5.6	2.8	—	—	
30歳代	48.4	30.6	24.2	3.2	—	—	6.5	
40歳代	62.3	33.3	24.6	2.9	2.9	1.4	—	
50歳代	55.1	16.7	24.4	—	6.4	3.8	—	
60歳代	49.1	19.8	23.6	0.9	3.8	—	1.9	
70歳以上	33.0	28.2	23.3	3.9	5.8	—	5.8	

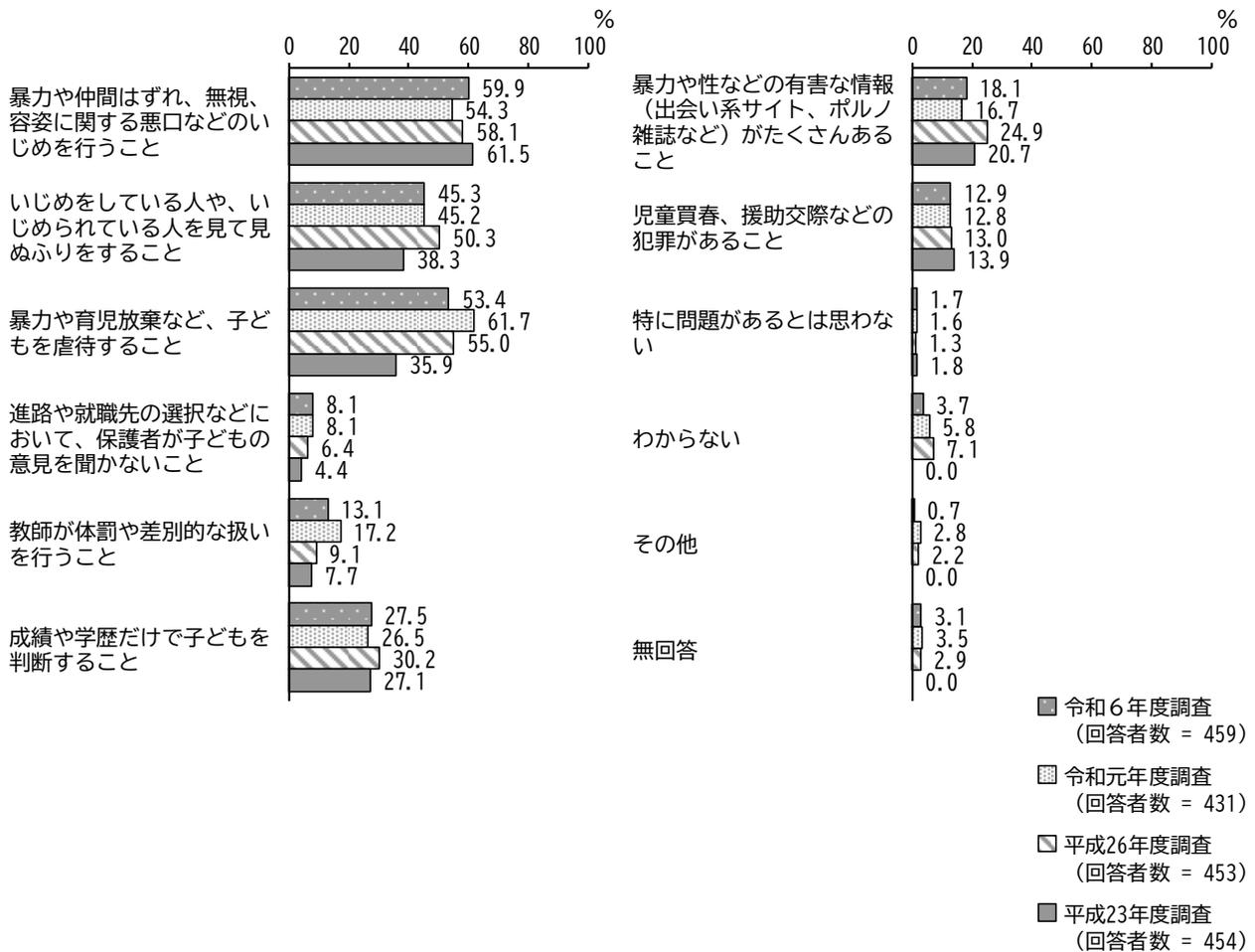
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

4 子どもの人権について

問 14 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 ※〇は3つまで

「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」の割合が59.9%と最も高く、次いで「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が53.4%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」の割合が45.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」の割合が5.6ポイント増加しています。一方、「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が8.3ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が高くなっています。また、女性では「暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること」の割合が22.9%と、男性に比べ、10.8ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事	暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること	進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと	教師が体罰や差別的な扱いを行うこと	成績や学歴だけではない子どもを判断すること
全体	459	59.9	45.3	53.4	8.1	13.1	27.5
男性	198	60.6	48.5	54.0	8.6	12.1	26.8
女性	253	60.1	42.3	52.6	7.9	13.4	28.1

区分	暴力や性などの有害な情報(出会い系サイト、ポルノ雑誌など)がたくさんあること	児童買春、援助交際などの犯罪があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	18.1	12.9	1.7	3.7	0.7	3.1
男性	12.1	9.1	2.0	3.5	1.0	2.5
女性	22.9	16.2	1.2	4.0	0.4	3.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」が上位に入っています。30歳代では「暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと」の割合が72.6%、50歳代では「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」の割合が64.1%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事	暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること	進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと	教師が体罰や差別的な扱いを行うこと	成績や学歴だけで子どもを判断すること
全体	459	59.9	45.3	53.4	8.1	13.1	27.5
18、19、20歳代	36	66.7	41.7	52.8	13.9	11.1	25.0
30歳代	62	72.6	38.7	58.1	9.7	21.0	21.0
40歳代	69	63.8	46.4	58.0	7.2	11.6	29.0
50歳代	78	59.0	48.7	64.1	6.4	10.3	26.9
60歳代	106	55.7	50.9	53.8	11.3	13.2	26.4
70歳以上	103	53.4	40.8	38.8	3.9	12.6	33.0

区分	暴力や性などの有害な情報(出会い系サイト、ポルノ雑誌など)がたくさんあること	児童買春 援助交際などの犯罪があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	18.1	12.9	1.7	3.7	0.7	3.1
18、19、20歳代	16.7	13.9	—	2.8	—	2.8
30歳代	12.9	19.4	1.6	1.6	1.6	4.8
40歳代	20.3	14.5	—	1.4	2.9	1.4
50歳代	17.9	15.4	2.6	—	—	5.1
60歳代	19.8	8.5	0.9	4.7	—	1.9
70歳以上	18.4	10.7	2.9	8.7	—	2.9

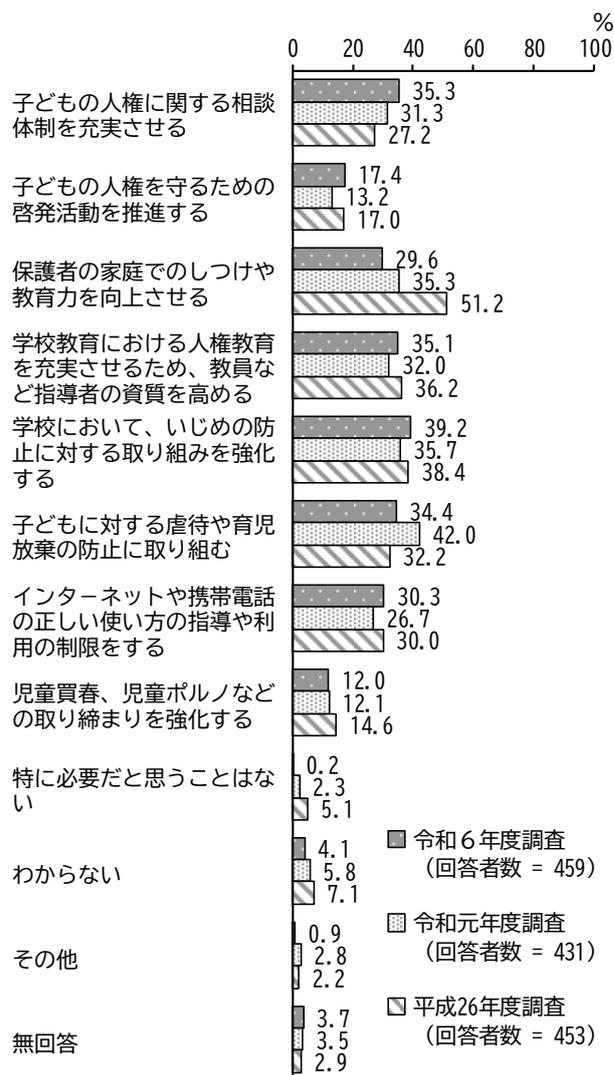
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問15 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

「学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する」の割合が39.2%と最も高く、次いで「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」の割合が35.3%、「学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める」の割合が35.1%となっています。

他年度調査と比較すると、「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」の割合が年々増加しています。一方、「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」「児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別で見ると、男女ともに「学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する」の割合が最も高くなっています。また、女性に比べ、男性で「保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる」の割合が37.9%と、15.0ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	子どもの人権に関する相談体制を充実させる	子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる	学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める	学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する	子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む
全体	459	35.3	17.4	29.6	35.1	39.2	34.4
男性	198	35.9	20.2	37.9	34.8	39.4	30.3
女性	253	34.4	15.8	22.9	34.8	39.1	37.9

区分	インターネットや携帯電話の正しい使い方や利便性の制限をする	児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	30.3	12.0	0.2	4.1	0.9	3.7
男性	27.8	8.1	—	5.1	0.5	2.5
女性	32.4	14.2	0.4	3.6	1.2	4.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別で見ると、他の年代に比べ、18、19、20歳代で「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」の割合が47.2%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	子どもの人権に関する相談体制を充実させる	子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる	学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める	学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する	子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む
全体	459	35.3	17.4	29.6	35.1	39.2	34.4
18、19、20歳代	36	47.2	13.9	19.4	30.6	38.9	38.9
30歳代	62	33.9	19.4	38.7	27.4	41.9	40.3
40歳代	69	39.1	17.4	26.1	37.7	36.2	26.1
50歳代	78	28.2	14.1	29.5	35.9	46.2	38.5
60歳代	106	39.6	18.9	29.2	41.5	35.8	34.9
70歳以上	103	30.1	19.4	29.1	32.0	37.9	32.0

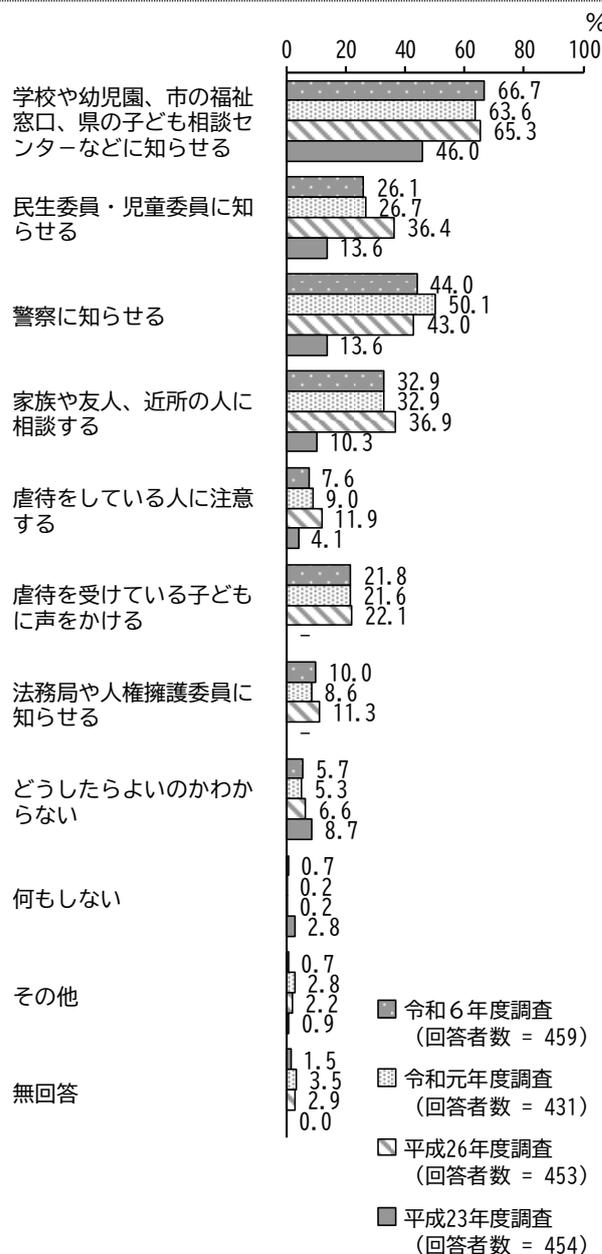
区分	インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする	児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	30.3	12.0	0.2	4.1	0.9	3.7
18、19、20歳代	33.3	13.9	—	2.8	2.8	—
30歳代	33.9	12.9	—	3.2	1.6	6.5
40歳代	36.2	8.7	—	4.3	—	2.9
50歳代	29.5	14.1	—	3.8	2.6	2.6
60歳代	34.0	9.4	—	2.8	—	1.9
70歳以上	20.4	13.6	1.0	6.8	—	6.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 16 あなたが児童虐待を発見したらどうしますか。《○はいくつでも》

「学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる」の割合が 66.7% と最も高く、次いで「警察に知らせる」の割合が 44.0%、「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が 32.9%となっています。

他年度調査と比較すると、「学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる」の割合が、令和元年度調査で 1.7 ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。



※平成 23 年度調査では、「虐待を受けている子どもに声をかける」「法務局や人権擁護委員に知らせる」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、「学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる」の割合が最も高くなっており、女性の割合は71.5%と、男性に比べ、9.9ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が40.3%と、17.1ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる	民生委員・児童委員に知らせる	警察に知らせる	家族や友人、近所の人に相談する	虐待をしている人に注意する	虐待を受けている子どもに声をかける	法務局や人権擁護委員に知らせる	どうしたらよいかわからない	何もしない	その他	無回答
全体	459	66.7	26.1	44.0	32.9	7.6	21.8	10.0	5.7	0.7	0.7	1.5
男性	198	61.6	26.3	49.0	23.2	12.1	21.2	9.6	5.1	1.5	1.0	2.0
女性	253	71.5	26.5	39.5	40.3	4.0	21.7	10.3	5.9	—	0.4	1.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる」「警察に知らせる」「家族や友人、近所の人に相談する」の割合が高くなっています。他の年代に比べ、18、19、20歳代で「どうしたらよいかわからない」の割合が13.9%、70歳以上で「民生委員・児童委員に知らせる」の割合が40.8%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる	民生委員・児童委員に知らせる	警察に知らせる	家族や友人、近所の人に相談する	虐待をしている人に注意する	虐待を受けている子どもに声をかける	法務局や人権擁護委員に知らせる	どうしたらよいかわからない	何もしない	その他	無回答
全体	459	66.7	26.1	44.0	32.9	7.6	21.8	10.0	5.7	0.7	0.7	1.5
18、19、20歳代	36	58.3	8.3	41.7	33.3	5.6	19.4	8.3	13.9	2.8	—	—
30歳代	62	67.7	14.5	51.6	38.7	4.8	29.0	9.7	6.5	1.6	1.6	1.6
40歳代	69	66.7	21.7	46.4	33.3	2.9	20.3	8.7	4.3	1.4	—	1.4
50歳代	78	73.1	19.2	47.4	24.4	6.4	19.2	7.7	9.0	—	1.3	—
60歳代	106	71.7	34.0	42.5	33.0	7.5	20.8	11.3	4.7	—	0.9	—
70歳以上	103	60.2	40.8	36.9	34.0	13.6	22.3	12.6	1.9	—	—	4.9

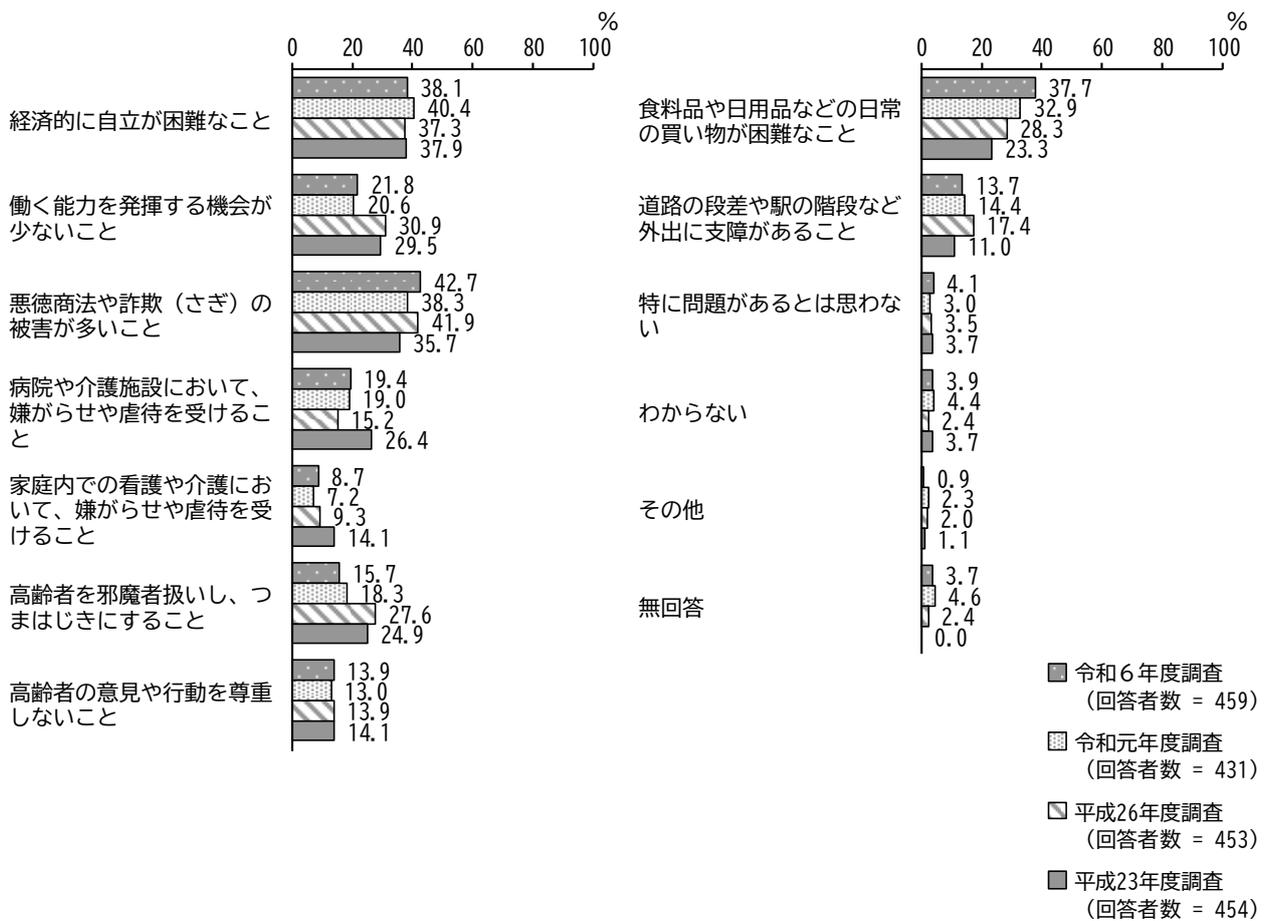
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

5 高齢者の人権について

問 17 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 《○は3つまで》

「悪徳商法や詐欺（さぎ）の被害が多いこと」の割合が42.7%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」の割合が38.1%、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合が37.7%となっています。

他年度調査と比較すると、「食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと」の割合が年々増加しており、平成23年度調査から14.4ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「悪徳商法や詐欺（さぎ）の被害が多いこと」の割合が最も高くなっており、4割を超えています。

単位：％

区分	回答者数(件)	経済的に自立が困難なこと	働く能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法や詐欺(さぎ)の被害が多いこと	病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること	家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること	高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	38.1	21.8	42.7	19.4	8.7	15.7	13.9	37.7	13.7	4.1	3.9	0.9	3.7
男性	198	36.4	19.2	43.4	13.6	7.6	18.7	14.1	35.9	16.2	4.5	3.0	—	3.5
女性	253	39.5	24.1	41.9	24.1	9.9	13.4	13.4	39.1	12.3	4.0	4.3	1.2	3.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代・40歳代・60歳代で「悪徳商法や詐欺（さぎ）の被害が多いこと」の割合が高くなっています。また、年代が高くなるにつれて「高齢者の意見や行動を尊重しないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	経済的に自立が困難なこと	働く能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法や詐欺(さぎ)の被害が多いこと	病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること	家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること	高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	38.1	21.8	42.7	19.4	8.7	15.7	13.9	37.7	13.7	4.1	3.9	0.9	3.7
18、19、20歳代	36	36.1	19.4	27.8	16.7	13.9	13.9	2.8	30.6	16.7	8.3	5.6	—	—
30歳代	62	41.9	22.6	50.0	16.1	8.1	11.3	6.5	45.2	16.1	4.8	1.6	1.6	4.8
40歳代	69	42.0	24.6	50.7	23.2	5.8	17.4	7.2	43.5	13.0	2.9	5.8	1.4	2.9
50歳代	78	38.5	21.8	38.5	21.8	14.1	10.3	9.0	32.1	14.1	3.8	7.7	1.3	3.8
60歳代	106	42.5	22.6	46.2	19.8	4.7	17.0	16.0	42.5	12.3	1.9	1.9	0.9	1.9
70歳以上	103	29.1	20.4	37.9	18.4	9.7	20.4	27.2	30.1	13.6	5.8	2.9	—	5.8

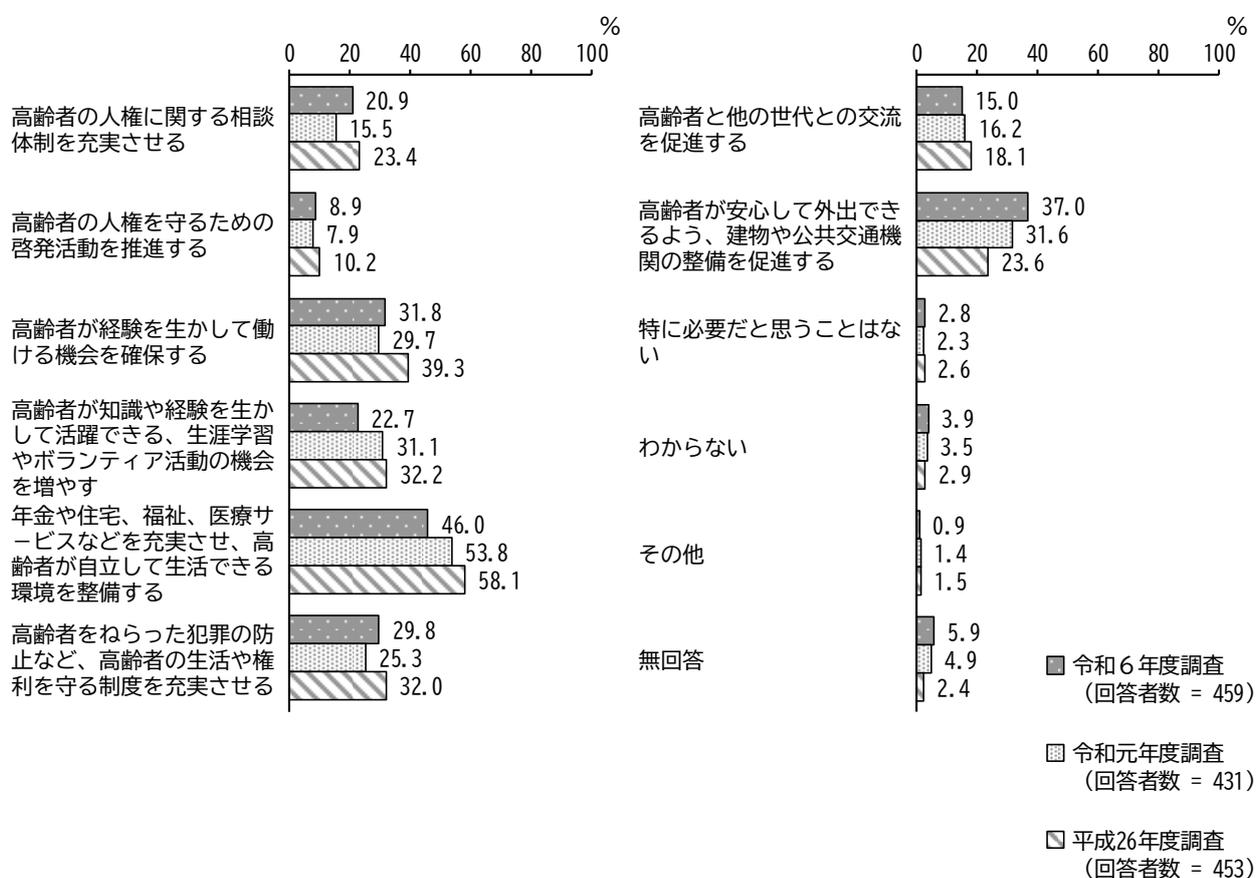
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 18 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」の割合が46.0%と最も高く、次いで「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が37.0%、「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」の割合が31.8%となっています。

他年度調査と比較すると、「高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が年々増加しています。一方、「高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」「高齢者和其他の世代との交流を促進する」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」の割合が最も高くなっており、女性の割合は52.6%と、男性に比べ、14.2ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	高齢者の人権に関する相談体制を充実させる	高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する	高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす	年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する	高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる
全体	459	20.9	8.9	31.8	22.7	46.0	29.8
男性	198	23.2	11.1	31.3	21.7	38.4	29.3
女性	253	19.4	7.5	31.6	23.7	52.6	30.4

区分	高齢者と他の世代との交流を促進する	高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
全体	15.0	37.0	2.8	3.9	0.9	5.9
男性	12.6	34.8	4.0	4.0	-	6.1
女性	16.6	39.9	1.6	3.6	1.6	5.5

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれて「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代・30歳代で「高齢者との交流を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	高齢者の人権に関する相談体制を充実させる	高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する	高齢者が知識や経験を生かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす	年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する	高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる
全体	459	20.9	8.9	31.8	22.7	46.0	29.8
18、19、20歳代	36	19.4	19.4	27.8	30.6	30.6	25.0
30歳代	62	14.5	4.8	37.1	17.7	38.7	37.1
40歳代	69	20.3	5.8	39.1	26.1	39.1	33.3
50歳代	78	16.7	9.0	35.9	25.6	44.9	30.8
60歳代	106	22.6	9.4	31.1	20.8	52.8	28.3
70歳以上	103	27.2	9.7	22.3	20.4	55.3	26.2

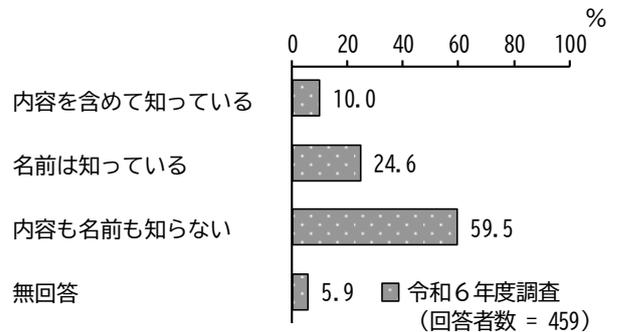
区分	高齢者との交流を促進する	高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答
全体	15.0	37.0	2.8	3.9	0.9	5.9
18、19、20歳代	25.0	16.7	5.6	8.3	—	—
30歳代	21.0	43.5	—	4.8	—	3.2
40歳代	13.0	39.1	4.3	5.8	4.3	4.3
50歳代	14.1	41.0	2.6	3.8	1.3	5.1
60歳代	16.0	40.6	1.9	0.9	—	3.8
70歳以上	8.7	34.0	2.9	3.9	—	12.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

6 障がい者の人権について

問 19 国では、平成 28 年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、「障害者差別解消法」と言います。）が施行されました。あなたは、この法律を知っていますか。《○は1つだけ》

「内容も名前も知らない」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「名前は知っている」の割合が 24.6%、「内容を含めて知っている」の割合が 10.0%となっています。



【性別】

性別で見ると、男女ともに「内容も名前も知らない」の割合が最も高くなっており、5割を超えています。

単位：%

区分	回答者数(件)	内容を含めて知っている	名前は知っている	内容も名前も知らない	無回答
全体	459	10.0	24.6	59.5	5.9
男性	198	8.6	20.7	65.2	5.6
女性	253	11.1	28.1	55.3	5.5

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で「内容も名前も知らない」の割合が高くなっています。特に、40歳代が 72.5%と最も高くなっています。

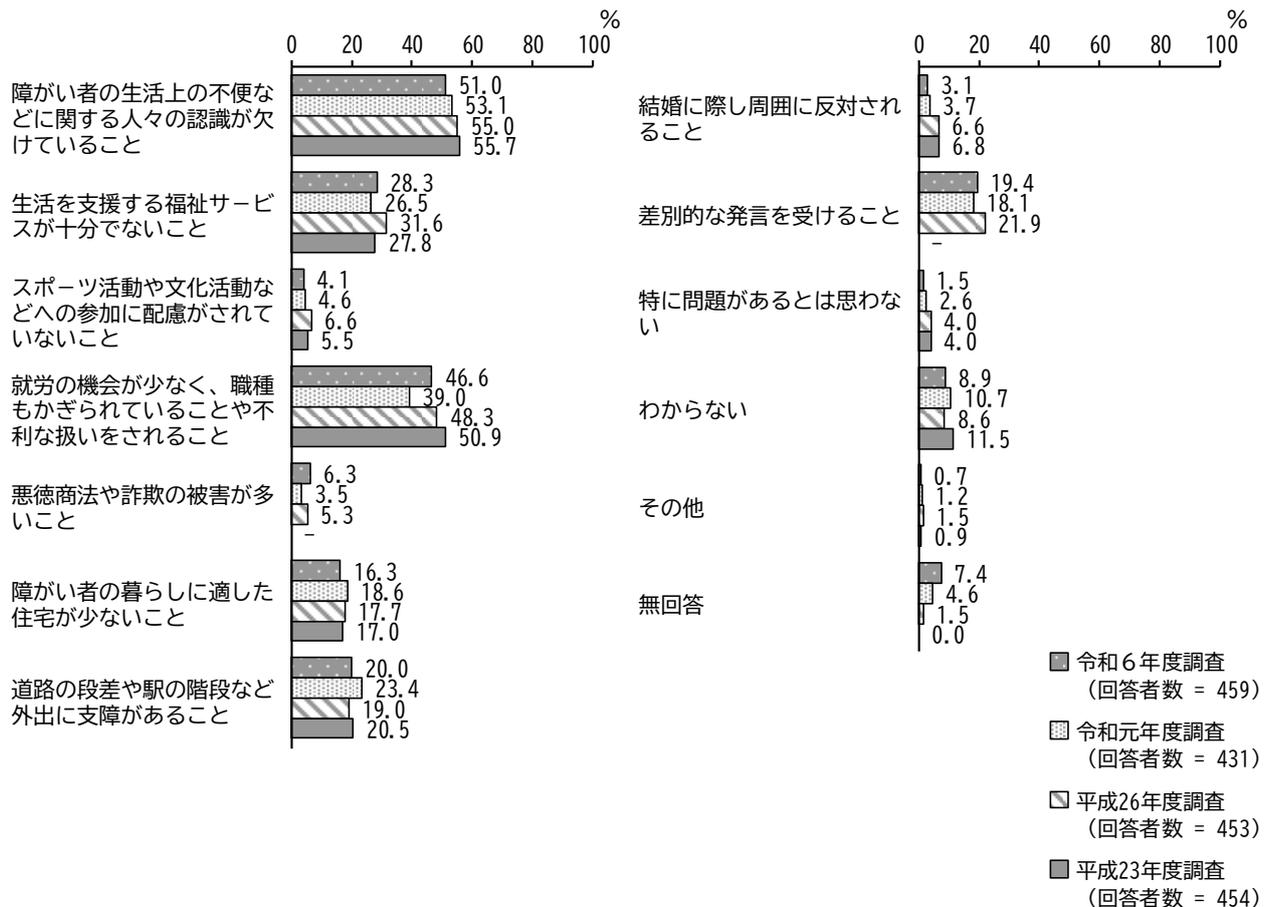
単位：%

区分	回答者数(件)	内容を含めて知っている	名前は知っている	内容も名前も知らない	無回答
全体	459	10.0	24.6	59.5	5.9
18、19、20歳代	36	11.1	30.6	55.6	2.8
30歳代	62	12.9	19.4	64.5	3.2
40歳代	69	7.2	15.9	72.5	4.3
50歳代	78	10.3	21.8	64.1	3.8
60歳代	106	10.4	25.5	61.3	2.8
70歳以上	103	9.7	33.0	44.7	12.6

問 20 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は3つまで》

「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合が 46.6%、「生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」の割合が 28.3%となっています。

他年度調査と比較すると、「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」「結婚に際し周囲に反対されること」の割合が年々減少しています。



※平成 23 年度調査では、「悪徳商法や詐欺の被害が多いこと」「差別的な発言を受けること」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」の割合が最も高く、次いで「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること	生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと	就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	51.0	28.3	4.1	46.6	6.3	16.3	20.0	3.1	19.4	1.5	8.9	0.7	7.4
男性	198	49.0	30.3	5.6	44.4	9.1	16.2	22.2	3.5	16.2	1.0	8.1	0.5	7.6
女性	253	53.4	26.9	3.2	49.0	3.6	15.8	19.0	2.8	22.1	2.0	9.1	0.8	7.1

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」「就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、30歳代で「差別的な発言を受けること」の割合が35.5%と高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること	生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと	就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること	悪徳商法や詐欺の被害が多いこと	障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと	道路の段差や駅の階段など外出に支障があること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	51.0	28.3	4.1	46.6	6.3	16.3	20.0	3.1	19.4	1.5	8.9	0.7	7.4
18、19、20歳代	36	38.9	22.2	2.8	47.2	2.8	13.9	16.7	5.6	30.6	2.8	11.1	—	2.8
30歳代	62	45.2	32.3	3.2	48.4	1.6	16.1	22.6	3.2	35.5	—	9.7	1.6	6.5
40歳代	69	53.6	36.2	4.3	46.4	5.8	18.8	18.8	5.8	15.9	—	10.1	—	4.3
50歳代	78	52.6	30.8	5.1	53.8	3.8	15.4	17.9	2.6	20.5	2.6	7.7	1.3	6.4
60歳代	106	62.3	28.3	3.8	52.8	5.7	17.0	20.8	1.9	15.1	0.9	4.7	—	2.8
70歳以上	103	45.6	21.4	4.9	35.0	12.6	14.6	22.3	1.9	11.7	2.9	11.7	1.0	16.5

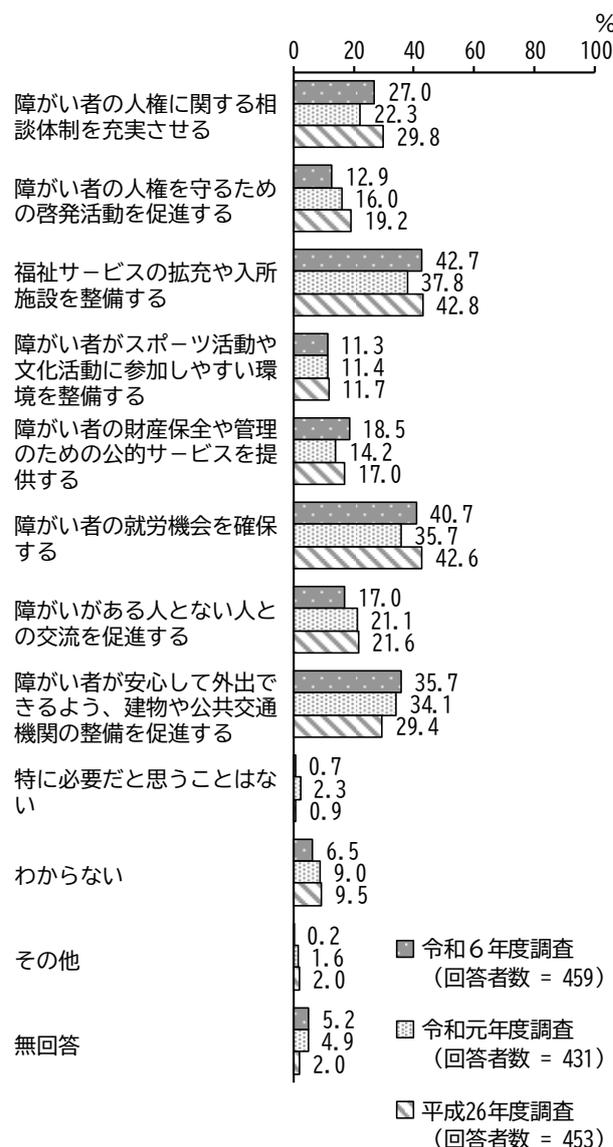
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 21 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」の割合が42.7%と最も高く、次いで「障がい者の就労機会を確保する」の割合が40.7%、「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が35.7%となっています。

他年度調査と比較すると、「障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する」の割合が年々増加しています。一方、「障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する」「障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する」「障がいがある人とない人との交流を促進する」「わからない」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別で見ると、男女ともに「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」「障がい者の就労機会を確保する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障がい者の人権に 関する相談体制を 充実させる	障がい者の人権を 守るための啓発活 動を促進する	福祉サービスの拡 充や入所施設を整 備する	障がい者がスポー ツ活動や文化活動 に参加しやすい環 境を整備する	障がい者の財産保 全や管理のための 公的サービスを提 供する	障がい者の就労機 会を確保する
全 体	459	27.0	12.9	42.7	11.3	18.5	40.7
男性	198	30.3	14.1	40.4	12.1	19.7	40.4
女性	253	24.9	11.9	44.7	11.1	17.4	41.5

区分	障がいがある人と ない人との交流を 促進する	障がい者が安心し て外出できるよう、 建物や公共交通機 関の整備を促進す る	特に必要だと思 う ことはない	わからない	その他	無回答
全 体	17.0	35.7	0.7	6.5	0.2	5.2
男性	14.6	34.8	1.0	4.5	—	5.6
女性	19.4	36.4	0.4	7.9	0.4	4.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代・50歳代・60歳代で「福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」の割合が高くなっています。また、40歳代では「障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する」の割合が30.4%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	障がい者の人権に 関する相談体制を 充実させる	障がい者の人権を 守るための啓発活 動を促進する	福祉サービスの拡 充や入所施設を整 備する	障がい者がスポー ツ活動や文化活動 に参加しやすい環 境を整備する	障がい者の財産保 全や管理のための 公的サービスを提供 する	障がい者の就労機 会を確保する
全体	459	27.0	12.9	42.7	11.3	18.5	40.7
18、19、 20歳代	36	30.6	13.9	22.2	5.6	22.2	38.9
30歳代	62	16.1	11.3	38.7	12.9	12.9	46.8
40歳代	69	29.0	15.9	47.8	10.1	30.4	43.5
50歳代	78	24.4	6.4	48.7	10.3	15.4	44.9
60歳代	106	30.2	12.3	50.0	16.0	20.8	38.7
70歳以上	103	31.1	16.5	35.9	9.7	11.7	36.9

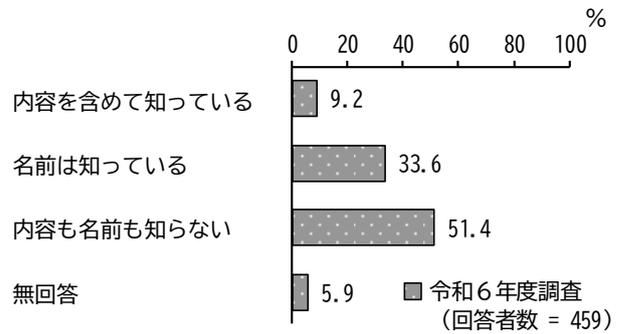
区分	障がいがある人と ない人との交流を 促進する	障がい者が安心し て外出できるよう、 建物や公共交通機 関の整備を促進す る	特に必要だと思 うことはない	わからない	その他	無回答
全体	17.0	35.7	0.7	6.5	0.2	5.2
18、19、 20歳代	22.2	30.6	—	8.3	—	—
30歳代	17.7	38.7	—	12.9	—	4.8
40歳代	17.4	33.3	—	7.2	—	2.9
50歳代	21.8	32.1	—	3.8	1.3	5.1
60歳代	16.0	34.9	0.9	2.8	—	2.8
70歳以上	12.6	40.8	1.9	7.8	—	10.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

7 同和問題（部落差別）について

問 22 あなたは「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」を知っていますか。《○は1つだけ》

「内容も名前も知らない」の割合が51.4%と最も高く、次いで「名前は知っている」の割合が33.6%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「内容も名前も知らない」の割合が高くなっており、5割程度となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	内容を含めて知っている	名前は知っている	内容も名前も知らない	無回答
全体	459	9.2	33.6	51.4	5.9
男性	198	10.6	29.3	55.1	5.1
女性	253	8.3	37.2	49.0	5.5

【年代別】

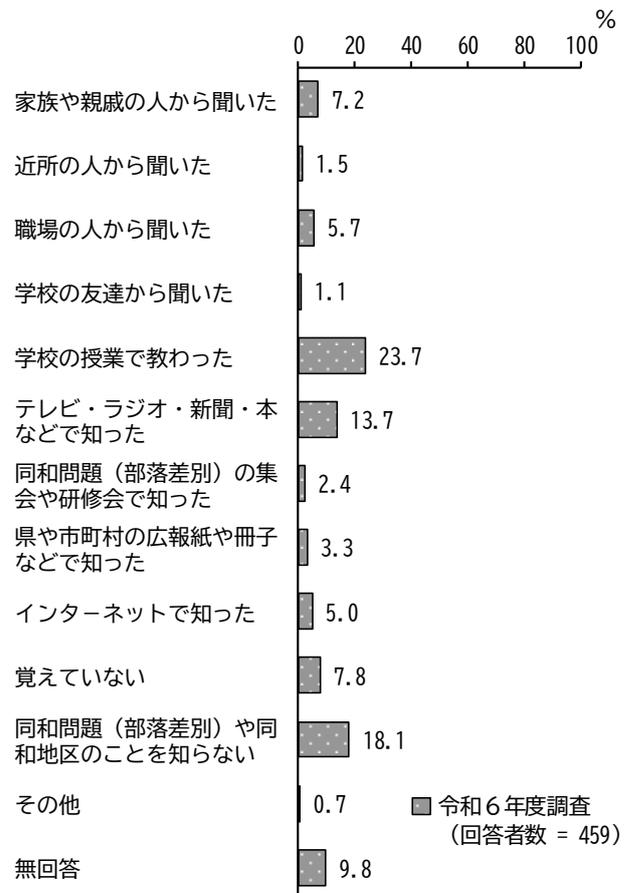
年代別でみると、70歳以上を除いて「内容も名前も知らない」の割合が高くなっています。70歳以上では「名前は知っている」の割合が「内容も名前も知らない」より高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	内容を含めて知っている	名前は知っている	内容も名前も知らない	無回答
全体	459	9.2	33.6	51.4	5.9
18、19、20歳代	36	11.1	25.0	63.9	—
30歳代	62	8.1	17.7	71.0	3.2
40歳代	69	5.8	33.3	58.0	2.9
50歳代	78	6.4	38.5	50.0	5.1
60歳代	106	15.1	32.1	50.9	1.9
70歳以上	103	7.8	43.7	34.0	14.6

問 23 あなたが同和問題（部落差別）や同和地区について、はじめて知ったきっかけは何ですか。《○は1つだけ》

「学校の授業で教わった」の割合が 23.7%と最も高く、次いで「同和問題（部落差別）や同和地区のことを知らない」の割合が 18.1%、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」の割合が 13.7%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「学校の授業で教わった」の割合が高くなっており、女性の割合は27.7%と男性に比べ8.5ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族や親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友達から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	同和問題(部落差別)の集会や研修会で知った	県や市町村の広報紙や冊子などで知った	インターネットで知った	覚えていない	同和問題(部落差別)や同和地区のことを知らない	その他	無回答
全体	459	7.2	1.5	5.7	1.1	23.7	13.7	2.4	3.3	5.0	7.8	18.1	0.7	9.8
男性	198	5.1	2.5	7.6	2.0	19.2	12.6	3.5	2.0	8.1	8.1	19.2	0.5	9.6
女性	253	8.7	0.8	4.3	0.4	27.7	14.6	1.6	4.0	2.8	7.5	17.8	0.8	9.1

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【年代別】

年代別でみると、18、19、20歳代・40歳代・50歳代で「学校の授業で教わった」の割合が高くなっており、特に40歳代では、40.6%と高くなっております。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代では「インターネットで知った」の割合が19.4%と高くなっています。

単位：%

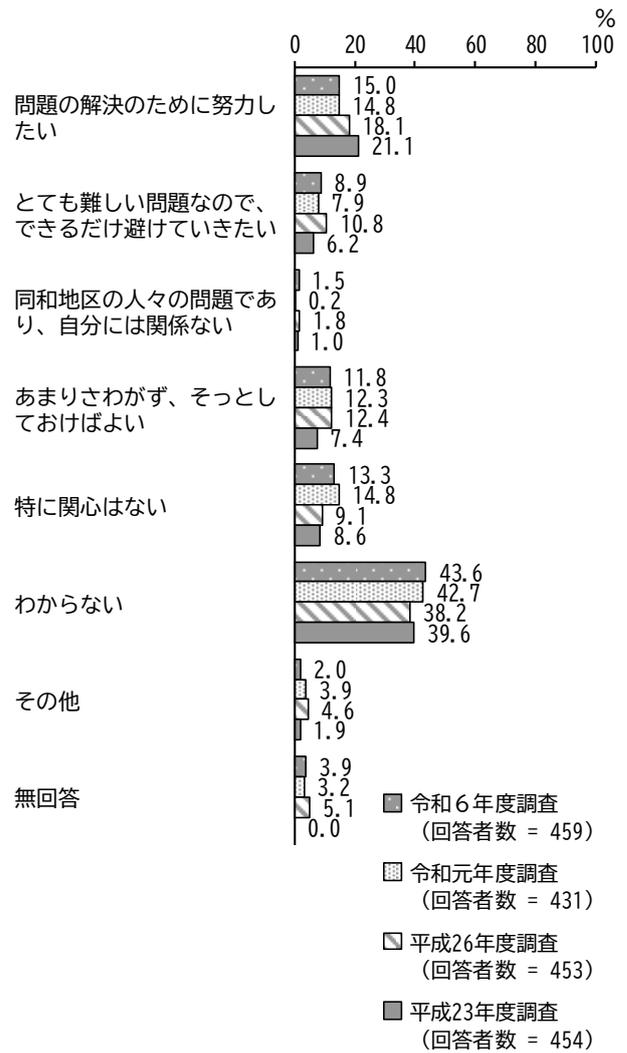
区分	回答者数(件)	家族や親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友達から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	同和問題(部落差別)の集会や研修会で知った	県や市町村の広報紙や冊子などで知った	インターネットで知った	覚えていない	同和問題(部落差別)や同和地区のことを知らない	その他	無回答
全体	459	7.2	1.5	5.7	1.1	23.7	13.7	2.4	3.3	5.0	7.8	18.1	0.7	9.8
18、19、20歳代	36	5.6	-	-	-	36.1	11.1	-	-	19.4	11.1	13.9	-	2.8
30歳代	62	-	-	8.1	-	22.6	11.3	-	-	8.1	14.5	29.0	3.2	3.2
40歳代	69	5.8	-	2.9	2.9	40.6	5.8	1.4	2.9	8.7	8.7	14.5	1.4	4.3
50歳代	78	6.4	-	2.6	-	35.9	11.5	1.3	3.8	3.8	5.1	24.4	-	5.1
60歳代	106	7.5	5.7	9.4	2.8	16.0	12.3	5.7	1.9	1.9	10.4	17.0	-	9.4
70歳以上	103	12.6	1.0	6.8	-	8.7	24.3	2.9	6.8	-	1.9	12.6	-	22.3

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

問 24 同和問題（部落差別）について、あなたはどのように考えますか。《○は1つだけ》

「わからない」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「問題の解決のために努力したい」の割合が 15.0%、「特に関心はない」の割合が 13.3%となっています。

他年度調査と比較すると、「わからない」の割合が、平成 26 年度調査で 1.4 ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。



【性別】

性別でみると、男女ともに「わからない」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	問題の解決のために努力したい	とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい	同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない	いとあまりさわがず、そっとしておけばよい	特に関心はない	わからない	その他	無回答
全体	459	15.0	8.9	1.5	11.8	13.3	43.6	2.0	3.9
男性	198	12.1	12.1	2.5	14.1	17.7	36.4	1.5	3.5
女性	253	17.4	6.7	0.8	9.9	9.5	49.8	2.4	3.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「わからない」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代で「特に関心はない」の割合が33.3%と高くなっています。

単位：％

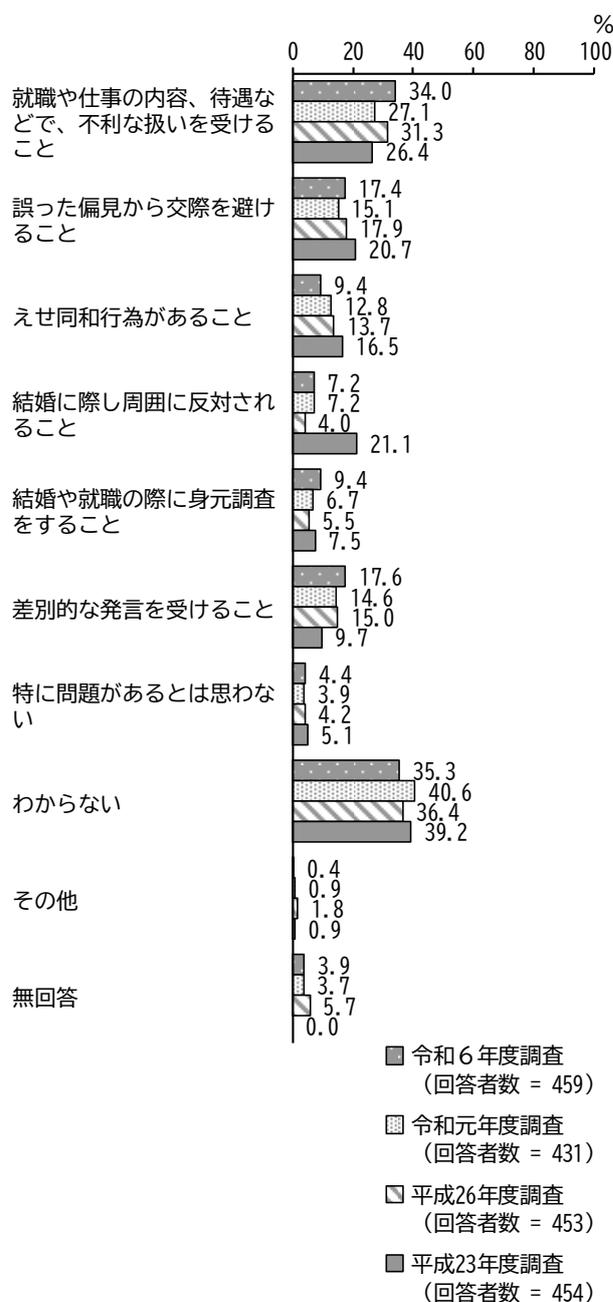
区分	回答者数(件)	問題の解決のために努力したい	とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい	同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない	いとあまりさわがず、そっとしておけばよい	特に関心はない	わからない	その他	無回答
全体	459	15.0	8.9	1.5	11.8	13.3	43.6	2.0	3.9
18、19、20歳代	36	11.1	8.3	—	11.1	33.3	30.6	5.6	—
30歳代	62	11.3	12.9	3.2	17.7	21.0	30.6	1.6	1.6
40歳代	69	26.1	5.8	1.4	5.8	10.1	44.9	4.3	1.4
50歳代	78	19.2	3.8	—	9.0	6.4	59.0	—	2.6
60歳代	106	10.4	13.2	1.9	14.2	9.4	47.2	0.9	2.8
70歳以上	103	12.6	8.7	1.9	11.7	12.6	40.8	1.9	9.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問25 同和問題（部落差別）について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
 «○は2つまで»

「わからない」の割合が35.3%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が34.0%、「差別的な発言を受けること」の割合が17.6%となっています。

他年度調査と比較すると、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が、令和元年度調査で4.2ポイント、「差別的な発言を受けること」の割合が、令和元年度調査で0.4ポイント減少しているものの、増加傾向にあります。一方、「えせ同和行為があること」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」「わからない」が上位に入っています。

単位：％

区分	回答者数(件)	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	誤った偏見から交際を避けること	えせ同和行為があること	結婚に際し周囲に反対されること	結婚や就職の際に身元調査をするこ	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	34.0	17.4	9.4	7.2	9.4	17.6	4.4	35.3	0.4	3.9
男性	198	32.8	20.2	10.1	5.6	11.1	16.7	7.1	32.8	—	2.5
女性	253	35.2	15.4	9.1	8.3	8.3	19.0	2.0	37.5	0.8	4.3

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」「わからない」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、30歳代で「誤った偏見から交際を避けること」の割合が27.4%と高くなっています。

単位：％

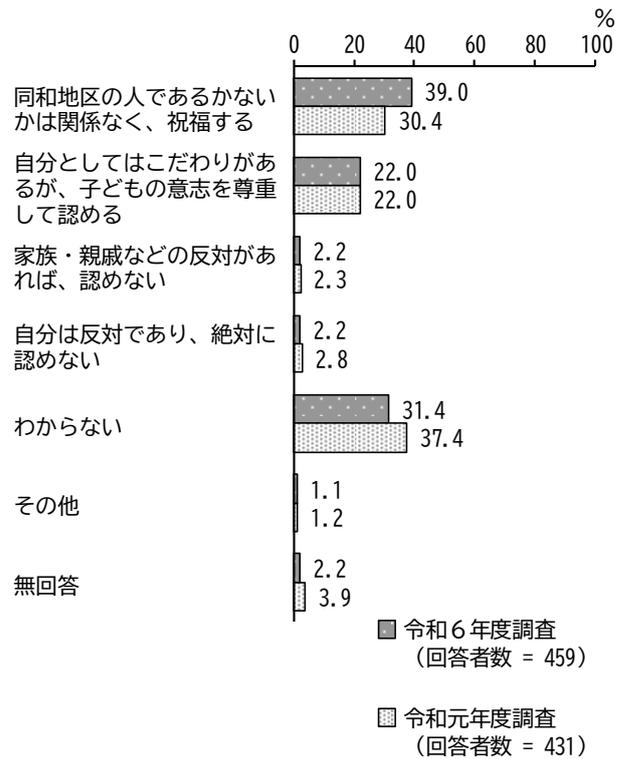
区分	回答者数(件)	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	誤った偏見から交際を避けること	えせ同和行為があること	結婚に際し周囲に反対されること	結婚や就職の際に身元調査をするこ	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	34.0	17.4	9.4	7.2	9.4	17.6	4.4	35.3	0.4	3.9
18、19、20歳代	36	36.1	11.1	5.6	5.6	13.9	22.2	—	41.7	—	—
30歳代	62	30.6	27.4	12.9	8.1	4.8	21.0	3.2	32.3	1.6	—
40歳代	69	34.8	20.3	8.7	11.6	7.2	13.0	5.8	30.4	1.4	5.8
50歳代	78	34.6	19.2	2.6	5.1	12.8	16.7	2.6	43.6	—	2.6
60歳代	106	38.7	17.0	12.3	8.5	11.3	17.9	2.8	32.1	—	0.9
70歳以上	103	29.1	11.7	11.7	3.9	7.8	18.4	7.8	35.9	—	9.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 26 あなたのお子さんが（いらっしゃる場合は、いると仮定してお考えください）、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。《○は1つだけ》

「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 31.4%、「自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める」の割合が 22.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」の割合が 8.6 ポイント増加しています。一方、「わからない」の割合が 6.0 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」の割合が最も高くなっています。また、女性に比べ、男性で「自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める」の割合が27.3%と、9.9ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する	自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める	家族・親戚などの反対があれば、認めない	自分は反対であり、絶対に認めない	わからない	その他	無回答
全体	459	39.0	22.0	2.2	2.2	31.4	1.1	2.2
男性	198	38.4	27.3	2.0	2.0	27.8	1.0	1.5
女性	253	39.9	17.4	2.4	2.4	34.4	1.2	2.4

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する」の割合が高くなっています。また、年代が高くなるにつれて「自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める」割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する	自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める	家族・親戚などの反対があれば、認めない	自分は反対であり、絶対に認めない	わからない	その他	無回答
全体	459	39.0	22.0	2.2	2.2	31.4	1.1	2.2
18、19、20歳代	36	50.0	13.9	—	—	33.3	2.8	—
30歳代	62	38.7	14.5	3.2	3.2	38.7	1.6	—
40歳代	69	58.0	15.9	1.4	1.4	20.3	1.4	1.4
50歳代	78	37.2	20.5	—	2.6	38.5	1.3	—
60歳代	106	34.0	25.5	3.8	1.9	34.0	—	0.9
70歳以上	103	30.1	30.1	2.9	2.9	26.2	1.0	6.8

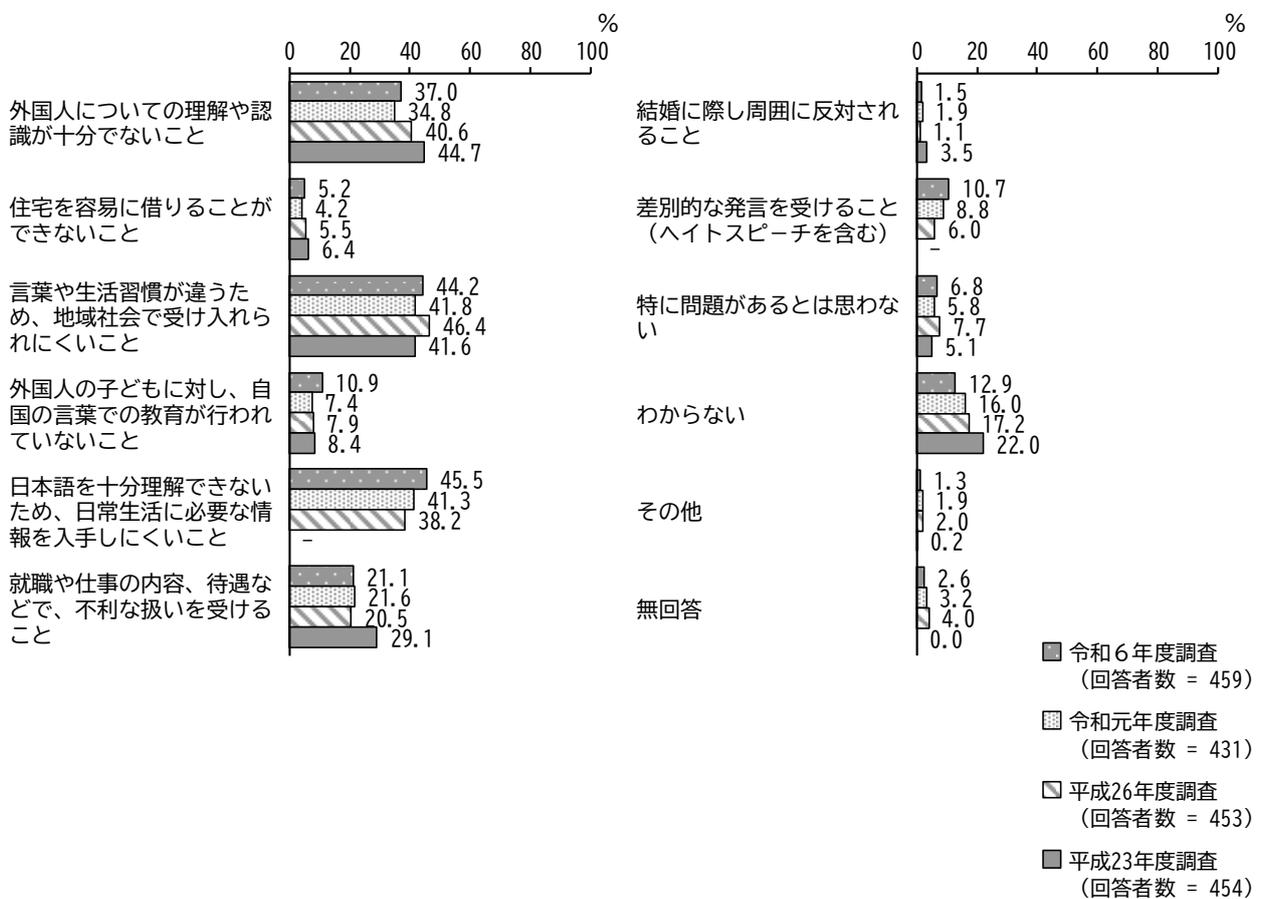
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

8 外国人の人権について

問 27 日本に居住する外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は3つまで》

「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」の割合が45.5%と最も高く、次いで「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が44.2%、「外国人についての理解や認識が十分でないこと」の割合が37.0%となっています。

他年度調査と比較すると、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」「差別的な発言を受けること（ヘイトスピーチを含む）」の割合が平成26年度調査から年々増加しています。一方、「わからない」の割合が年々減少しています。



※平成23年度調査では、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」「差別的な発言を受けること（ヘイトスピーチを含む）」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が48.5%と、7.4ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」の割合が51.0%と、12.6ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	外国人についての理解や認識が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと	外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと	日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
全 体	459	37.0	5.2	44.2	10.9	45.5	21.1
男性	198	40.4	5.6	48.5	9.6	38.4	20.7
女性	253	35.2	5.1	41.1	12.3	51.0	21.7

区分	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けけること(ハイトスピーチを含む)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全 体	1.5	10.7	6.8	12.9	1.3	2.6
男性	1.5	11.6	8.6	10.6	2.0	1.5
女性	1.6	10.3	5.1	14.6	0.8	2.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「外国人についての理解や認識が十分でないこと」「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと」が上位に入っています。また、年代が高くなるにつれて「言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	外国人についての理解や認識が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと	外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと	日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
全体	459	37.0	5.2	44.2	10.9	45.5	21.1
18、19、20歳代	36	36.1	11.1	38.9	13.9	38.9	22.2
30歳代	62	29.0	8.1	41.9	6.5	43.5	14.5
40歳代	69	37.7	4.3	43.5	15.9	49.3	18.8
50歳代	78	35.9	11.5	44.9	10.3	39.7	23.1
60歳代	106	39.6	0.9	45.3	10.4	50.9	27.4
70歳以上	103	40.8	1.9	46.6	10.7	44.7	18.4

区分	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けられること(ハイトスピーチを含む)	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	1.5	10.7	6.8	12.9	1.3	2.6
18、19、20歳代	2.8	16.7	11.1	5.6	2.8	—
30歳代	3.2	19.4	11.3	6.5	3.2	1.6
40歳代	—	10.1	5.8	17.4	1.4	1.4
50歳代	1.3	9.0	9.0	19.2	—	—
60歳代	2.8	10.4	2.8	12.3	1.9	0.9
70歳以上	—	5.8	4.9	12.6	—	7.8

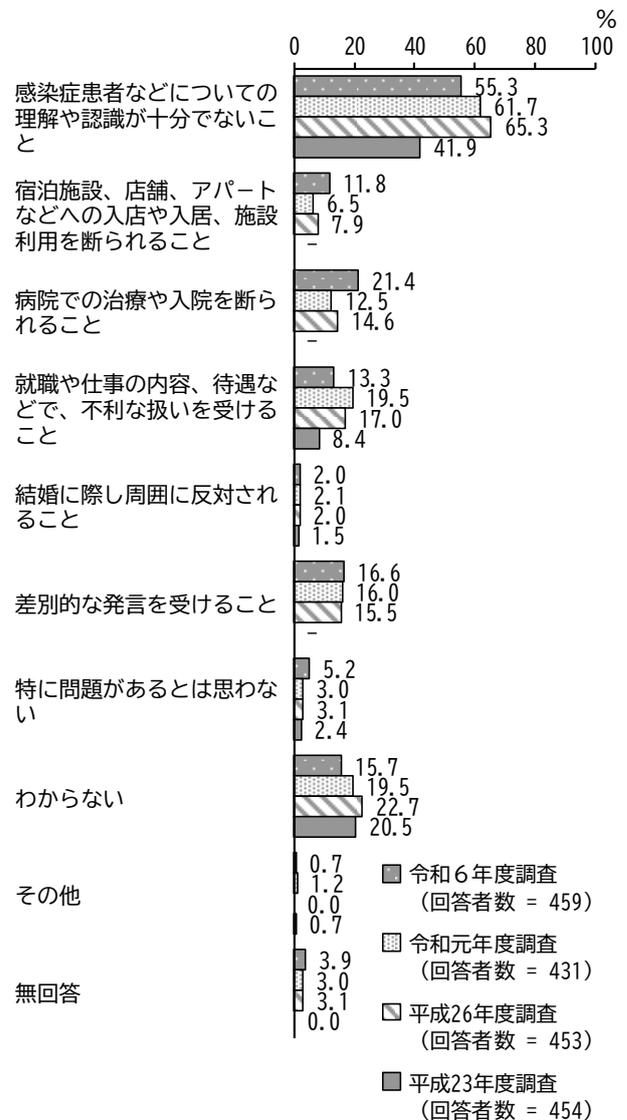
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

9 感染症患者などの人権について

問 28 感染症患者などの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「病院での治療や入院を断られること」の割合が 21.4%、「差別的な発言を受けること」の割合が 16.6%となっています。

他年度調査と比較すると、「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が、平成 23 年度調査から 13.4 ポイント増加していますが、平成 26 年度調査以降は年々減少しています。また、令和元年度調査と比較すると、「病院での治療や入院を断られること」の割合が 8.9 ポイント増加しています。



※平成 23 年度調査では、「宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること」「病院での治療や入院を断られること」「差別的な発言を受けること」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が最も高くなっており、5割を超えています。

単位：％

区分	回答者数(件)	感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと	宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること	病院での治療や入院を断られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	55.3	11.8	21.4	13.3	2.0	16.6	5.2	15.7	0.7	3.9
男性	198	53.0	14.6	24.2	12.1	3.0	14.6	6.6	12.1	1.0	4.5
女性	253	57.7	9.9	19.0	14.2	1.2	17.4	4.0	18.6	0.4	3.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと」の割合が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代・30歳代で「差別的な発言を受けること」の割合が高くなっています。

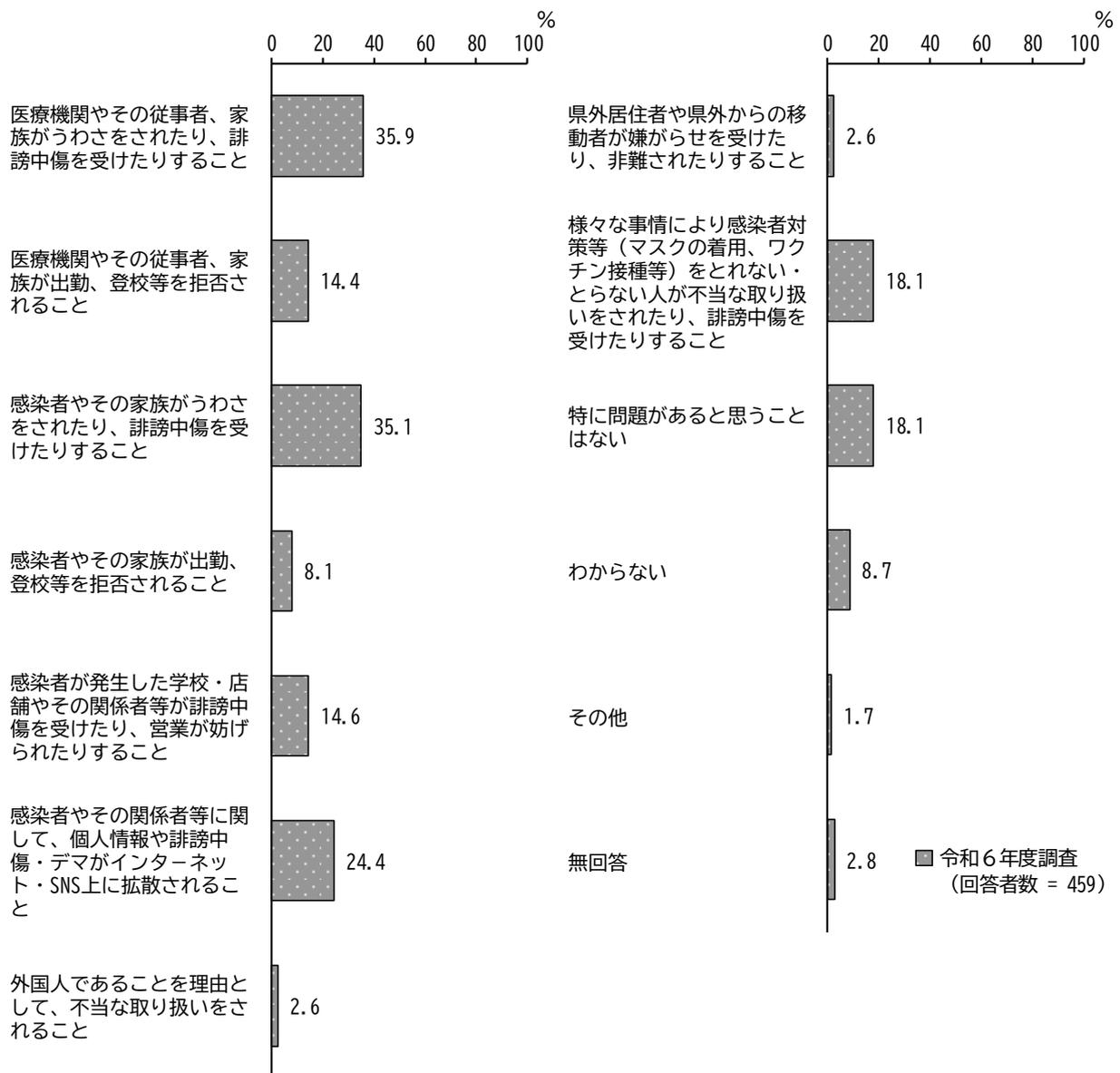
単位：％

区分	回答者数(件)	感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと	宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること	病院での治療や入院を断られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	55.3	11.8	21.4	13.3	2.0	16.6	5.2	15.7	0.7	3.9
18、19、20歳代	36	47.2	22.2	5.6	8.3	5.6	25.0	8.3	16.7	—	2.8
30歳代	62	53.2	17.7	22.6	14.5	3.2	27.4	4.8	6.5	1.6	1.6
40歳代	69	55.1	14.5	23.2	11.6	2.9	17.4	7.2	15.9	—	1.4
50歳代	78	56.4	9.0	19.2	15.4	1.3	10.3	6.4	20.5	1.3	2.6
60歳代	106	66.0	10.4	24.5	17.0	—	16.0	1.9	11.3	—	1.9
70歳以上	103	48.5	6.8	23.3	9.7	1.9	12.6	4.9	21.4	1.0	9.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 29 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は3つまで》

「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が35.9%と最も高く、次いで「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が35.1%、「感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること」の割合が24.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」が上位に入っています。

単位：%

区分	回答者数(件)	医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	医療機関やその従事者、家族が出勤、登校等を拒否されること	感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	感染者やその家族が出勤、登校等を拒否されること	感染者が発生した学校・店舗やその関係者等が誹謗中傷を受けたり、営業が妨げられたりすること	感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること
全体	459	35.9	14.4	35.1	8.1	14.6	24.4
男性	198	38.9	15.7	36.4	7.6	12.6	21.2
女性	253	33.6	13.4	34.0	7.9	16.2	27.3

区分	外国人であることを理由として、不当な取り扱いをされること	県外居住者や県外からの移動者が嫌がらせを受けたり、非難されたりすること	様々な事情により感染者対策等(マスクの着用、ワクチン接種等)をとれない・とらない人が不当な取り扱いをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	2.6	2.6	18.1	18.1	8.7	1.7	2.8
男性	1.5	3.0	12.1	22.2	9.1	0.5	2.0
女性	3.6	2.4	22.9	15.0	8.3	2.8	3.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が高くなっています。30歳代では「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が48.4%、40歳代では「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」の割合が43.5%と高くなっています。

単位：%

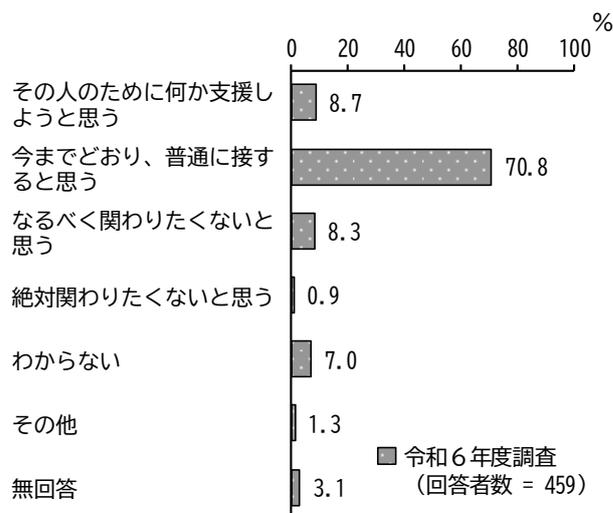
区分	回答者数(件)	医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	医療機関やその従事者、家族が出勤、登校等を拒否されること	感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	感染者やその家族が出勤、登校等を拒否されること	感染者が発生した学校・店舗やその関係者等が誹謗中傷を受けたり、営業が妨げられたりすること	感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること
全体	459	35.9	14.4	35.1	8.1	14.6	24.4
18、19、20歳代	36	41.7	19.4	25.0	8.3	5.6	25.0
30歳代	62	48.4	17.7	33.9	8.1	17.7	33.9
40歳代	69	37.7	10.1	43.5	7.2	15.9	27.5
50歳代	78	33.3	10.3	28.2	7.7	15.4	26.9
60歳代	106	36.8	17.0	36.8	8.5	17.0	16.0
70歳以上	103	26.2	14.6	36.9	6.8	12.6	24.3

区分	外国人であることを理由として、不当な取り扱いをされること	県外居住者や県外からの移動者が嫌がらせを受けたり、非難されたりすること	様々な事情により感染者対策等(マスクの着用、ワクチン接種等)をとれない・とらない人が不当な取り扱いをされたり、誹謗中傷を受けたりすること	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	2.6	2.6	18.1	18.1	8.7	1.7	2.8
18、19、20歳代	-	-	8.3	25.0	11.1	-	-
30歳代	4.8	6.5	25.8	9.7	4.8	1.6	3.2
40歳代	1.4	4.3	27.5	14.5	8.7	1.4	-
50歳代	2.6	1.3	15.4	24.4	10.3	1.3	1.3
60歳代	1.9	2.8	16.0	18.9	8.5	3.8	0.9
70歳以上	3.9	1.0	15.5	17.5	9.7	1.0	7.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

問 30 あなたの職場や地域に感染症患者などがいる場合、あなたはどのような態度で接すると思いますか。《○は1つまで》

「今までどおり、普通に接すると思う」の割合が70.8%と最も高くなっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「今までどおり、普通に接すると思う」の割合が最も高くなっており、7割程度となっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	その人のために何か支援しようと思う	今までどおり、普通に接すると思う	なるべく関わりたくないと思う	絶対関わりたくないと思う	わからない	その他	無回答
全体	459	8.7	70.8	8.3	0.9	7.0	1.3	3.1
男性	198	9.1	67.7	10.6	1.5	6.1	2.0	3.0
女性	253	8.7	73.5	6.7	—	7.5	0.8	2.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「今までどおり、普通に接すると思う」の割合が最も高くなっており、特に18、19、20歳代で80.6%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	その人のために何か支援しようと思う	今までどおり、普通に接すると思う	なるべく関わりたくないと思う	絶対関わりたくないと思う	わからない	その他	無回答
全体	459	8.7	70.8	8.3	0.9	7.0	1.3	3.1
18、19、20歳代	36	5.6	80.6	2.8	—	11.1	—	—
30歳代	62	8.1	69.4	6.5	1.6	6.5	3.2	4.8
40歳代	69	14.5	69.6	4.3	1.4	7.2	1.4	1.4
50歳代	78	10.3	71.8	6.4	1.3	9.0	1.3	—
60歳代	106	4.7	72.6	12.3	—	5.7	1.9	2.8
70歳以上	103	9.7	67.0	11.7	1.0	4.9	—	5.8

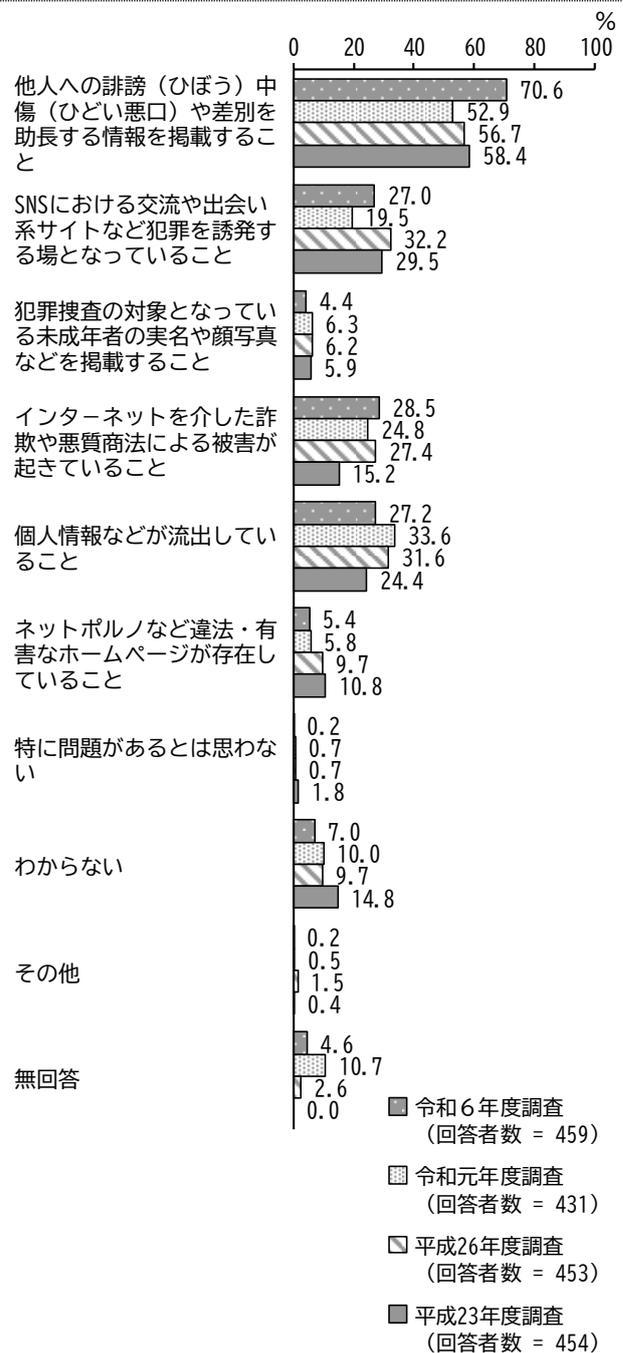
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

10 インターネットによる人権侵害について

問 31 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が70.6%と最も高く、次いで「インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること」の割合が28.5%、「個人情報などが流出していること」の割合が27.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が17.7ポイント、「SNSにおける交流や出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が7.5ポイント増加しています。一方、「個人情報などが流出していること」の割合が6.4ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が最も高くなっており、7割程度となっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること	場となつていこと	SMSにおける交流や出会い系サイトなど犯罪を誘発すること	犯罪捜査の対象となつている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること	インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること	個人情報などが流出していること
全 体	459	70.6	27.0	4.4	28.5	27.2	
男性	198	69.7	30.8	2.0	30.8	27.3	
女性	253	72.7	24.1	5.9	26.9	27.3	

区分	ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全 体	5.4	0.2	7.0	0.2	4.6
男性	3.0	—	7.6	—	3.5
女性	7.5	0.4	6.3	0.4	4.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること」の割合が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、60歳代で「SNSにおける交流や出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が40.6%、70歳以上で「わからない」の割合が14.6%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	他人への誹謗（ひぼう）中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること	SNSにおける交流や出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること	犯罪捜査の対象となつている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること	インターネットを介した詐欺や悪質な商法による被害が起きていること	個人情報などが流出していること
全体	459	70.6	27.0	4.4	28.5	27.2
18、19、20歳代	36	77.8	25.0	5.6	22.2	33.3
30歳代	62	74.2	29.0	3.2	25.8	30.6
40歳代	69	76.8	20.3	2.9	30.4	30.4
50歳代	78	73.1	23.1	6.4	33.3	34.6
60歳代	106	79.2	40.6	3.8	31.1	20.8
70歳以上	103	53.4	20.4	3.9	24.3	22.3

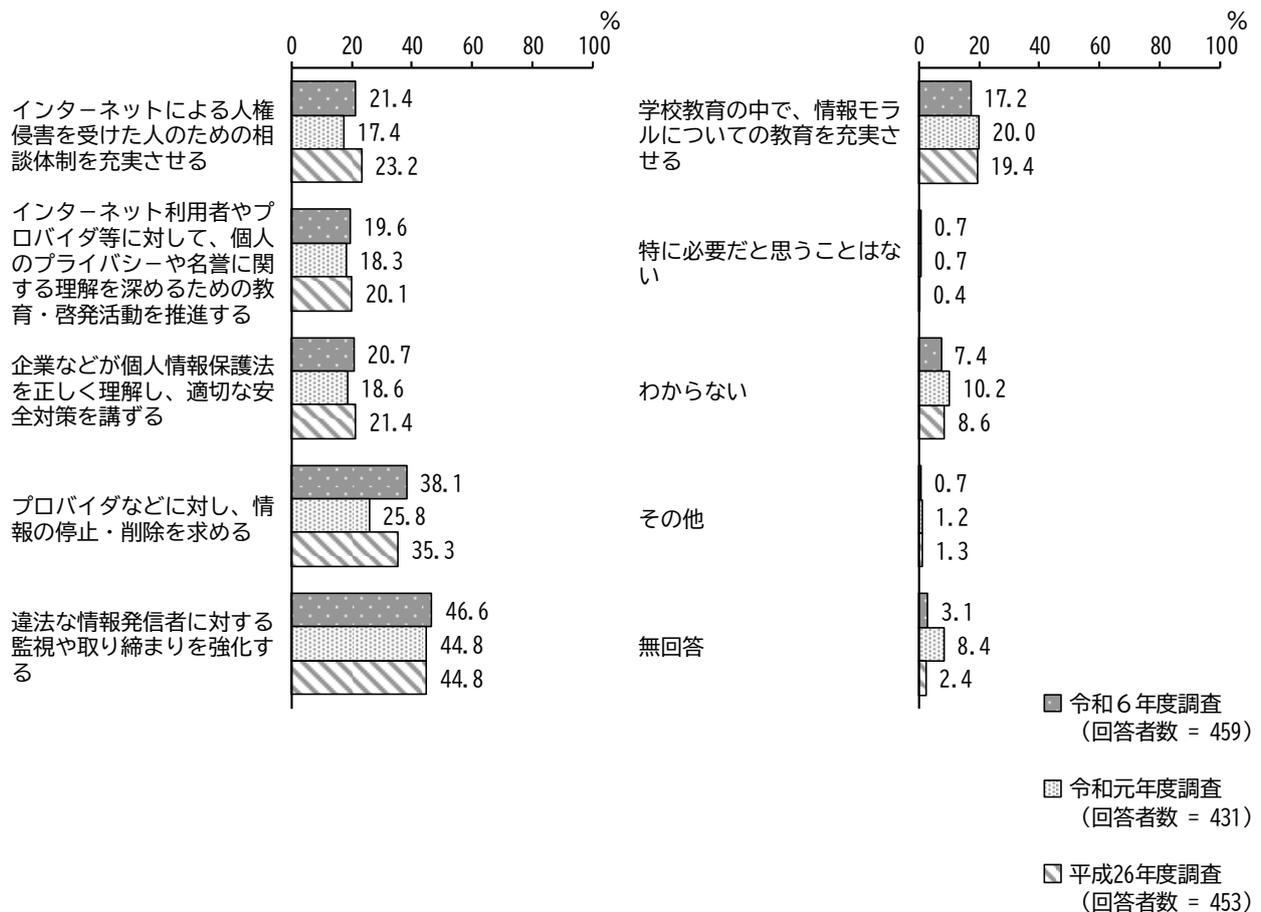
区分	ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	5.4	0.2	7.0	0.2	4.6
18、19、20歳代	2.8	—	5.6	—	—
30歳代	9.7	—	3.2	—	3.2
40歳代	4.3	—	4.3	1.4	4.3
50歳代	2.6	—	7.7	—	1.3
60歳代	2.8	—	2.8	—	3.8
70歳以上	9.7	1.0	14.6	—	9.7

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問32 インターネットによる人権侵害を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。《○は2つまで》

「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が46.6%と最も高く、次いで「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が38.1%、「インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる」の割合が21.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が12.3ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が最も高くなっており、4割を超えています。

単位：％

区分	回答者数(件)	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる	インターネット利用者やプロバイダ等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する
全体	459	21.4	19.6	20.7	38.1	46.6
男性	198	23.7	20.2	14.6	40.9	45.5
女性	253	19.4	19.4	24.9	36.4	49.0

区分	学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	17.2	0.7	7.4	0.7	3.1
男性	15.2	1.0	7.6	1.0	2.5
女性	18.6	0.4	7.1	0.4	2.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代で「インターネット利用者やプロバイダ等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」「学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる」の割合が33.3%、60歳代で「プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める」の割合が53.8%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる	インターネット利用者やプロバイダ等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる	プロバイダなどに対し、情報の停止・削除を求める	違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する
全体	459	21.4	19.6	20.7	38.1	46.6
18、19、20歳代	36	13.9	33.3	22.2	25.0	33.3
30歳代	62	22.6	24.2	27.4	27.4	45.2
40歳代	69	29.0	17.4	23.2	40.6	43.5
50歳代	78	19.2	17.9	20.5	42.3	56.4
60歳代	106	20.8	22.6	19.8	53.8	50.0
70歳以上	103	19.4	12.6	14.6	29.1	45.6

区分	学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる	特に必要だと思つことはない	わからない	その他	無回答
全体	17.2	0.7	7.4	0.7	3.1
18、19、20歳代	33.3	2.8	5.6	2.8	—
30歳代	27.4	—	3.2	—	3.2
40歳代	17.4	—	4.3	2.9	—
50歳代	15.4	—	6.4	—	—
60歳代	7.5	—	3.8	—	1.9
70歳以上	16.5	1.9	16.5	—	8.7

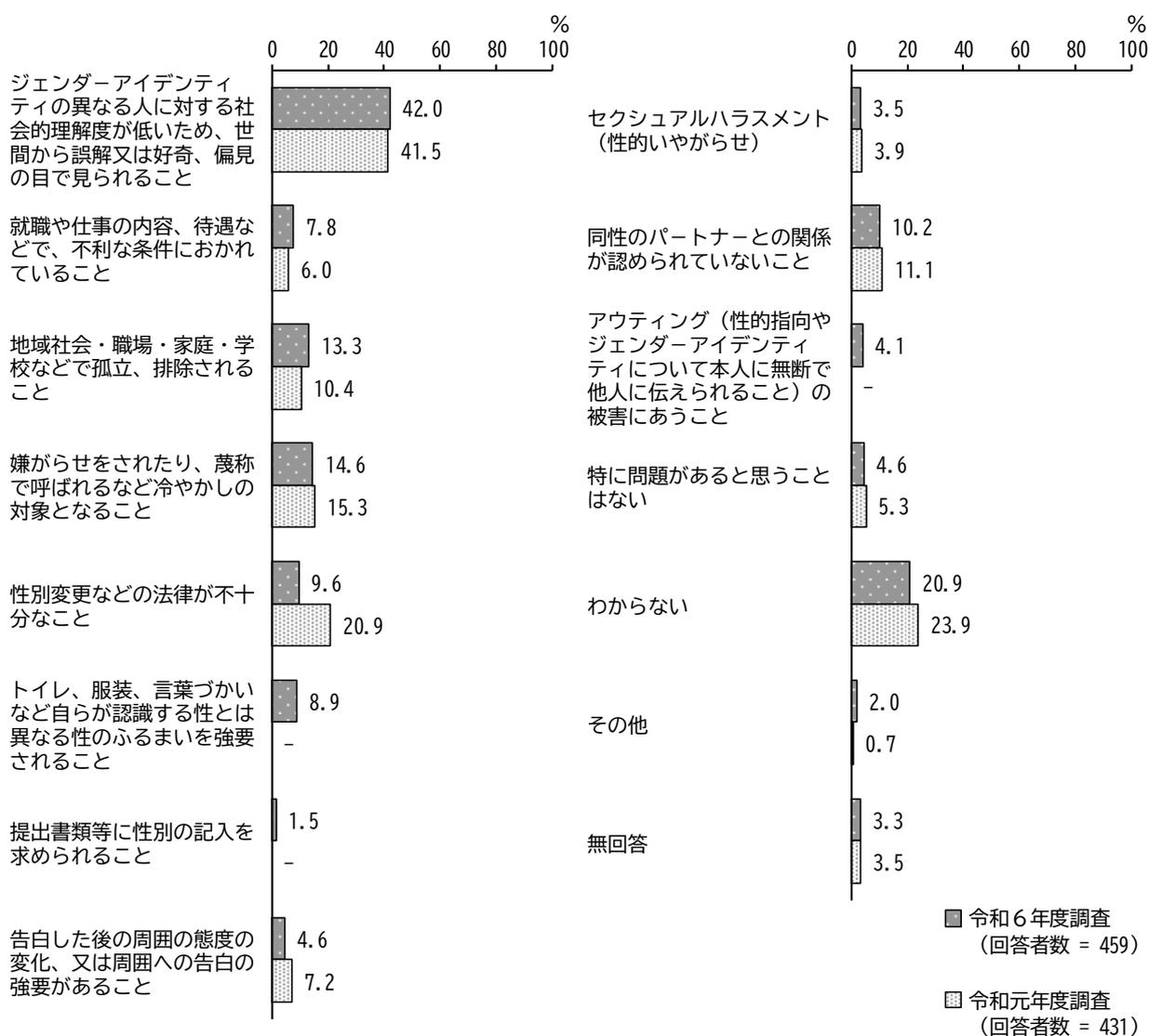
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

11 性的指向（同性愛、両性愛など）、ジェンダーアイデンティティ（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）を理由とする人権問題について

問 33 性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること」の割合が42.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が20.9%、「嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること」の割合が14.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「性別変更などの法律が不十分なこと」の割合が11.3ポイント減少しています。



※令和元年度調査では、「トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること」「提出書類等に性別の記入を求められること」「アウトティング（性的指向やジェンダーアイデンティティについて本人に無断で他人に伝えられること）の被害にあうこと」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること」の割合が最も高くなっており、女性の割合は45.1%と、男性に比べ、6.2ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること	嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	性別変更などの法律が不十分なこと	トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること	提出書類等に性別の記入を求められること
全体	459	42.0	7.8	13.3	14.6	9.6	8.9	1.5
男性	198	38.9	7.6	12.1	16.2	9.1	7.6	—
女性	253	45.1	7.9	14.6	13.0	9.9	10.3	2.8

区分	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)	同性のパートナーとの関係が認められていないこと	アウトティング(性的指向やジェンダーアイデンティティについて本人に無断で他人に伝えられること)の被害にあうこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	4.6	3.5	10.2	4.1	4.6	20.9	2.0	3.3
男性	1.5	3.5	7.1	4.5	7.6	24.7	2.5	3.0
女性	7.1	3.6	12.6	3.6	2.0	18.2	1.6	3.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【年代別】

年代別でみると、70歳以上を除いて「ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること」の割合が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代で「告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること」の割合が13.9%、70歳以上で「わからない」の割合が35.9%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること	地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること	嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること	性別変更などの法律が不十分なこと	トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること	提出書類等に性別の記入を求められること
全体	459	42.0	7.8	13.3	14.6	9.6	8.9	1.5
18、19、20歳代	36	44.4	8.3	8.3	16.7	2.8	11.1	2.8
30歳代	62	50.0	6.5	12.9	17.7	8.1	9.7	—
40歳代	69	44.9	7.2	20.3	14.5	11.6	14.5	1.4
50歳代	78	47.4	6.4	12.8	14.1	10.3	9.0	2.6
60歳代	106	47.2	11.3	15.1	12.3	11.3	9.4	1.9
70歳以上	103	25.2	5.8	9.7	13.6	9.7	3.9	1.0

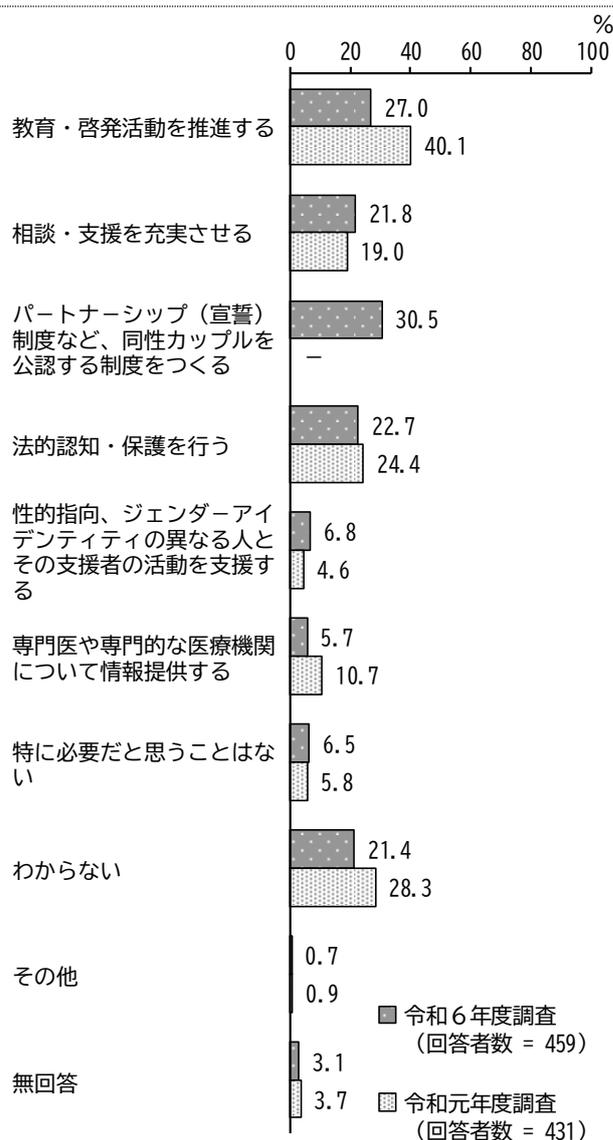
区分	告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること	セクシユアルハラスメント(性的いやがらせ)	同性のパートナーとの関係が認められていないこと	アウトティング(性的指向やジェンダーアイデンティティについて本人に無断で他人に伝えられること)の被害にあうこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	4.6	3.5	10.2	4.1	4.6	20.9	2.0	3.3
18、19、20歳代	13.9	5.6	11.1	2.8	5.6	16.7	—	2.8
30歳代	3.2	8.1	11.3	8.1	6.5	12.9	4.8	—
40歳代	1.4	2.9	14.5	7.2	4.3	13.0	2.9	1.4
50歳代	5.1	—	12.8	2.6	3.8	15.4	3.8	3.8
60歳代	3.8	0.9	7.5	2.8	4.7	21.7	0.9	1.9
70歳以上	4.9	5.8	7.8	2.9	2.9	35.9	—	7.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

問 34 性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思えますか。《○は2つまで》

「パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が30.5%と最も高く、次いで「教育・啓発活動を推進する」の割合が27.0%、「法的認知・保護を行う」の割合が22.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「教育・啓発活動を推進する」の割合が13.1ポイント、「専門医や専門的な医療機関について情報提供する」の割合が5.0ポイント、「わからない」の割合が6.9ポイント減少しています。



※令和元年度調査では、「パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が36.4%と、12.7ポイント高くなっています。また、男性では「教育・啓発活動を推進する」の割合が25.8%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	教育・啓発活動を推進する	相談・支援を充実させる	パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる	法的認知・保護を行う	性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関について情報提供する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	459	27.0	21.8	30.5	22.7	6.8	5.7	6.5	21.4	0.7	3.1
男性	198	25.8	17.7	23.7	21.2	6.6	6.1	12.1	25.3	1.0	2.5
女性	253	28.9	24.1	36.4	23.3	7.1	5.1	2.0	18.6	0.4	3.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、若い世代（18、19、20歳代・30歳代・40歳代）で「パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」の割合が高い傾向にあり、特に40歳代で46.4%と最も高くなっています。

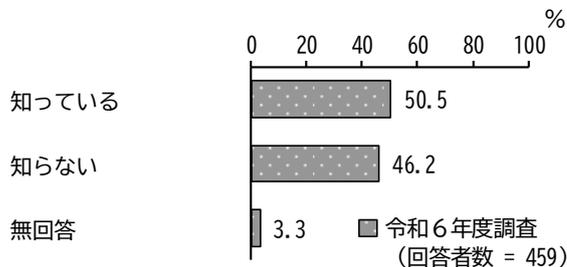
単位：%

区分	回答者数（件）	教育・啓発活動を推進する	相談・支援を充実させる	パートナーシップ（宣誓）制度など、同性カップルを公認する制度をつくる	法的認知・保護を行う	性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人とその支援者の活動を支援する	専門医や専門的な医療機関について情報提供する	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	459	27.0	21.8	30.5	22.7	6.8	5.7	6.5	21.4	0.7	3.1
18、19、20歳代	36	36.1	11.1	41.7	11.1	16.7	13.9	8.3	19.4	—	—
30歳代	62	32.3	17.7	38.7	17.7	8.1	8.1	12.9	12.9	1.6	—
40歳代	69	33.3	18.8	46.4	27.5	8.7	1.4	5.8	14.5	—	—
50歳代	78	21.8	17.9	28.2	24.4	9.0	2.6	6.4	19.2	2.6	5.1
60歳代	106	24.5	29.2	25.5	27.4	4.7	5.7	6.6	21.7	—	1.9
70歳以上	103	24.3	22.3	19.4	18.4	1.9	6.8	2.9	33.0	—	7.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 35 同性カップルは、夫婦に準じる共同生活を送りながらも、法律で婚姻が認められていないため、二人の関係を対外的に証明する手段が乏しく、生きづらさを抱えています。こうした状況の改善に向けた取り組みの一つとして、全国の自治体では「パートナーシップ(宣誓)制度」が導入されています。あなたは、「パートナーシップ(宣誓)制度」を知っていますか。《○は1つだけ》

「知っている」の割合が 50.5%、「知らない」の割合が 46.2%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が 58.5%と、17.6 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	459	50.5	46.2	3.3
男性	198	40.9	55.1	4.0
女性	253	58.5	39.1	2.4

【年代別】

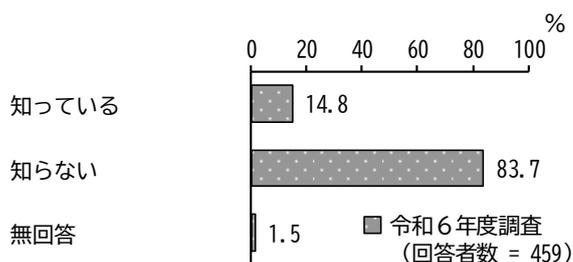
年代別でみると、「知っている」の割合が 30 歳代では 62.9%と高くなっていますが、70 歳以上では 39.8%と 23.1 ポイント低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	459	50.5	46.2	3.3
18、19、20歳代	36	52.8	47.2	—
30歳代	62	62.9	33.9	3.2
40歳代	69	55.1	44.9	—
50歳代	78	56.4	39.7	3.8
60歳代	106	46.2	50.0	3.8
70歳以上	103	39.8	54.4	5.8

問 36 あなたは「岐阜県パートナーシップ（宣誓）制度（令和5年9月1日開始）」を知っていますか。《○は1つだけ》

「知っている」の割合が14.8%、「知らない」の割合が83.7%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「知らない」の割合が8割を超えています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	459	14.8	83.7	1.5
男性	198	12.1	86.4	1.5
女性	253	17.4	81.4	1.2

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「知らない」の割合が高くなっています。特に、30歳代で87.1%と最も高くなっています。

単位：%

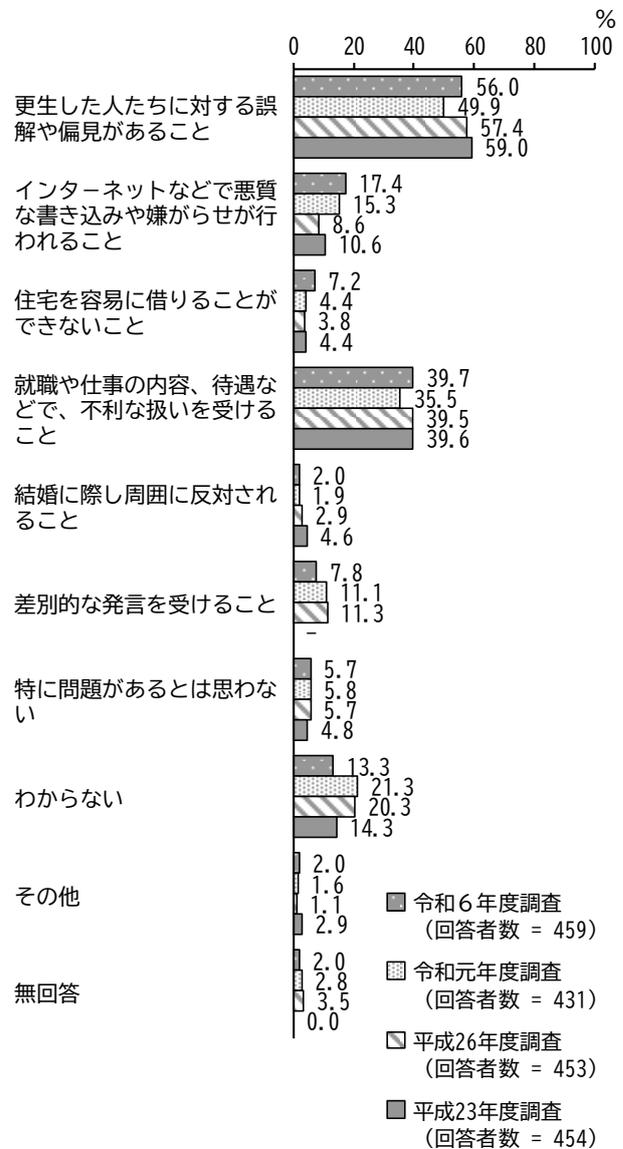
区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	459	14.8	83.7	1.5
18、19、20歳代	36	13.9	86.1	—
30歳代	62	12.9	87.1	—
40歳代	69	14.5	85.5	—
50歳代	78	11.5	85.9	2.6
60歳代	106	18.9	80.2	0.9
70歳以上	103	15.5	80.6	3.9

12 刑を終えて出所した人の人権について

問 37 罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会復帰を図ろうとした場合、どのような問題があると思いますか。《○は2つまで》

「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が56.0%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が39.7%、「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」の割合が17.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が6.1ポイント増加しています。一方、「わからない」の割合が8.0ポイント減少しています。



※平成23年度調査では、「差別的な発言を受けること」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が最も高くなっており、5割を超えています。

単位：％

区分	回答者数(件)	更生した人たちに対する誤解や偏見があること	インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること	住宅を容易に借りることができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	56.0	17.4	7.2	39.7	2.0	7.8	5.7	13.3	2.0	2.0
男性	198	56.1	14.6	6.6	37.9	2.0	6.1	7.6	13.6	4.0	3.0
女性	253	56.5	20.2	7.5	40.7	2.0	9.5	3.2	13.0	0.4	1.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が最も高くなっていますが、他の年代に比べ、18、19、20歳代の割合が36.1%と低くなっています。また、40歳代で「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」の割合が、18、19、20歳代・30歳代で「特に問題があるとは思わない」の割合が高くなっています。

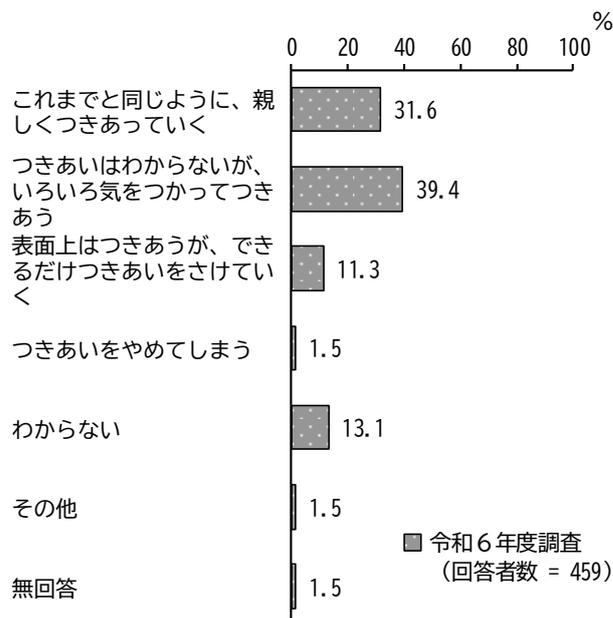
単位：％

区分	回答者数(件)	更生した人たちに対する誤解や偏見があること	インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること	住宅を容易に借りることができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	56.0	17.4	7.2	39.7	2.0	7.8	5.7	13.3	2.0	2.0
18、19、20歳代	36	36.1	13.9	11.1	27.8	8.3	8.3	19.4	13.9	—	2.8
30歳代	62	51.6	16.1	9.7	30.6	1.6	6.5	14.5	6.5	6.5	1.6
40歳代	69	56.5	29.0	5.8	44.9	1.4	10.1	1.4	8.7	4.3	1.4
50歳代	78	60.3	15.4	6.4	35.9	1.3	3.8	6.4	11.5	1.3	2.6
60歳代	106	61.3	17.9	7.5	46.2	0.9	8.5	—	15.1	0.9	0.9
70歳以上	103	56.3	13.6	5.8	40.8	1.9	9.7	1.9	20.4	—	2.9

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 38 日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人や、刑を終えて出所した人であると分かったとき、あなたはどうしますか。あなたのお気持ちにいちばん近いものはどれですか。《○は1つまで》

「つきあいにはわからないが、いろいろ気をつけてつきあう」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「これまでと同じように、親しくつきあっていく」の割合が 31.6%、「わからない」の割合が 13.1%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「これまでと同じように、親しくつきあっていく」「つきあいにはわからないが、いろいろ気をつけてつきあう」が上位に入っています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	これまでと同じように、親しくつきあっていく	つきあいはわからないが、いろいろ気をつけてつきあう	表面上はつきあうが、できるだけつきあいをさけていく	つきあいをやめてしまう	わからない	その他	無回答
全 体	459	31.6	39.4	11.3	1.5	13.1	1.5	1.5
男性	198	33.3	36.4	13.6	2.0	10.6	2.0	2.0
女性	253	30.8	41.1	9.9	1.2	15.0	0.8	1.2

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「これまでと同じように、親しくつきあっていく」「つきあいはわからないが、いろいろ気をつかってつきあう」が上位に入っています。また、他の年代に比べ、40歳代で「表面上はつきあうが、できるだけつきあいをさけていく」の割合が17.4%と高くなっています。

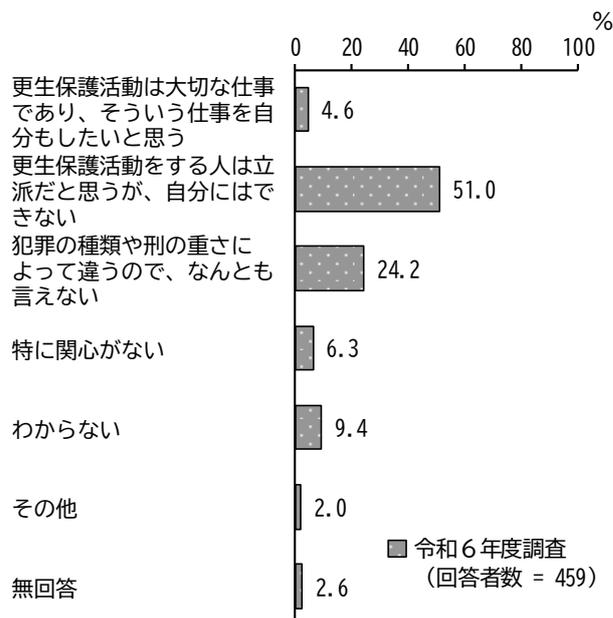
単位：%

区分	回答者数 (件)	これまでと同じ ように、親しく つきあっていく	つきあいはわ からないが、い ろいろ気をつか つていく	つきあいをさ けていく	表面上はつき あうが、でき るだけつきあ いをさける	つきあいをや め てしまふ	わからない	その他	無 回 答
全 体	459	31.6	39.4	11.3	1.5	13.1	1.5	1.5	
18、19、20歳代	36	33.3	33.3	16.7	2.8	13.9	—	—	
30歳代	62	24.2	37.1	12.9	6.5	14.5	4.8	—	
40歳代	69	31.9	37.7	17.4	1.4	7.2	4.3	—	
50歳代	78	37.2	38.5	12.8	—	9.0	1.3	1.3	
60歳代	106	30.2	37.7	12.3	—	17.9	—	1.9	
70歳以上	103	34.0	44.7	2.9	1.0	13.6	—	3.9	

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 39 刑を終えて出所した人たちが社会に復帰するのを援助する「更生保護」活動をしている人たちがいます。もし、「更生保護」活動をしませんかと呼びかけられたら、あなたはどうしますか。《○は1つまで》

「更生保護活動をする人は立派だと思うが、自分にはできない」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」の割合が 24.2%となっています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「更生保護活動をする人は立派だと思うが、自分にはできない」の割合が最も高くなっており、女性の割合は 55.3%と、男性に比べ 8.8 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	更生保護活動は大切な仕事であり、そういう仕事を自分もしたいと思う	更生保護活動をする人は立派だと思えないが、自分にはできない	犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない	特に興味がない	わからない	その他	無回答
全体	459	4.6	51.0	24.2	6.3	9.4	2.0	2.6
男性	198	5.6	46.5	24.2	10.1	9.1	1.5	3.0
女性	253	3.6	55.3	23.7	3.2	9.5	2.4	2.4

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「更生保護活動をする人は立派だと思うが、自分にはできない」の割合が最も高くなっており、特に18、19、20歳代・60歳代で6割程度と高くなっています。また、他の年代に比べ、40歳代で「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」の割合が36.2%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	もう切な更生 したい保護 という仕事活動 を自分では 思っている が、自分 にはでき ない	更生保 護活動 をする 人は立 派だと思 う	更生保 護活動 をする 人は立 派だと思 う	犯罪の種 類や刑の 重さによ って違 うので、 なんとも 言えない	特に関 心がない	わから ない	その他	無回 答
全 体	459	4.6	51.0	24.2	6.3	9.4	2.0	2.6	
18、19、20歳代	36	2.8	61.1	25.0	5.6	5.6	—	—	
30歳代	62	3.2	50.0	24.2	12.9	4.8	4.8	—	
40歳代	69	7.2	39.1	36.2	2.9	13.0	—	1.4	
50歳代	78	6.4	43.6	32.1	7.7	5.1	3.8	1.3	
60歳代	106	3.8	59.4	15.1	5.7	12.3	1.9	1.9	
70歳以上	103	3.9	53.4	18.4	4.9	10.7	1.0	7.8	

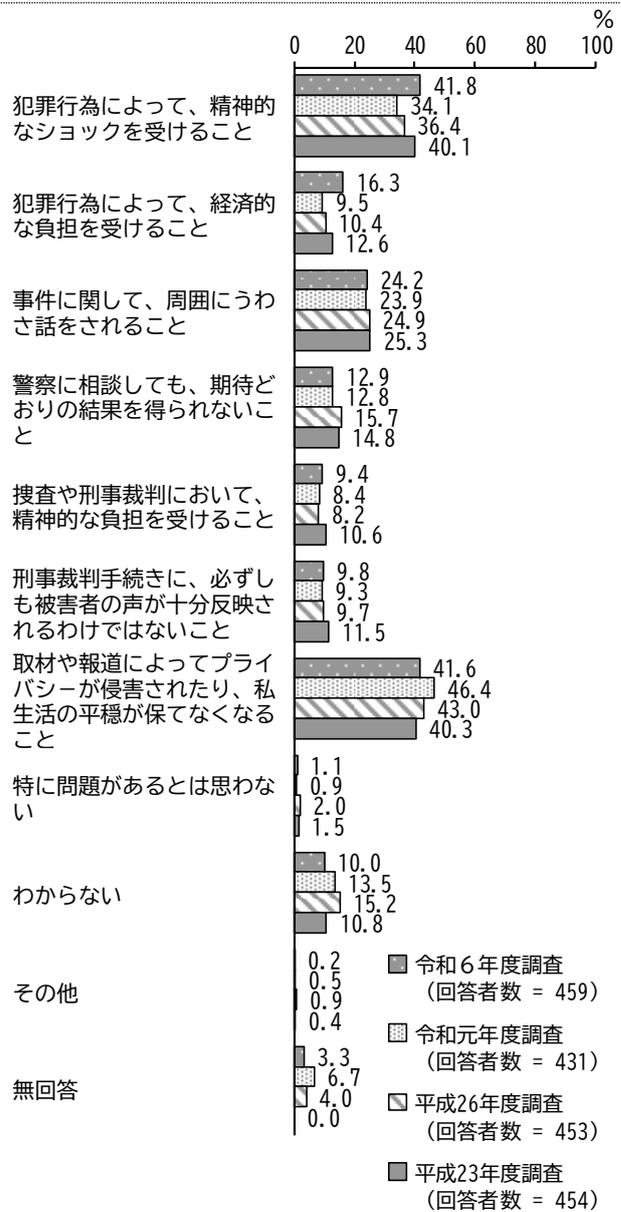
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

13 犯罪被害者とその家族の人権について

問 40 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」の割合が41.8%と最も高く、次いで「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること」の割合が41.6%、「事件に関して、周囲にうわさをされること」の割合が24.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」の割合が7.7ポイント、「犯罪行為によって、経済的な負担を受けること」の割合が6.8ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「犯罪行為によって、経済的な負担を受けること」の割合が21.2%と、8.9ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穩が保てなくなること」の割合が46.6%と、10.2ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	犯罪行為によって、 精神的なショック を受けること	犯罪行為によって、 経済的な負担を受 けること	事件に関して、周囲 にうわさ話をされ ること	警察に相談しても、 期待どおりの結果 を得られないこと	捜査や刑事裁判に おいて、精神的な負 担を受けること
全 体	459	41.8	16.3	24.2	12.9	9.4
男性	198	39.4	21.2	26.3	17.2	7.1
女性	253	43.9	12.3	22.9	9.1	11.5

区分	刑事裁判手続きに、 必ずしも被害者の 声が十分反映され るわけではないこ と	取材や報道によつ てプライバシーが 侵害されたり、私生 活の平穩が保てな くなること	特に問題がある とは思わない	わからない	その他	無回答
全 体	9.8	41.6	1.1	10.0	0.2	3.3
男性	10.1	36.4	1.0	11.6	—	2.0
女性	9.9	46.6	0.8	8.3	0.4	4.3

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」の割合が55.1%、30歳代で「警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと」の割合が27.4%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	犯罪行為によって、精神的なショックを受けること	犯罪行為によって、経済的な負担を受けること	事件に関して、周囲にうわさ話をされること	警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと	捜査や刑事裁判において、精神的な負担を受けること
全体	459	41.8	16.3	24.2	12.9	9.4
18、19、20歳代	36	50.0	25.0	19.4	8.3	11.1
30歳代	62	45.2	14.5	24.2	27.4	8.1
40歳代	69	55.1	18.8	27.5	15.9	2.9
50歳代	78	43.6	14.1	26.9	11.5	15.4
60歳代	106	35.8	19.8	26.4	12.3	10.4
70歳以上	103	33.0	11.7	19.4	3.9	8.7

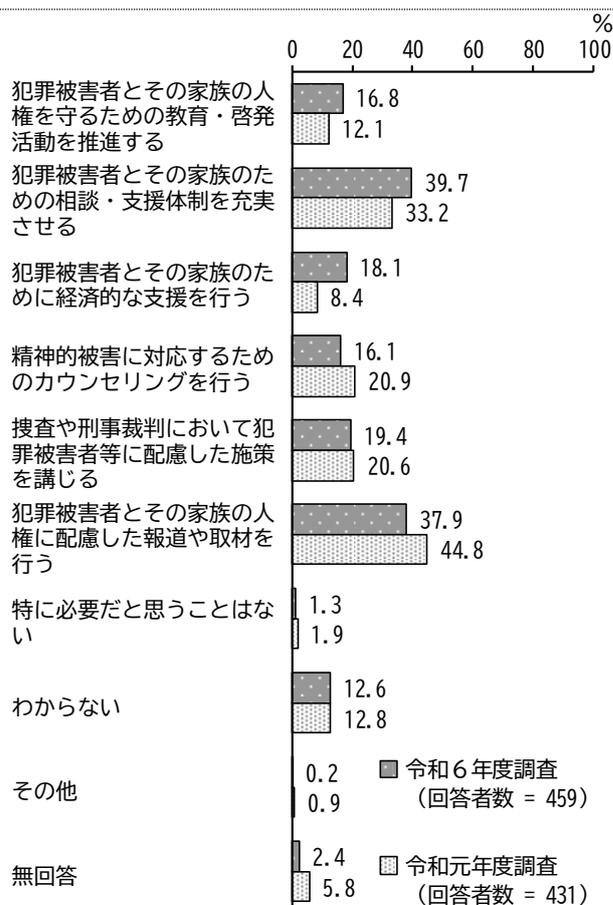
区分	刑事裁判手続きに、必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと	取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	9.8	41.6	1.1	10.0	0.2	3.3
18、19、20歳代	2.8	44.4	2.8	8.3	2.8	—
30歳代	6.5	41.9	1.6	4.8	—	3.2
40歳代	8.7	44.9	—	4.3	—	2.9
50歳代	11.5	38.5	—	7.7	—	3.8
60歳代	14.2	48.1	—	5.7	—	0.9
70歳以上	9.7	35.9	1.9	23.3	—	6.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 41 犯罪被害者とその家族の人権を尊重するためには、特にどのようなことが必要だ
 と思いますか。《○は2つまで》

「犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」の割合が 37.9%、「捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる」の割合が 19.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる」の割合が 6.5 ポイント、「犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う」の割合が 9.7 ポイント増加しています。一方、「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」の割合が 6.9 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う」の割合が 23.7%と、9.5 ポイント高くなっています。また、男性に比べ、女性で「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」の割合が 43.1%と、11.3 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	犯罪被害者とその家族の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる	犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う	精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる
全体	459	16.8	39.7	18.1	16.1	19.4
男性	198	21.2	38.9	23.7	14.1	17.7
女性	253	13.0	39.5	14.2	17.8	21.3

区分	犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	37.9	1.3	12.6	0.2	2.4
男性	31.8	3.0	13.1	0.5	2.0
女性	43.1	-	11.9	-	2.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる」「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」が上位に入っています。また、他の年代に比べ、70歳以上で「わからない」の割合が25.2%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	犯罪被害者とその家族の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる	犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う	精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる
全体	459	16.8	39.7	18.1	16.1	19.4
18、19、20歳代	36	22.2	30.6	27.8	13.9	16.7
30歳代	62	8.1	41.9	16.1	17.7	22.6
40歳代	69	15.9	36.2	27.5	21.7	21.7
50歳代	78	20.5	43.6	16.7	10.3	21.8
60歳代	106	19.8	35.8	17.9	17.9	22.6
70歳以上	103	13.6	42.7	11.7	15.5	12.6

区分	犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う	特に必要だと思ふことはない	わからない	その他	無回答
全体	37.9	1.3	12.6	0.2	2.4
18、19、20歳代	41.7	—	11.1	—	2.8
30歳代	50.0	3.2	6.5	1.6	—
40歳代	40.6	1.4	5.8	—	2.9
50歳代	37.2	—	12.8	—	1.3
60歳代	42.5	1.9	8.5	—	0.9
70歳以上	24.3	1.0	25.2	—	5.8

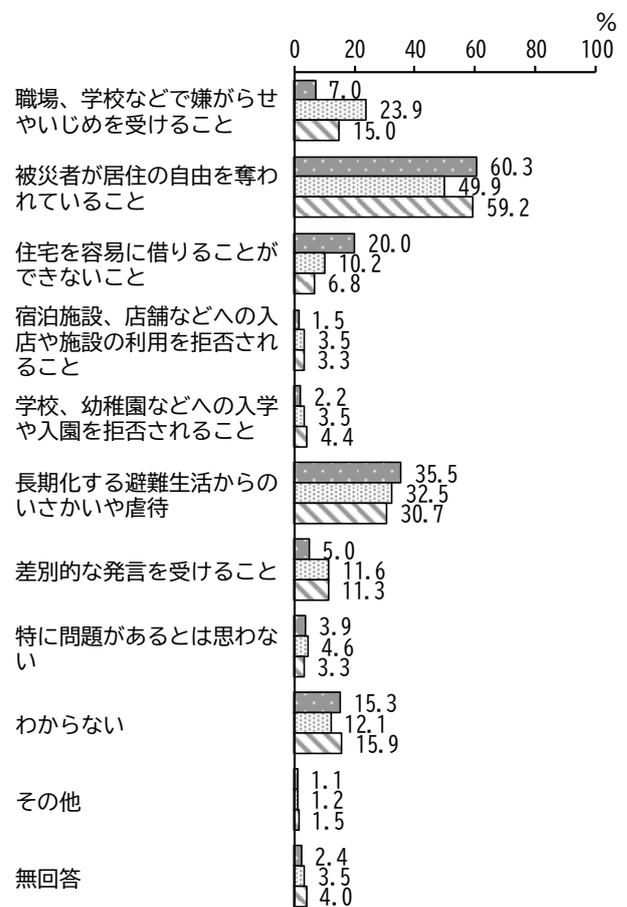
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

14 災害時の人権問題について

問 42 近年頻発している地震などの大規模災害により被災した人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。《○は2つまで》

「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が60.3%と最も高く、次いで「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」の割合が35.5%、「住宅を容易に借りることができないこと」の割合が20.0%となっています。

他年度調査と比較すると、「住宅を容易に借りることができないこと」「長期化する避難生活からのいさかいや虐待」の割合が年々増加しています。



■ 令和6年度調査
(回答者数 = 459)

▨ 令和元年度調査
(回答者数 = 431)

▩ 平成26年度調査
(回答者数 = 453)

【性別】

性別でみると、男女ともに「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が最も高くなっており、女性の割合は64%と、男性に比べ7.4ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	被災者が居住の自由を奪われていること	住宅を容易に借りることができないこと	宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること	学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること	長期化する避難生活からのいさかいや虐待	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	7.0	60.3	20.0	1.5	2.2	35.5	5.0	3.9	15.3	1.1	2.4
男性	198	8.1	56.6	16.2	0.5	2.5	36.9	7.1	5.6	16.7	0.5	2.0
女性	253	6.3	64.0	22.5	2.4	2.0	34.8	3.6	2.8	13.4	1.2	2.8

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「被災者が居住の自由を奪われていること」の割合が最も高くなっています。特に50歳代では70.5%と高くなっています。また、他の年代に比べ、18、19、20歳代で「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合が22.2%と高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	被災者が居住の自由を奪われていること	住宅を容易に借りることができないこと	宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること	学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること	長期化する避難生活からのいさかいや虐待	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
全体	459	7.0	60.3	20.0	1.5	2.2	35.5	5.0	3.9	15.3	1.1	2.4
18、19、20歳代	36	22.2	55.6	11.1	—	2.8	25.0	5.6	8.3	11.1	5.6	—
30歳代	62	11.3	53.2	14.5	—	8.1	40.3	8.1	6.5	12.9	4.8	1.6
40歳代	69	8.7	62.3	18.8	1.4	1.4	49.3	4.3	1.4	10.1	—	2.9
50歳代	78	2.6	70.5	20.5	1.3	1.3	33.3	1.3	3.8	15.4	—	1.3
60歳代	106	4.7	62.3	24.5	3.8	1.9	41.5	6.6	3.8	10.4	—	0.9
70歳以上	103	3.9	56.3	21.4	1.0	—	23.3	4.9	2.9	25.2	—	5.8

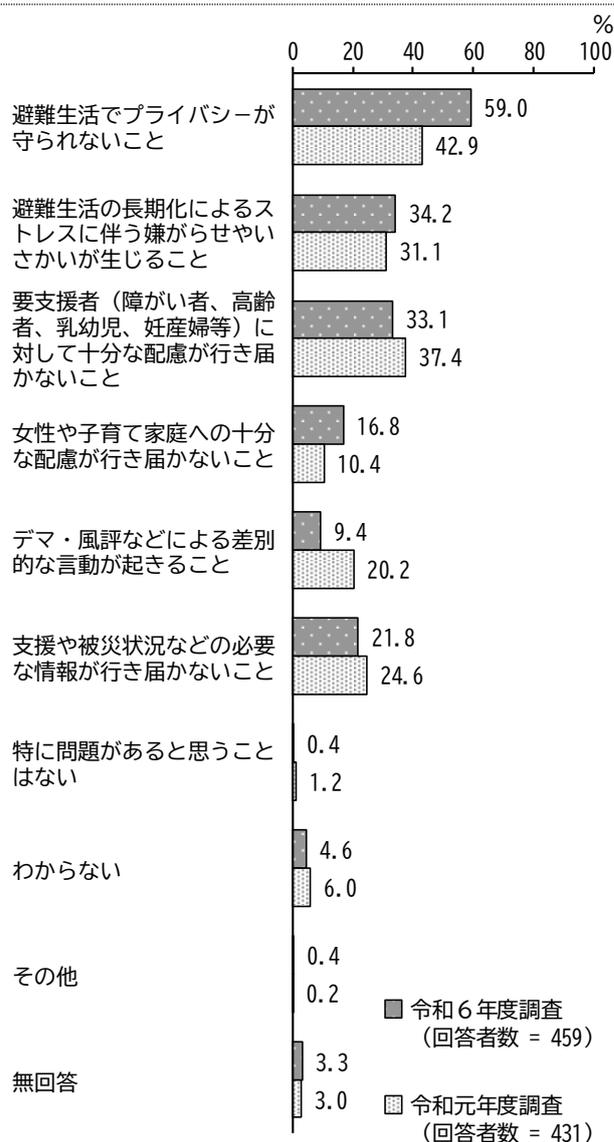
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 43 大規模災害が起きた場合、どのような人権問題が起きると思いますか。

《○は2つまで》

「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が59.0%と最も高く、次いで「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること」の割合が34.2%、「要支援者（障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等）に対して十分な配慮が行き届かないこと」の割合が33.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が16.1ポイント、「女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと」の割合が6.4ポイント増加しています。一方、「デマ・風評などによる差別的な言動が起きること」の割合が10.8ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が最も高くなっており、6割程度となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさか이가生じること	要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	デマ・風評などによる差別的な言動が起きること	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	459	59.0	34.2	33.1	16.8	9.4	21.8	0.4	4.6	0.4	3.3
男性	198	59.1	32.3	33.3	17.2	13.6	18.7	1.0	4.5	0.5	3.0
女性	253	60.1	35.6	32.4	17.0	5.9	24.1	—	4.0	0.4	3.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「避難生活でプライバシーが守られないこと」の割合が5割以上と高くなっています。また、他の年代に比べ、50歳代で「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさか이가生じること」の割合が44.9%と高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさか이가生じること	要支援者(障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等)に対して十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	デマ・風評などによる差別的な言動が起きること	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	特に問題があると思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	459	59.0	34.2	33.1	16.8	9.4	21.8	0.4	4.6	0.4	3.3
18、19、20歳代	36	58.3	30.6	16.7	22.2	8.3	22.2	2.8	8.3	—	2.8
30歳代	62	50.0	35.5	30.6	27.4	12.9	27.4	—	4.8	1.6	—
40歳代	69	63.8	39.1	23.2	26.1	8.7	18.8	—	2.9	—	4.3
50歳代	78	61.5	44.9	30.8	10.3	10.3	15.4	1.3	3.8	1.3	1.3
60歳代	106	67.0	30.2	42.5	18.9	7.5	17.9	—	1.9	—	1.9
70歳以上	103	53.4	27.2	37.9	5.8	8.7	29.1	—	6.8	—	7.8

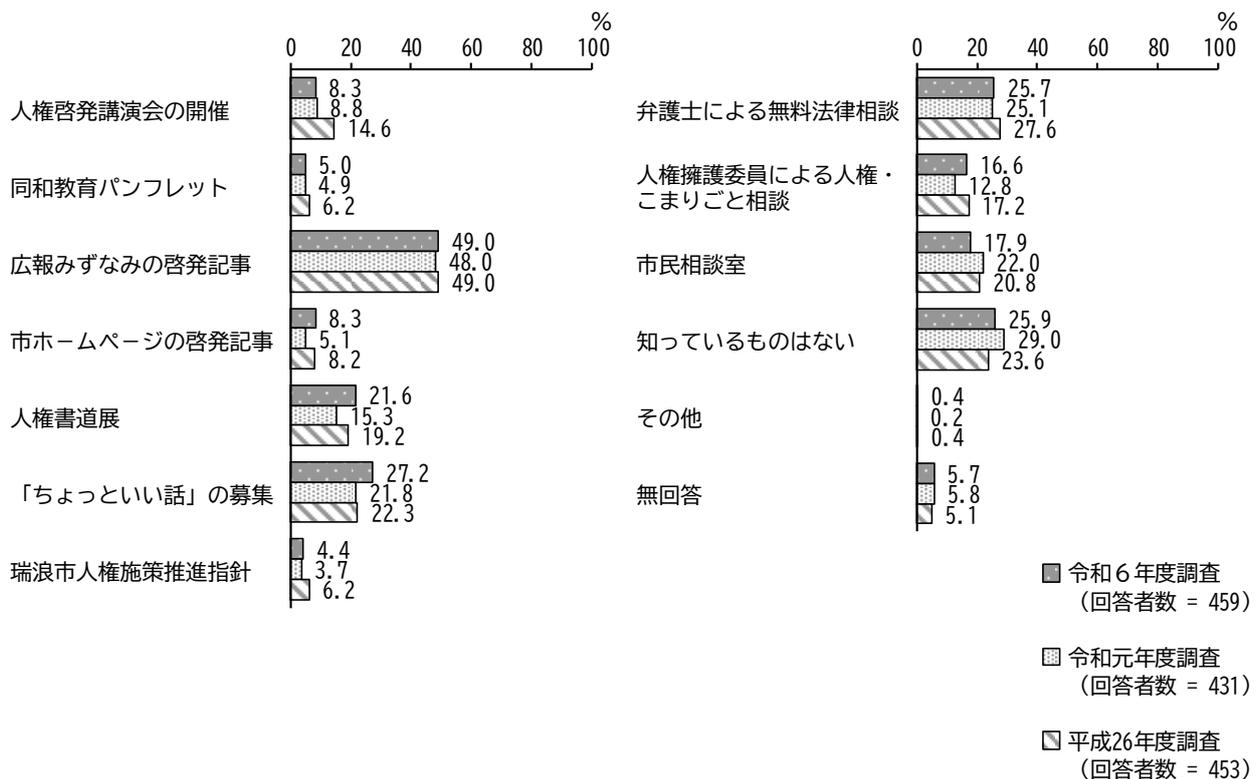
※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

15 人権教育・人権啓発の方法について

問 44 瑞浪市が行っている人権に関する取り組みについて、あなたが知っているものはどれですか。《○はいくつでも》

「広報みずなみの啓発記事」の割合が49.0%と最も高く、次いで「ちょっといい話」の募集」の割合が27.2%、「知っているものはない」の割合が25.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「人権書道展」の割合が6.3ポイント、「ちょっといい話」の募集」の割合が5.4ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「広報みずなみの啓発記事」の割合が高くなっており、女性の割合は58.5%と男性に比べ20.6ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「知っているものはない」の割合が38.4%と、22.2ポイント高く、男性に比べ、女性で「ちょっといい話の募集」の割合が35.6%と、18.4ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	催 人権啓発講演会の開 ト	同和教育パンフレ ット	記事 広報みずなみの啓 発	市ホームペー ジの啓 発記事	人権書道展	募集 「ちょっといい話」の	指 針	瑞 浪市人権施策推 進	弁 護士による無料 法 律相談	人 権・こまじごと相 談	人 権擁護委員による	市 民相談室	い 知 っ て い る も の は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	459	8.3	5.0	49.0	8.3	21.6	27.2	4.4	25.7	16.6	17.9	25.9	0.4	5.7		
男性	198	6.1	5.6	37.9	6.1	9.6	17.2	4.0	19.2	9.1	15.2	38.4	0.5	5.6		
女性	253	10.3	4.3	58.5	10.3	31.6	35.6	4.7	31.6	22.5	20.2	16.2	0.4	5.5		

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「広報みずなみの啓発記事」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、30歳代で「知っているものはない」の割合が41.9%と高くなっています。

単位：%

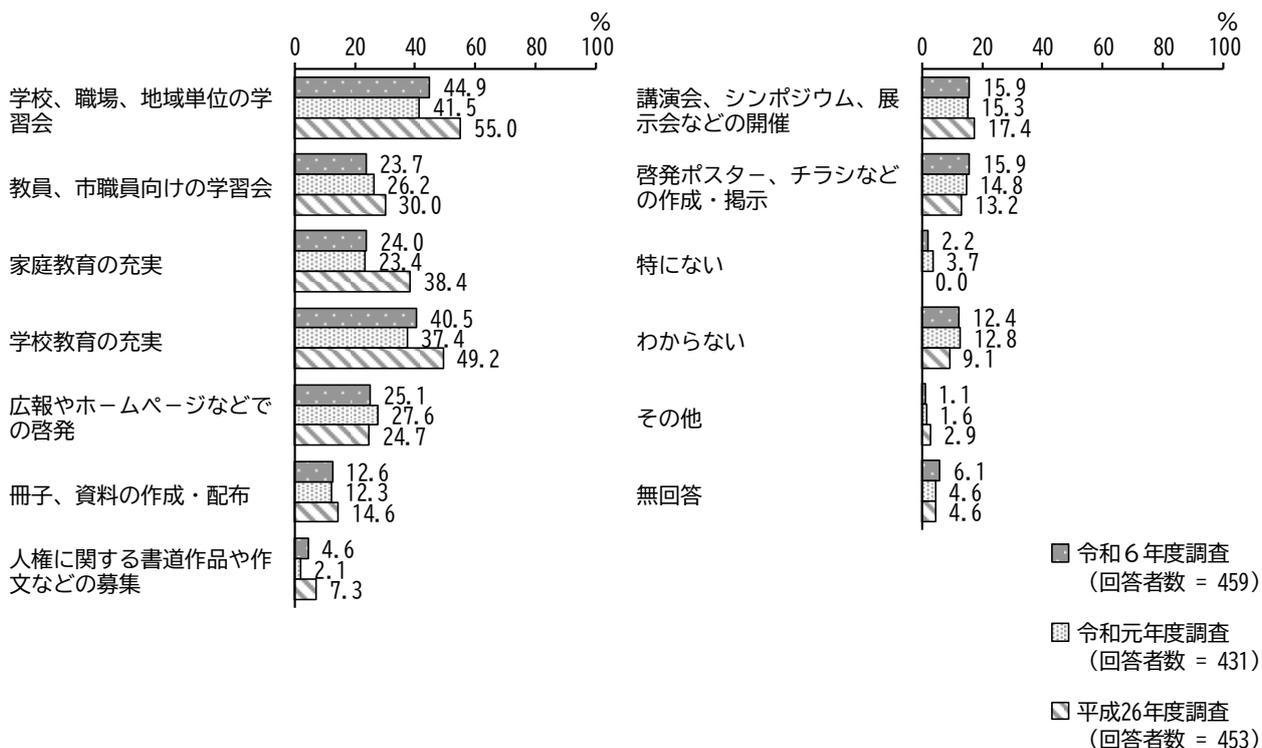
区分	回答者数(件)	催 人権啓発講演会の開 ト	同和教育パンフレ ット	記事 広報みずなみの啓 発	市ホームペー ジの啓 発記事	人権書道展	募集 「ちょっといい話」の	指 針	瑞 浪市人権施策推 進	弁 護士による無料 法 律相談	人 権・こまじごと相 談	人 権擁護委員による	市 民相談室	い 知 っ て い る も の は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	459	8.3	5.0	49.0	8.3	21.6	27.2	4.4	25.7	16.6	17.9	25.9	0.4	5.7		
18、19、 20歳代	36	8.3	5.6	41.7	11.1	27.8	30.6	2.8	16.7	5.6	11.1	33.3	—	—		
30歳代	62	6.5	6.5	38.7	4.8	8.1	24.2	6.5	17.7	11.3	16.1	41.9	1.6	—		
40歳代	69	10.1	4.3	44.9	10.1	23.2	37.7	5.8	17.4	14.5	11.6	27.5	1.4	2.9		
50歳代	78	9.0	1.3	50.0	10.3	23.1	30.8	3.8	30.8	17.9	11.5	32.1	—	2.6		
60歳代	106	8.5	5.7	56.6	7.5	26.4	25.5	4.7	34.9	17.0	21.7	19.8	—	2.8		
70歳以上	103	7.8	5.8	52.4	7.8	21.4	20.4	2.9	27.2	23.3	26.2	15.5	—	18.4		

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 45 人権教育・啓発を推進するためには、どのような方法が効果的だと思いますか。
 «○はいくつでも»

「学校、職場、地域単位の学習会」の割合が44.9%と最も高く、次いで「学校教育の充実」の割合が40.5%、「広報やホームページなどでの啓発」の割合が25.1%となっています。

他年度調査と比較すると、「啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示」の割合が年々増加しています。一方、「教員、市職員向けの学習会」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「学校、職場、地域単位の学習会」「学校教育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	学校、職場、地域単位の学習会	教員、市職員向けの学習会	家庭教育の充実	学校教育の充実	広報やホームページなどでの啓発	冊子、資料の作成・配布	人権に関する書道作品や作文などの募集	講演会、シンポジウム、展示会などの開催	啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示	特になし	わからない	その他	無回答
全体	459	44.9	23.7	24.0	40.5	25.1	12.6	4.6	15.9	15.9	2.2	12.4	1.1	6.1
男性	198	45.5	20.2	20.2	35.4	25.8	10.6	3.0	12.6	15.7	2.5	9.6	1.5	6.1
女性	253	45.5	26.9	26.9	44.7	24.9	14.2	5.9	18.6	16.6	2.0	14.2	0.8	5.5

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「学校、職場、地域単位の学習会」「学校教育の充実」の割合が高くなっています。40歳代では「学校教育の充実」の割合が50.7%と高くなっています。

単位：％

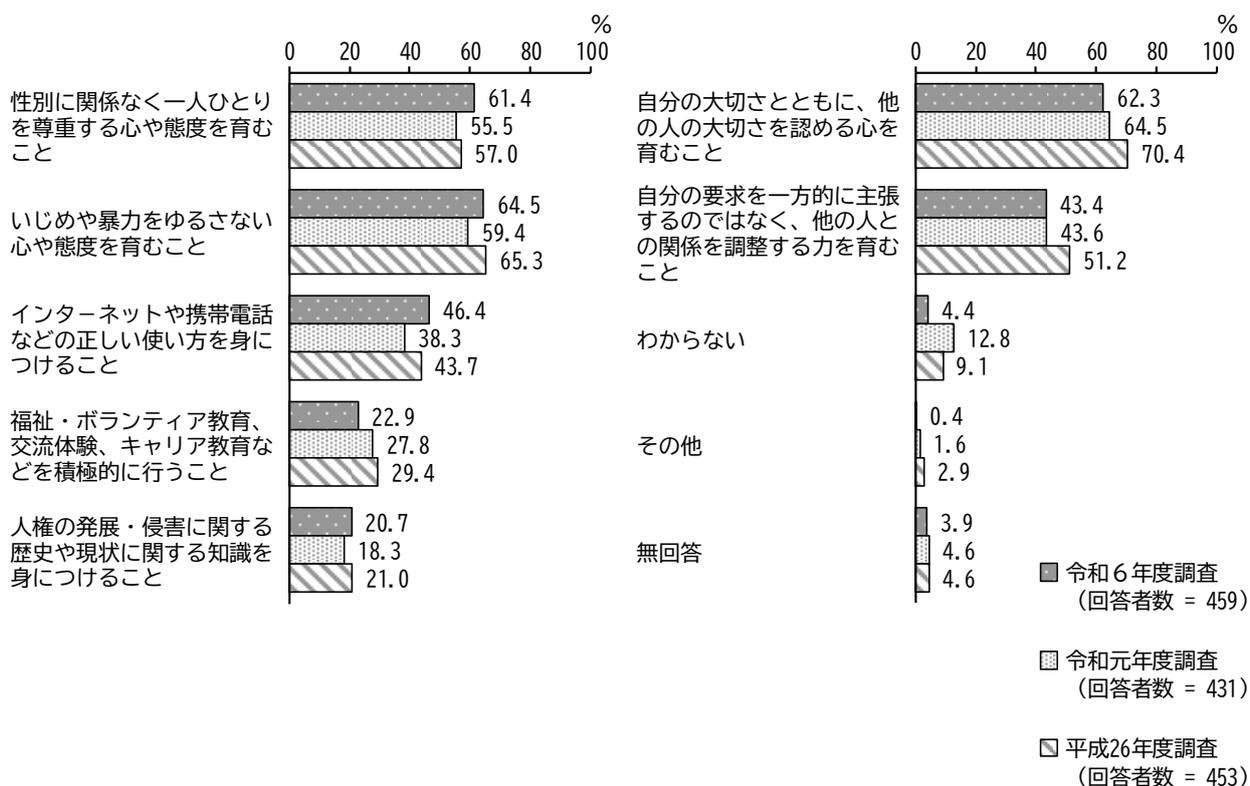
区分	回答者数(件)	学校、職場、地域単位の学習会	教員、市職員向けの学習会	家庭教育の充実	学校教育の充実	広報やホームページなどでの啓発	冊子、資料の作成・配布	人権に関する書道作品や作文などの募集	講演会、シンポジウム、展示会などの開催	啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示	特になし	わからない	その他	無回答
全体	459	44.9	23.7	24.0	40.5	25.1	12.6	4.6	15.9	15.9	2.2	12.4	1.1	6.1
18、19、20歳代	36	52.8	30.6	25.0	33.3	22.2	11.1	5.6	5.6	16.7	—	13.9	5.6	2.8
30歳代	62	48.4	21.0	27.4	48.4	17.7	16.1	—	14.5	19.4	3.2	11.3	1.6	—
40歳代	69	49.3	26.1	23.2	50.7	23.2	8.7	4.3	18.8	7.2	4.3	8.7	2.9	—
50歳代	78	43.6	17.9	17.9	37.2	24.4	11.5	1.3	17.9	16.7	—	15.4	—	3.8
60歳代	106	46.2	33.0	26.4	41.5	26.4	12.3	8.5	17.0	17.9	—	15.1	—	3.8
70歳以上	103	37.9	16.5	24.3	33.0	31.1	14.6	5.8	15.5	17.5	4.9	9.7	—	18.4

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 46 学校における人権教育について、どのようなことが重要だと思いますか。
 «○はいくつでも»

「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」の割合が64.5%と最も高く、次いで「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」の割合が62.3%、「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」の割合が61.4%となっています。

他年度調査と比較すると、「福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育などを積極的に行うこと」「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」「自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」の割合が67.2%と、13.2ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと	いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと	インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること	福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育などを積極的に行うこと	人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと	自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと	わからない	その他	無回答
全体	459	61.4	64.5	46.4	22.9	20.7	62.3	43.4	4.4	0.4	3.9
男性	198	54.0	61.1	44.4	20.7	18.2	56.1	40.4	6.1	0.5	4.0
女性	253	67.2	66.8	48.6	25.3	23.3	66.8	46.2	3.2	0.4	4.0

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと」「いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと」「インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること」の割合が高くなっています。また、50歳代では、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと」の割合が73.1%と高くなっています。

単位：%

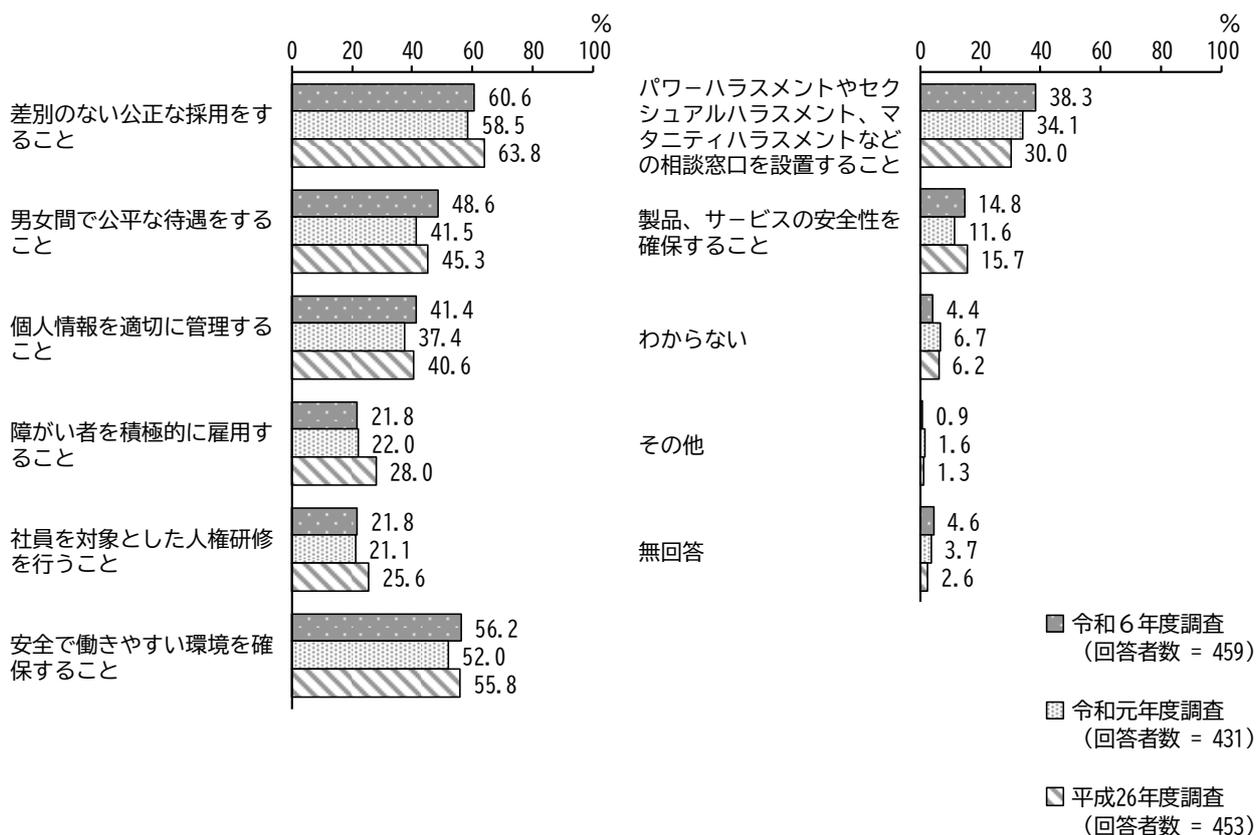
区分	回答者数(件)	性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと	いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと	インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること	福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育などを積極的に行うこと	人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること	自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと	自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと	わからない	その他	無回答
全体	459	61.4	64.5	46.4	22.9	20.7	62.3	43.4	4.4	0.4	3.9
18、19、20歳代	36	66.7	58.3	44.4	11.1	8.3	52.8	27.8	5.6	—	2.8
30歳代	62	74.2	72.6	59.7	22.6	24.2	67.7	56.5	3.2	1.6	—
40歳代	69	68.1	66.7	50.7	34.8	30.4	65.2	53.6	4.3	—	—
50歳代	78	56.4	69.2	47.4	23.1	23.1	73.1	39.7	1.3	—	1.3
60歳代	106	61.3	65.1	50.9	25.5	19.8	58.5	44.3	4.7	0.9	1.9
70歳以上	103	52.4	55.3	32.0	17.5	16.5	54.4	37.9	6.8	—	13.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 47 人権に関する企業の取り組みとしてどのようなことが重要だと思いますか。
 «○はいくつでも»

「差別のない公正な採用をすること」の割合が60.6%と最も高く、次いで「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が56.2%、「男女間で公平な待遇をすること」の割合が48.6%となっています。

他年度調査と比較すると、「パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること」の割合が年々増加しています。一方、「障がい者を積極的に雇用すること」の割合が年々減少しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに「差別のない公正な採用をすること」「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が高くなっており、特に男性に比べ、女性で「差別のない公正な採用をすること」の割合が66.8%と13.3ポイント、「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が61.7%と12.2ポイント高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	差別のない公正な採用をすること	男女間で公平な待遇をすること	個人情報を適切に管理すること	障がい者を積極的に雇用すること	社員を対象とした人権研修を行うこと	安全で働きやすい環境を確保すること	パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること	製品、サービスの安全性を確保すること	わからない	その他	無回答
全体	459	60.6	48.6	41.4	21.8	21.8	56.2	38.3	14.8	4.4	0.9	4.6
男性	198	53.5	48.5	36.4	19.2	18.2	49.5	32.3	14.6	4.5	1.0	5.1
女性	253	66.8	48.6	45.5	24.1	24.1	61.7	43.9	15.4	4.3	0.8	4.0

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「安全で働きやすい環境を確保すること」の割合が72.6%と高くなっています。

単位：%

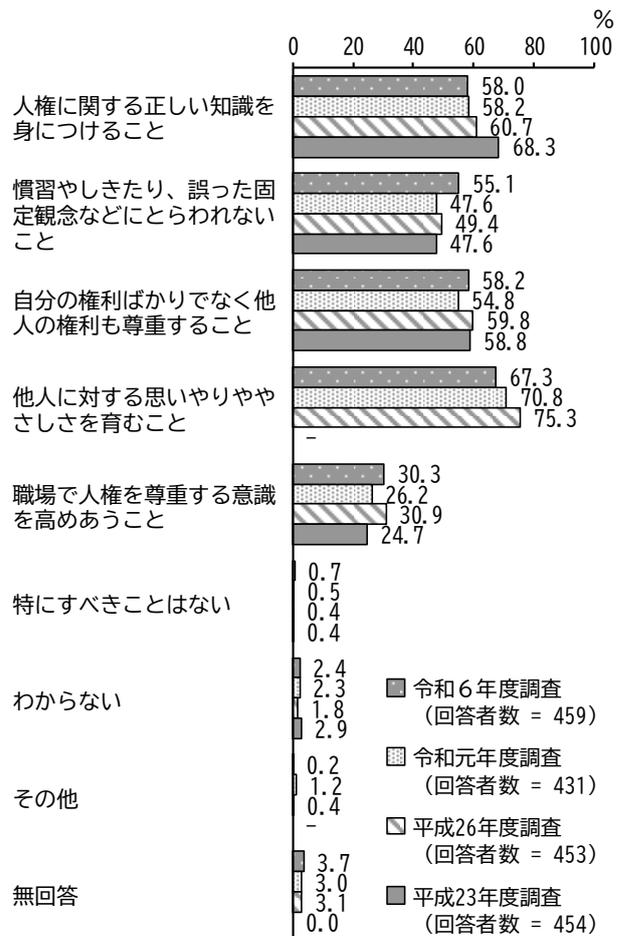
区分	回答者数(件)	差別のない公正な採用をすること	男女間で公平な待遇をすること	個人情報を適切に管理すること	障がい者を積極的に雇用すること	社員を対象とした人権研修を行うこと	安全で働きやすい環境を確保すること	パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること	製品、サービスの安全性を確保すること	わからない	その他	無回答
全体	459	60.6	48.6	41.4	21.8	21.8	56.2	38.3	14.8	4.4	0.9	4.6
18、19、20歳代	36	58.3	50.0	44.4	5.6	11.1	41.7	47.2	11.1	5.6	—	—
30歳代	62	67.7	59.7	46.8	12.9	19.4	72.6	48.4	17.7	3.2	1.6	—
40歳代	69	65.2	47.8	53.6	27.5	27.5	65.2	53.6	24.6	2.9	1.4	1.4
50歳代	78	59.0	46.2	41.0	23.1	26.9	55.1	32.1	15.4	6.4	1.3	1.3
60歳代	106	59.4	49.1	40.6	22.6	24.5	54.7	39.6	10.4	2.8	0.9	2.8
70歳以上	103	58.3	42.7	32.0	28.2	16.5	48.5	24.3	12.6	5.8	—	14.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

問 48 あなたは、市民一人ひとりが互いの人権を尊重するために心掛けたり、行動すべきことはどのようなことだと思いますか。《○はいくつでも》

「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」の割合が67.3%と最も高く、次いで「自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること」の割合が58.2%、「人権に関する正しい知識を身につけること」の割合が58.0%となっています。

他年度調査と比較すると、「人権に関する正しい知識を身につけること」の割合が年々減少しており、平成23年度調査から10.3ポイント減少しています。



※平成23年度調査では、「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」「その他」の選択肢がありませんでした。

【性別】

性別でみると、男女ともに「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」の割合が最も高くなっており、女性の割合は71.5%と、男性に比べ、9.9ポイント高くなっております。また、男性に比べ、女性で「職場で人権を尊重する意識を高めあうこと」の割合が36.8%と14.1ポイント高くなっていきます。

単位：％

区分	回答者数(件)	他人に対する思いやりやさしさを育むこと	職場で人権を尊重する意識を高めあうこと	自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること	慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと	人権に関する正しい知識を身につけること	わからない	その他	無回答
全体	459	71.5	36.8	58.2	55.1	58.0	2.4	0.2	3.7
男性	198	61.6	22.7	61.6	52.5	57.1	2.0	—	3.5
女性	253	71.5	36.8	56.1	57.3	59.7	2.8	0.4	4.0

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「他人に対する思いやりやさしさを育むこと」「人権に関する正しい知識を身につけること」が上位に入っています。

単位：％

区分	回答者数(件)	他人に対する思いやりやさしさを育むこと	職場で人権を尊重する意識を高めあうこと	自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること	慣習やしきたり、誤った固定観念などにとらわれないこと	人権に関する正しい知識を身につけること	わからない	その他	無回答
全体	459	71.5	36.8	58.2	55.1	58.0	2.4	0.2	3.7
18、19、20歳代	36	50.0	16.7	44.4	50.0	47.2	5.6	—	—
30歳代	62	64.5	33.9	64.5	61.3	53.2	3.2	1.6	—
40歳代	69	71.0	40.6	60.9	63.8	68.1	5.8	—	—
50歳代	78	73.1	37.2	51.3	53.8	60.3	2.6	—	1.3
60歳代	106	73.6	27.4	62.3	52.8	59.4	—	—	1.9
70歳以上	103	61.2	25.2	59.2	50.5	56.3	1.0	—	13.6

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

IV 調査票

人権に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

日頃より、市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

瑞浪市の人権に関する施策を総合的、体系的に推進するための方針と基本的施策の方向付けを行う「第2次瑞浪市人権施策推進指針」は、令和7年度をもって計画期間が5年経過することから中間見直しを行い、これまでの取り組み状況を踏まえ、市民を対象とした人権に関する意識調査を実施します。

つきましては、今後の人権啓発・人権教育の参考とさせていただくため、市民の皆さまに人権についてのお考えを聞かせていただくことといたしました。

この調査は、瑞浪市在住の18歳以上90歳未満の方の中から無作為に1,000名を選び、アンケートにお答えいただく方法により実施いたします。その一人として、あなたにお願いすることになりましたが、あなたのお名前やご回答の内容が公表されることは決してございません。また、調査目的以外には絶対に使用しませんので、日頃のお考えを率直にお聞かせください。

ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年9月

瑞浪市長 水野 光二

ご記入にあたってのお願い

1. アンケートには、封筒の宛名の方ご本人がご回答ください。記入が困難な場合は、ご家族が代わりにご記入いただいても結構です。
2. 回答は選択方式です。あてはまる番号を○印で囲んでください。
3. 記入後は無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、**9月30日(月)**までにポストに投函してください。(切手は不要です)
4. WEBで回答する場合は、右横の二次元コードから専用フォームにアクセスしてください。
URL: <https://questant.jp/q/XW66BNAR>
ID: ****



※IDは二重回答を防ぐために使用するもので、回答者を特定するものではありません。

■調査に関する問い合わせ

瑞浪市 みすなみ未来部 市民協働課
☎0572-68-9756 (直通)

あなた自身について

問1 あなたの性別を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | | |
|------|------|------------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他※ () |
|------|------|------------|

※性別の「3. その他」とは、性的マイノリティ（性のあり方が多数派とは異なる人、性的少数者）を考慮した選択肢です。戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観によりご記入ください。

問2 あなたの年齢を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | | |
|--------------|--------|---------|
| 1 18、19、20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |

問3 あなたの職業を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | |
|--|-------------------|
| 1 自営業、経営者（農林水産業・商工・サービス業自由業等個人事業主と家族従業員、会社経営者など） | |
| 2 正規の職員、従業員（会社員・公務員など） | 3 パート、アルバイト（内職含む） |
| 4 学生 | 5 家事専業（主婦・主夫） |
| 6 無職 | |
| 7 その他（具体的に： _____） | |

問4 あなたの家族構成を教えてください。

《○は1つだけ》

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 一世代世帯（夫婦のみ） |
| 3 二世代世帯（親とその子ども） | 4 三世代世帯（祖父母と親とその子ども） |
| 5 その他（具体的に： _____） | |

人権全般について

問5 あなたの人権に対する考えに最も近いものはどれですか。

《○は1つだけ》

- | | |
|---|--|
| 1 一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない | |
| 2 一人ひとりの人権は大切だが、社会生活においてはある程度の制約もやむをえない | |
| 3 人権の名のもとに権利の濫用 ^{らんよう} が見られるので、むしろ制限すべきだ | |
| 4 その他（具体的に： _____） | |

問6 あなたは、次の人権問題に、どの程度関心を持っていますか。

次にあげる①～⑰のすべてにお答えください。

《各項目の「1 2 3 4」のうち1つに○》

	非常に 関心 がある	多少 関心 がある	あまり 関心 がない	全く 関心 がない
① 女性の人権問題	1	2	3	4
② 子どもの人権問題	1	2	3	4
③ 高齢者の人権問題	1	2	3	4
④ 障がい者の人権問題	1	2	3	4
⑤ 同和問題（部落差別）	1	2	3	4
⑥ 外国人の人権問題* ¹	1	2	3	4
⑦ 感染症患者など* ² の人権問題	1	2	3	4
⑧ インターネット* ³ を悪用した人権侵害	1	2	3	4
⑨ 性的指向* ⁴ 、ジェンダーアイデンティティ* ⁵ を理由とする人権問題	1	2	3	4
⑩ 刑を終えて出所した人の人権問題	1	2	3	4
⑪ 犯罪被害者とその家族の人権問題	1	2	3	4
⑫ 災害時の人権問題	1	2	3	4
⑬ 働く人の人権問題	1	2	3	4
⑭ アイヌ* ⁶ の人々の人権問題	1	2	3	4
⑮ ホームレス* ⁷ の人権問題	1	2	3	4
⑯ 北朝鮮による拉致問題	1	2	3	4
⑰ 人身取引* ⁸ に関する人権問題	1	2	3	4

*1 ヘイトスピーチ（特定の国の出身者であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなどの一方的な内容の言動）を含む

*2 エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病患者など

*3 パソコン、スマートフォンなど

*4 異性愛、同性愛、両性愛など

*5 「からだの性」と「こころの性」が一致しないこと

*6 主に北海道に居住している先住民族

*7 定まった住居を持たず、公園・路上を生活の場とする人

*8 性的搾取や強制労働、臓器売買を含む

問7 あなたは、過去5年間に、「差別をされた」と思ったことがありますか。また、それはどのような内容でしたか。

1	ある	2	ない
↓		→	
《○はいくつでも》		問8へ	
1	年齢について	2	学歴・出身校について
3	職業について	4	収入・財産について
5	家柄について	6	性別について
7	出身地について	8	容姿について
9	思想・信条について	10	宗教について
11	人種・民族・国籍について	12	病気・心身障がいについて
13	家族構成について（母子・父子家庭、両親なしなど）		
14	その他（具体的に：		

問8 あなたは、過去5年間に、「人権を侵害された」と感じたことがありますか。また、それはどのような内容でしたか。

1	ある	2	ない
↓		→	
《○はいくつでも》		問9へ	
1	あらぬ噂、他人からの悪口、陰口	2	名誉・信用のき損、侮辱
3	他人からの暴力、脅迫、強要	4	プライバシーの侵害（職場、家庭、地域）
5	虐待	6	いじめ
7	地域での差別待遇	8	家庭での差別待遇
9	学校での差別待遇	10	職場での差別待遇
11	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）		
12	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）		
13	ストーカー（つきまとい）行為		
14	その他（具体的に：		

問9 もし差別や人権侵害を受けた場合、あなたはどのような対応をしますか。

《○はいくつでも》

1	黙って我慢をする	→	問10へ	2	相手に抗議をする
3	家族に相談をする	4	友人に相談をする		
5	職場の人や学校の先生などに相談をする	6	区長や民生委員などに相談をする		
7	弁護士に相談をする	8	法務局や人権擁護委員に相談をする		
9	県や市役所などに相談をする	10	警察に相談をする		
11	新聞やテレビなどマスコミに訴える				
12	その他（具体的に：				

問 10 問9で「1 黙って我慢をする」を選択した方にお尋ねします。それはなぜですか。

《○は1つだけ》

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 相談できる相手がいない | 2 どこに相談したらよいかわからない |
| 3 相談しても解決しないと思う | 4 相談費用がない |
| 5 相談する勇気がない | 6 特に理由はない |
| 7 その他 {具体的に: | } |

問 11 あなたの身近で一人ひとりの人権は守られていると思いますか。

《○は1つだけ》

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えばそう思う |
| 3 どちらかと言えばそうは思わない | 4 そうは思わない |
| 5 どちらともいえない | 6 わからない |

女性の人権について

問 12 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- | | |
|---|---|
| 1 「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること | |
| 2 役員や伝統行事への女性の参加制限といった慣習やしきたりが地域に残っていること | |
| 3 商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などをむやみに使用していること | |
| 4 方針や意思決定の場に女性が十分参画していない、または参画できないこと | |
| 5 セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ） | |
| 6 配偶者や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス） | |
| 7 売春・買春、援助交際などがあること | |
| 8 家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと | |
| 9 職場において、採用や昇進、昇格などで男女の待遇に差があること | |
| 10 差別的な発言を受けること | |
| 11 マタニティハラスメント（妊娠・出産・育児をきっかけとした嫌がらせ） | |
| 12 特に問題があるとは思わない | |
| 13 わからない | |
| 14 その他 {具体的に: | } |

問 13 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- | | | |
|----|---|---------------|
| 1 | 女性の人権に関する相談体制を充実させる | |
| 2 | 男女平等の意識を確立するための啓発活動を推進する | |
| 3 | 学校や社会教育の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる | |
| 4 | 家庭や地域、職場における慣習やしきたり、性別による固定的な役割分担意識などを見直す | |
| 5 | 方針や意思決定の場への女性の参画を促進する | |
| 6 | 女性に対する暴力などの犯罪の防止と取締りを強化する | |
| 7 | 仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図る | |
| 8 | 男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する | |
| 9 | 職場において、採用や昇進、昇格などの男女の待遇の差をなくす | |
| 10 | 特に必要だと思うことはない | |
| 11 | わからない | |
| 12 | その他 | （具体的に： _____） |

子どもの人権について

問 14 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- | | | |
|----|--|---------------|
| 1 | 暴力や仲間はずれ、無視、容姿に関する悪口などのいじめを行うこと | |
| 2 | いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりすること | |
| 3 | 暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること | |
| 4 | 進路や就職先の選択などにおいて、保護者が子どもの意見を聞かないこと | |
| 5 | 教師が体罰や差別的な扱いを行うこと | |
| 6 | 成績や学歴だけで子どもを判断すること | |
| 7 | 暴力や性などの有害な情報（出会い系サイト、ポルノ雑誌など）がたくさんあること | |
| 8 | 児童買春、援助交際などの犯罪があること | |
| 9 | 特に問題があるとは思わない | |
| 10 | わからない | |
| 11 | その他 | （具体的に： _____） |

問 15 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- 1 子どもの人権に関する相談体制を充実させる
- 2 子どもの人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 保護者の家庭でのしつけや教育力を向上させる
- 4 学校教育における人権教育を充実させるため、教員など指導者の資質を高める
- 5 学校において、いじめの防止に対する取り組みを強化する
- 6 子どもに対する虐待や育児放棄の防止に取り組む
- 7 インターネットや携帯電話の正しい使い方の指導や利用の制限をする
- 8 児童買春、児童ポルノなどの取り締まりを強化する
- 9 特に必要だと思うことはない
- 10 わからない
- 11 その他 { 具体的に： }

問 16 あなたが児童虐待を発見したらどうしますか。

《○はいくつでも》

- 1 学校や幼稚園、市の福祉窓口、県の子ども相談センターなどに知らせる
- 2 民生委員・児童委員に知らせる
- 3 警察に知らせる
- 4 家族や友人、近所の人に相談する
- 5 虐待をしている人に注意する
- 6 虐待を受けている子どもに声をかける
- 7 法務局や人権擁護委員に知らせる
- 8 どうしたらよいのかわからない
- 9 何もしない
- 10 その他 { 具体的に： }

高齢者の人権について

問 17 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 経済的に自立が困難なこと
- 2 働く能力を発揮する機会が少ないこと
- 3 悪徳商法や詐欺の被害が多いこと
- 4 病院や介護施設において、嫌がらせや虐待を受けること
- 5 家庭内での看護や介護において、嫌がらせや虐待を受けること
- 6 高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること
- 7 高齢者の意見や行動を尊重しないこと
- 8 食料品や日用品などの日常の買い物が困難なこと
- 9 道路の段差や駅の階段など外出に支障があること
- 10 特に問題があるとは思わない
- 11 わからない
- 12 その他 { 具体的に： }

問 18 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 高齢者の人権に関する相談体制を充実させる2 高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する3 高齢者が経験を牛かして働ける機会を確保する4 高齢者が知識や経験を牛かして活躍できる、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす5 年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実させ、高齢者が自立して生活できる環境を整備する6 高齢者をねらった犯罪の防止など、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる7 高齢者と他の世代との交流を促進する8 高齢者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する9 特に必要だと思うことはない10 わからない11 その他 { <small>具体的に：</small> } |
|---|

障がい者の人権について

問 19 国では、平成 28 年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、「障害者差別解消法」(*)と言います。）が施行されました。あなたは、この法律を知っていますか。

《○は1つだけ》

- | |
|--|
| <p>1 内容を含めて知っている 2 名前は知っている 3 内容も名前も知らない</p> |
|--|

(*) 障害者差別解消法は、一人ひとりが障がいについて理解し、障がいを理由とした不当な区別や制限といった差別に気付き、障がいのある人もない人も分け隔てなく共に安心して暮らせる社会（＝共生社会）を実現することを目的として、障がいのある人に対する、行政機関（国・都道府県・市町村）や民間事業者（会社やお店等）による「不当な差別的取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」について定められています。

問 20 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること2 生活を支援する福祉サービスが十分でないこと3 スポーツ活動や文化活動などへの参加に配慮がされていないこと4 就労の機会が少なく、職種もかぎられていることや不利な扱いをされること5 悪徳商法や詐欺の被害が多いこと6 障がい者の暮らしに適した住宅が少ないこと7 道路の段差や駅の階段など外出に支障があること8 結婚に際し周囲に反対されること9 差別的な発言を受けること10 特に問題があるとは思わない11 わからない12 その他 { <small>具体的に：</small> } |
|--|

問21 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は3つまで》

- | |
|--------------------------------------|
| 1 障がい者の人権に関する相談体制を充実させる |
| 2 障がい者の人権を守るための啓発活動を促進する |
| 3 福祉サービスの拡充や入所施設を整備する |
| 4 障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する |
| 5 障がい者の財産保全や管理のための公的サービスを提供する |
| 6 障がい者の就労機会を確保する |
| 7 障がいがある人とない人との交流を促進する |
| 8 障がい者が安心して外出できるよう、建物や公共交通機関の整備を促進する |
| 9 特に必要だと思うことはない |
| 10 わからない |
| 11 その他 <small>（具体的に：</small> |

同和問題（部落差別）について

問22 あなたは「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」(*)を知っていますか。

《○は1つだけ》

- | | | |
|---------------|------------|--------------|
| 1 内容を含めて知っている | 2 名前は知っている | 3 内容も名前も知らない |
|---------------|------------|--------------|

(*)「部落差別解消法推進法」は、部落差別のない社会の実現を目指し、平成28年12月に施行されました。部落差別の解消に関する施策は、その必要性について国民一人一人の理解を深めながら、行わなければなりません。また、教育や啓発など、具体的な施策の実施に当たっては、地域社会の実情を踏まえるとともに、新たな差別を生むことがないように留意することが求められています。

問23 あなたが同和問題（部落差別）や同和地区について、はじめて知ったきっかけは何ですか。

《○は1つだけ》

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 家族や親戚の人から聞いた | 2 近所の人から聞いた |
| 3 職場の人から聞いた | 4 学校の友達から聞いた |
| 5 学校の授業で教わった | 6 テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った |
| 7 同和問題（部落差別）の集会や研修会で知った | 8 県や市町村の広報紙や冊子などで知った |
| 9 インターネットで知った | 10 覚えていない |
| 11 同和問題（部落差別）や同和地区のことを知らない | |
| 12 その他 <small>（具体的に：</small> | |

問24 同和問題（部落差別）について、あなたはどう考えますか。

《○は1つだけ》

- 1 問題の解決のために努力したい
- 2 とても難しい問題なので、できるだけ避けていきたい
- 3 同和地区の人々の問題であり、自分には関係ない
- 4 あまりさわがず、そっとしておけばよい
- 5 特に興味はない
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に： _____）

問25 同和問題（部落差別）について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 2 誤った偏見から交際を避けること
- 3 えせ同和行為*1があること
- 4 結婚に際し周囲に反対されること
- 5 結婚や就職の際に身元調査をすること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に： _____）

*1 同和問題（部落差別）を口実として行われる不法、不当な要求や行為

問26 あなたのお子さんが（いらっしゃらない場合は、いると仮定してお考えください）、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか。

《○は1つだけ》

- 1 同和地区の人であるかないかは関係なく、祝福する
- 2 自分としてはこだわりがあるが、子どもの意志を尊重して認める
- 3 家族・親戚などの反対があれば、認めない
- 4 自分は反対であり、絶対に認めない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に： _____）

外国人の人権について

問 27 日本に居住する外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- 1 外国人についての理解や認識が十分でないこと
- 2 住宅を容易に借りることができないこと
- 3 言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと
- 4 外国人の子どもに対し、自国の言葉での教育が行われていないこと
- 5 日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を入手しにくいこと
- 6 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 7 結婚に際し周囲に反対されること
- 8 差別的な発言を受けること（ヘイトスピーチを含む）
- 9 特に問題があるとは思わない
- 10 わからない
- 11 その他 （具体的に：

感染症患者などの人権について

問 28 感染症患者などの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 感染症患者などについての理解や認識が十分でないこと
- 2 宿泊施設、店舗、アパートなどへの入店や入居、施設利用を断られること
- 3 病院での治療や入院を断られること
- 4 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
- 5 結婚に際し周囲に反対されること
- 6 差別的な発言を受けること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他 （具体的に：

問 29 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は3つまで》

- | | |
|----|--|
| 1 | 医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること |
| 2 | 医療機関やその従事者、家族が出勤、登校等を拒否されること |
| 3 | 感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること |
| 4 | 感染者やその家族が出勤、登校等を拒否されること |
| 5 | 感染者が発生した学校・店舗やその関係者等が誹謗中傷を受けたり、営業が妨げられたりすること |
| 6 | 感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること |
| 7 | 外国人であることを理由として、不当な取り扱いをされること |
| 8 | 県外居住者や県外からの移動者が嫌がらせを受けたり、非難されたりすること |
| 9 | 様々な事情により感染者対策等（マスクの着用、ワクチン接種等）をとれない・とらない人が不当な取り扱いをされたり、誹謗中傷を受けたりすること |
| 10 | 特に問題があると思うことはない |
| 11 | わからない |
| 12 | その他 <small>（具体的に：</small> |

問 30 あなたの職場や地域に感染症患者などがある場合、あなたはどのような態度で接すると思いますか。

《○は1つまで》

- | | | | |
|---|---------------------------|---|------------------|
| 1 | その人のために何か支援しようと思う | 2 | 今までどおり、普通に接すると思う |
| 3 | なるべく関わりたいくないと思う | 4 | 絶対関わりたいくないと思う |
| 5 | わからない | | |
| 6 | その他 <small>（具体的に：</small> | | |

インターネットによる人権侵害について

問31 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 他人への誹謗中傷（ひどい悪口）や差別を助長する情報を掲載すること
- 2 SNSにおける交流や出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
- 3 犯罪捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載すること
- 4 インターネットを介した詐欺や悪質商法による被害が起きていること
- 5 個人情報などが流出していること
- 6 ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在していること
- 7 特に問題があるとは思わない
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に： _____）

問32 インターネットによる人権侵害を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる
- 2 インターネット利用者やプロバイダ等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する理解を深めるための教育・啓発活動を推進する
- 3 企業などが個人情報保護法を正しく理解し、適切な安全対策を講ずる
- 4 プロバイダ*1などに対し、情報の停止・削除を求める
- 5 違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する
- 6 学校教育の中で、情報モラルについての教育を充実させる
- 7 特に必要だと思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に： _____）

*1 インターネットへの接続サービスを提供する会社

**性的指向（同性愛、両性愛など）、ジェンダーアイデンティティ
（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）を理由とする人権問題**

問 33 性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 ジェンダーアイデンティティの異なる人に対する社会的理解度が低いため、世間から誤解又は好奇、偏見の目で見られること 2 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれていること 3 地域社会・職場・家庭・学校などで孤立、排除されること 4 嫌がらせをされたり、蔑称で呼ばれるなど冷やかしの対象となること 5 性別変更などの法律が不十分なこと 6 トイレ、服装、言葉づかいなど自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されること 7 提出書類等に性別の記入を求められること 8 告白した後の周囲の態度の変化、又は周囲への告白の強要があること 9 セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ） 10 同性のパートナーとの関係が認められていないこと 11 アウティング（性的指向やジェンダーアイデンティティについて本人に無断で他人に伝えられること）の被害にあうこと 12 特に問題があると思うことはない 13 わからない 14 その他（具体的に： _____） |
|--|

問 34 性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 教育・啓発活動を推進する 2 相談・支援を充実させる 3 パートナーシップ（宣誓）制度*1など、同性カップルを公認する制度をつくる 4 法的認知・保護を行う 5 性的指向、ジェンダーアイデンティティの異なる人とその支援者の活動を支援する 6 専門医や専門的な医療機関について情報提供する 7 特に必要だと思わない 8 わからない 9 その他（具体的に： _____） |
|---|

*1 パートナーシップ(宣誓)制度とは、地方自治体が同性のカップルを婚姻に相当する関係と認め、自治体独自に証明する制度(46 府県、458 市町村で導入。令和 6 年 6 月 28 日現在)。公的な証明によりパートナーであることが公に認められ、公営住宅の入居や医療機関での面会、携帯電話の家族割などの民間サービスが受けられることがあります。

問 35 同性カップルは、夫婦に準じる共同生活を送りながらも、法律で婚姻が認められていないため、二人の関係を対外的に証明する手段が乏しく、生きづらさを抱えています。こうした状況の改善に向けた取り組みの一つとして、全国の自治体では「パートナーシップ(宣誓)制度」が導入されています。あなたは、「パートナーシップ(宣誓)制度」を知っていますか。

《○は1つだけ》

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 36 あなたは「岐阜県パートナーシップ(宣誓)制度(令和5年9月1日開始)」を知っていますか。

《○は1つだけ》

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

※瑞浪市において、岐阜県パートナーシップ(宣誓)制度を利用できるサービスがあります。

刑を終えて出所した人の人権について

問 37 罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会復帰を図ろうとした場合、どのような問題があると思いますか。

《○は2つまで》

- | |
|---------------------------------|
| 1 更生した人たちに対する誤解や偏見があること |
| 2 インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること |
| 3 住宅を容易に借りることができないこと |
| 4 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること |
| 5 結婚に際し周囲に反対されること |
| 6 差別的な発言を受けること |
| 7 特に問題があるとは思わない |
| 8 わからない |
| 9 その他 (具体的に:) |

問 38 日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人が刑を終えて出所した人であると分かったとき、あなたはどうしますか。あなたのお気持ちにいちばん近いものはどれですか。

《○は1つまで》

- | |
|-----------------------------|
| 1 これまでと同じように、親しくつきあっていく |
| 2 つきあいはわからないが、いろいろ気をつけてつきあう |
| 3 表面上はつきあうが、できるだけつきあいをさけていく |
| 4 つきあいをやめてしまう |
| 5 わからない |
| 6 その他 (具体的に:) |

問 39 刑を終えて出所した人たちが社会に復帰するのを援助する「更生保護」活動をしている人たちがいます。もし、「更生保護」活動をしませんかと呼びかけられたら、あなたはどうしますか。

《○は1つまで》

- 1 更生保護活動は大切な仕事であり、そういう仕事を自分もしたいと思う
- 2 更生保護活動をする人は立派だと思うが、自分にはできない
- 3 犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない
- 4 特に関心がない
- 5 わからない
- 6 その他 (具体的に:)

犯罪被害者とその家族の人権について

問 40 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 犯罪行為によって、精神的なショックを受けること
- 2 犯罪行為によって、経済的な負担を受けること
- 3 事件に関して、周囲にうわさ話をされること
- 4 警察に相談しても、期待どおりの結果を得られないこと
- 5 捜査や刑事裁判において、精神的な負担を受けること
- 6 刑事裁判手続きに、必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
- 7 取材や報道によってプライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなる
- 8 特に問題があるとは思わない
- 9 わからない
- 10 その他 (具体的に:)

問 41 犯罪被害者とその家族の人権を尊重するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

《○は2つまで》

- 1 犯罪被害者とその家族の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
- 2 犯罪被害者とその家族のための相談・支援体制を充実させる
- 3 犯罪被害者とその家族のために経済的な支援を行う
- 4 精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う
- 5 捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる
- 6 犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う
- 7 特に必要だと思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

災害時の人権問題について

問 42 近年頻発している地震などの大規模災害により被災した人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

《○は2つまで》

- 1 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
- 2 被災者が居住の自由を奪われていること
- 3 住宅を容易に借りることができないこと
- 4 宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否されること
- 5 学校、幼稚園などへの入学や入園を拒否されること
- 6 長期化する避難生活からのいさかいや虐待
- 7 差別的な発言を受けること
- 8 特に問題があるとは思わない
- 9 わからない
- 10 その他 (具体的に:)

問 43 大規模災害が起きた場合、どのような人権問題が起きると思いますか。

《○は2つまで》

- 1 避難生活でプライバシーが守られないこと
- 2 避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやいさかいが生じること
- 3 要支援者（障がい者、高齢者、乳幼児、妊産婦等）に対して十分な配慮が行き届かないこと
- 4 女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと
- 5 デマ・風評などによる差別的な言動が起きること
- 6 支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと
- 7 特に問題があると思うことはない
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

人権教育・人権啓発の方法について

問 44 瑞浪市が行っている人権に関する取り組みについて、あなたが知っているものはどれですか。

《○はいくつでも》

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 人権啓発講演会の開催（令和5年度講師：ジャーナリスト 石川結貴氏など） |
| 2 | 同和教育パンフレット（小学校で配布） |
| 3 | 広報みずなみの啓発記事（ちょっといい話・人権書道展・人権週間など） |
| 4 | 市ホームページの啓発記事 |
| 5 | 人権書道展 |
| 6 | 「ちょっといい話」の募集 |
| 7 | 瑞浪市人権施策推進指針 |
| 8 | 弁護士による無料法律相談*1 |
| 9 | 人権擁護委員による人権・こまりごと相談 |
| 10 | 市民相談室（市役所1階 市民相談室 及び 西分庁舎1階 市民協働課内） |
| 11 | 知っているものはない |
| 12 | その他（具体的に： _____） |

*1 毎月第1火曜・第3木曜日（予約制）

問 45 人権教育・啓発を推進するためには、どのような方法が効果的だと思いますか。

《○はいくつでも》

- | | | | |
|----|--------------------|---|---------------------|
| 1 | 学校、職場、地域単位の学習会 | 2 | 教員、市職員向けの学習会 |
| 3 | 家庭教育の充実 | 4 | 学校教育の充実 |
| 5 | 広報やホームページなどでの啓発 | 6 | 冊子、資料の作成・配布 |
| 7 | 人権に関する書道作品や作文などの募集 | 8 | 講演会、シンポジウム、展示会などの開催 |
| 9 | 啓発ポスター、チラシなどの作成・掲示 | | |
| 10 | 特にない | | |
| 11 | わからない | | |
| 12 | その他（具体的に： _____） | | |

問 46 学校における人権教育について、どのようなことが重要だと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 性別に関係なく一人ひとりを尊重する心や態度を育むこと
- 2 いじめや暴力をゆるさない心や態度を育むこと
- 3 インターネットや携帯電話などの正しい使い方を身につけること
- 4 福祉・ボランティア教育、交流体験、キャリア教育*1などを積極的に行うこと
- 5 人権の発展・侵害に関する歴史や現状に関する知識を身につけること
- 6 自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心を育むこと
- 7 自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との関係を調整する力を育むこと
- 8 わからない
- 9 その他 (具体的に:)

*1 社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身につける教育

問 47 人権に関する企業の取り組みとしてどのようなことが重要だと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 差別のない公正な採用をすること
- 2 男女間で公平な待遇をすること
- 3 個人情報適切に管理すること
- 4 障がい者を積極的に雇用すること
- 5 社員を対象とした人権研修を行うこと
- 6 安全で働きやすい環境を確保すること
- 7 パワーハラスメント*1やセクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントなどの相談窓口を設置すること
- 8 製品、サービスの安全性を確保すること
- 9 わからない
- 10 その他 (具体的に:)

*1 職務上の地位や優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為

問 48 あなたは、市民一人ひとりが互いの人権を尊重するために心掛けたり、行動すべきことはどのようなことだと思いますか。

《○はいくつでも》

- 1 人権に関する正しい知識を身につけること
- 2 慣習やしきたり、誤った固定観念などにとられないこと
- 3 自分の権利ばかりでなく他人の権利も尊重すること
- 4 他人に対する思いやりややさしさを育むこと
- 5 職場で人権を尊重する意識を高めあうこと
- 6 特にすべきことはない
- 7 わからない
- 8 その他 (具体的に:)

人権問題についてご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケートは、返信用封筒に入れ、9月30日(月)までに
ポストに投函してください。なお、切手を貼る必要はありません。

■調査に関する問い合わせ

瑞浪市 みすなみ未来部 市民協働課
☎0572-68-9756 (直通)

人権に関する市民意識調査
報 告 書

発行 令和7（2025）年3月

瑞浪市役所 みずなみ未来部 市民協働課
〒509-6195 岐阜県瑞浪市上平町1丁目1番地
TEL 0572-68-2111 FAX 0572-68-2132